

名稱	種別	所在地名	業創年月	支店數	資本金	株主	役員	職工	雇人	營業收入		營業支出	
										金額	單位	金額	單位
合計													
何陸	何陸	何陸	何陸	何陸	何陸	何陸	何陸	何陸	何陸	何陸	何陸	何陸	何陸
陶器販賣	養蠶	開墾	耕作										
陸運	蠶	壑	作										
々々	々々	々々	々々										

一本表ハ農商業ノ爲メ特ニ一場ヲ設ケ二人以上資本金ヲ合セ損益ヲ共ニスル會社ハ勿論組合會所及ヒ一己人ノ資金ヲ以テスト雖トモ亦一場ヲ設ケ會社組合會等ノ名義ヲ用ヒ其事業ヲ營ムモノハ各農商ニ區別シテ之ヲ調査スルモノトス

一諸會社ノ中製造所ヲ所有シテ商工ヲ兼タルモノハ其重モナルモノニ從ヒテ本表商業ノ部或ハ次表工業ノ部ニ記入スヘシ例ヘハ工場ヲ所有スト雖トモ他ノ製造品ヲ仕入レテ之ヲ販賣スルヲ自己ノ製造品ヨリ多キモノハ本表商業ノ部中ニ記入スヘシ

一名稱ノ欄ニハ何會社又ハ何組ト各其名稱ヲ記入スヘシ

一雇人ノ欄ニハ常ニ使役スル小使人足荷造人等ヲ記入シ又農作人ノ類ハ雇人ノ欄ニ記入スヘシ

一收入支出金ノ部ニハ其年中ノ營業ニ關スル者ノミヲ記載シ興業費ハ記載スヘカラス

一耕作、開墾、養蠶、製茶、牧畜、山林、漁獵等ニ係ルモノハ農業ノ部中ニ記入物品賣買、陸運、保險等ニ係ルモノハ商業ノ部ニ記入スヘシ

一資本金、株主人員ハ十二月末ノ現數ヲ掲ケ役員、職工、雇人ハ毎月末ノ現數ヲ十二ヶ月ヲ以テ平均シタルモノヲ掲ケヘシ但シ季節其他ニ因リ其營業月數一ケ年ニ滿タサルモノハ現ニ營業セシ月數ヲ以テ其平均ヲ掲ケヘシ

一其年中ニ廢業セシモノモ之ヲ調査シ廢業ノ月日ヲ附記スヘシ

一國立銀行、株式取引所、米商會所等政府ノ條例ニ據テ設立セシ會社私立銀行銀行類似會社ハ記入スルニ及ハス

一本表ニ記入シタル陸運會社ニハ更ニ左ノ表ヲ附記スヘシ

陸運會社名	發		荷		着	
	個數	貫	個數	貫	個數	貫
合計						

第二 工業諸會社及諸製造所 (毎年調 報道期翌年三月十五日)

何郡(區)工業諸會社及諸製造所表 明治何年分

名稱	營業種別	所在地名	創業年月	支店數	資本金	株主	役員	職工	雇人

△勸業○農商工通信事務

同 續表

名稱	人力獸力		蒸氣機關		水車		營業	
	風力ノ別	數	馬力	數	馬力	收入金	支出金	製出高代價
						圓	圓	圓

一本表ハ諸製造ノ爲メニ工場ヲ設ケ二人以上資本金ヲ併セ職工雇人ヲ合シ十人以上ヲ使役スル會社組合製造所及ヒ一己人ノ資本金ヲ以テスルモ亦十人以上ヲ使役スル工場ハ之ヲ調査スルモノトス

一諸會社ノ中商工ヲ兼タル者ノ記入方ハ前表ノ例ニ從フ

一名稱ノ欄ヘハ何會社何組何工場ト各其名稱ヲ記入スヘシ但名稱ナキモノハ持主ノ姓名ヲ記スヘシ

一雇人ノ欄ヘハ小使人足荷造人等總テ使役スルモノヲ記入スヘシ

一收入支出金ノ欄ヘハ營業ニ關スル其年中ノ收入支出金ヲ記載シ興業費ハ記載スヘカラス

一土木、坑業ノ類ハ本表中ニ記入シ國稅ヲ課スヘキ醸造業費記入スルニ及ハス

一資本金、株主人員、蒸氣機關及水車ハ十二月末ノ現數ヲ掲ケ人力獸力風力ノ別ノ欄ヘハ人力或ハ獸力等ノ如ク其種類ヲ記入シ蒸氣力水力ヲ用ユルモノハ蒸氣機關ノ數及

馬力水車ノ數及馬力ヲ記入シ役員職工雇人ハ毎月末ノ現數ヲ十二月ヲ以テ平均シタルモノヲ掲ケ全延人員ハ一ケ年間ノ延人員ヲ掲ケヘシ但季節其他ニ依リ其營業月數一ケ年ニ滿タサルモノハ現ニ營業セシ月數ヲ以テ其平均ヲ掲ケヘシ

一其年中ニ廢業セシモノモ之ヲ調査シ廢業ノ月日ヲ附記スヘシ

一製出高中數個ヲ合シ一組トナスモノハ一組ヲ以テ一個ト算スヘシ尤モ一個ハ若干數ヲ以テ一個タル旨ヲ表尾ニ付記スヘシ

一本表製出高ハ各種類ニ從ヒ工業ノ部第一表製作及製造品表ヘモ合記スヘシ

第三 水運會社 (每年調 報定期翌年三月十五日)

何郡(區)水運會社表

明治何年分

名稱	所割資支株役技水雇		地年本主人員員夫人		名月金數員員		名月金數員員	
	名	地	年	本	人	員	員	夫人
蒸氣船	船數	噸	以上	未滿	噸	噸	噸	噸
西洋形帆船	船數	噸	以上	未滿	噸	噸	噸	噸
日本形船	船數	石	以上	未滿	石	石	石	石
發荷	個	貫						
着荷	個	貫						
營業	收入	金						
營業	支出	金						
合計								
合計								
合計								

一本表ハ水運業ノ爲メ特ニ一社ヲ設ケ二人以上資本金ヲ合セ損益ヲ共ニスルモノハ勿論一已人ノ資本金ヲ以テスト雖トモ亦會社組合等ノ名義ヲ用ヒ其事業ヲ營ムモノヲ調査スルモノトス

一名稱ノ欄ニハ何會社何組ト各其名稱ヲ記入スヘシ

一收入支出金ノ欄ヘハ營業ニ關スル其年中ノ收入支出金ヲ記載シ興業費ハ記載スヘカラス

一資本金、支店數、株主人員及ヒ船舶ハ十二月末ノ現數ヲ掲ケ役員、技術員、水夫、雇人ハ毎月末ノ現數ヲ十二月月ヲ以テ平均シタルモノヲ掲ケヘシ

一年中ニ廢業セシモノモ之ヲ調査シ廢業ノ月日ヲ附記スヘシ

○勸業諸會部

第一 勸業諸會表

第一 勸業諸會

(毎年調 報道期翌年三月十五日)

何郡(區)勸業諸會表		明治何年分	
會名	開會度數	開會日數	會員ノ數
勸業會			
農會			
商會			
工業會			
何同業會			
合計			

- 一會員ノ數ハ出席ノ延人員ヲ記スヘシ
- 一郡區會聯合郡區會町村會聯合町村會等各之ヲ區別スヘシ

○神戸商法會議所規則

●明治二十年二月廿五日告諭第二號

發日神戸區内山川勇木外十六人ヨリ神戸商法會議所設立ノ義出願其本旨タル神戸區内商業ノ隆盛ヲ計圖スルニ在リテ公衆ノ爲メ有益ナル事業ト認メタルヲ以テ認可ヲ與ヘタリ然ルニ今般同所規則別冊ノ通取定度旨願出候ニ付是又認可シタリ抑商法會議所ナル者ハ内外ノ商况ヲ蒐集シ需要供給ノ過不足ヲ審査シ其他金融ノ繁緩利子ノ高低等ヲ研究シ會員各自ノ參考ニ供スルハ勿論一般商業ノ裨益ヲ計ル者ナリ就テハ會社ト云ヒ組合ト云商業ニ從事スルモノハ須ラク同所ノ會員トナリ各自業務ノ發達ヲ資クヘシ

神戸商法會議所規則書

神戸商法會議所規則

第一章

總則

△勸業○神戸商法會議所規則

第一條 本會ハ神戸區ニ於テ之ヲ設立シ神戸商法會議所ト稱ス

第二條 本會ハ神戸區各商業全般ニ關スル利害得失ヲ論議シ之隆盛ヲ圖ルヲ目的トス

第三條 本會ハ商業上ニ關スル利害得失ニ付本會ノ考案ヲ官ニ建議シ若クハ官ヨリ下問アルトキハ之ヲ調査シ或ハ之ヲ會議ニ附シテ奉答スルコトアルヘシ

第四條 本會ハ商業上ニ係リ紛議ヲ醸生シ双方ノ依頼ヲ受クル場合ニ於テハ之レカ仲裁ヲナシ和解ヲ取扱フコトアルヘシ

第五條 本會ハ本區商業金融運轉等ノ景況ヲ調査シ之レカ統計表ヲ製シテ各會員ヘ報告スヘシ

第二章 會員組織

第六條 本會ノ會員ハ組合會員有志會員及ヒ名譽會員ノ三種ヨリ成立ツモノトス

一 組合會員ハ各商組合中ニ於テ一名又ハ數名ヲ撰擧スルモノニシテ其組合ノ委員タル資格ヲ有スル者ヲ云フ

二 有志會員ハ銀行諸會社及ヒ商人ニシテ特ニ會員タランコトヲ希望スルモノヲ云フ但有志會員ハ本會員ノ紹介ヲ以テ本會々頭及ヒ理事ノ許諾ヲ得ルヲ要ス

三名譽會員ハ經濟法律上ノ學術ニ長シ若クハ商業ニ經歷アル者ニシテ本會ノ乞ニ應シ會員タルモノヲ云フ

第七條 會員ハ三種ノ別アリト雖トモ都テ同等ノ資格ヲ有スルモノトス

第八條 會員タルヲ得ルモノハ本區内ニ於テ現ニ商業ヲ營ミ若クハ商業ニ直接ノ關係

ヲ有スル者ニシテ年齡滿廿年以上ノ者ニ限ル

但左ノ諸款ニ觸ル、者ハ會員タルヲ得ス

一 詐欺騙瞞若クハ贓罪ノ刑ニ處セラレタル者

一 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

一 瘋癲白痴ノ者

第九條 會員中不品行破廉恥等ニテ本會ノ名譽ヲ汚スモノハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ退會セシムルヲ得ヘシ

第三章 職員事務

第十條 會員中投票ヲ以テ會頭一名副會頭一名理事五名ヲ撰擧スヘシ

第十一條 會頭ハ本會一切ノ事務ヲ總理シ副會頭ハ之ヲ補佐シ理事ハ庶務ヲ監理ス但 正副會頭理事ハ毎月一回定式集會ヲ開キ事務ノ協議ヲ爲スヘシ

第十二條 書記以下ノ役員ハ會頭之ヲ撰任ス

第十三條 前第三條第四條第五條ノ場合ニ於テ臨時委員ヲ要スル時ハ會員ノ投票又ハ會頭ノ指名ヲ以テ之ヲ撰擧スヘシ

第十四條 正副會頭及ヒ理事ノ任期ハ滿一ケ年トシ毎年一月初會ニ於テ之ヲ改撰ス

第四章 會議

第十五條 總テ會議ハ會頭ノ招集ニ依テ之ヲ開クモノトス

第十六條 會員出席ノ數會頭ヲ加ヘテ總員五分ノ一二滿タサルトキハ其日ノ會議ヲ開

△勸業○神戸商法會議所規則

ヲ得ス

第十七條 會員總數五分ノ一以上ヨリ請求アルトキハ會頭必ス會議ヲ開クヘキ者トス
第十八條 毎年一月總會ヲ開キ前年通常事務ノ成跡ヲ報告シ并ニ本年經費ノ豫算ヲ議定ス

第十九條 議案ハ一週間前ニ之ヲ會員ニ通知スヘシ

但シ特ニ至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第二十條 議長ハ會頭之ニ任ス若シ事故アルトキハ副會頭之ニ代ル

第二十一條 會議ハ傍聽ヲ許スト雖モ會議ノ都合ニ依リ會頭之ヲ拒ムコトアルヘシ

但シ傍聽ヲ許スハ都テ會員ノ紹介アルモノニ限ル

第五章 會計

第二十二條 本會ノ經費ハ毎年豫算ヲ立テ一月ノ總會ニ於テ議定シ之ヲ組合會員及有志

會員ノ人頭ニ割付ケ毎年二月中ニ徵收スルモノトス

第二十三條 本會ノ經費及書記以下役員ノ給料ハ正副會頭理事協議ノ上之ヲ定ル者トス

第二十四條 本會々計收支ノ決算ハ翌年一月ノ總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第六章 規則改正増補

第二十五條 本會規則ノ改正増補ハ必ス一週日前ニ其議案ヲ會員ニ配付シ議決ノ上本縣

知事ノ認可ヲ受クルモノトス

神戸商法會議所議事細則

第一條 凡ソ會議ハ午后四時ニ始マリ午后十時ニ終ルモノトス時宜ヲ以テ之ヲ伸縮スルハ議長ノ指揮ニ依ル

第二條 會員ノ着席順序ハ豫メ圖ヲ以テ之ヲ定メ每會其席ニ着カシム

但議事中ハ姓名ヲ呼バスシテ其番号ヲ呼フヘシ

第三條 議場ニ發言セント欲スル者ハ起立ノ上必ス議長ニ向テ之ヲ述ヘ會員中相對ノ辨論ヲ爲ス可カラス若シ二人以上同時ニ發言者アル時ハ議長ハ其一人ヲシテ發言セシム

第四條 議長ハ必要ナル場合ニ於テハ會員ノ發言ヲ止ムルヲ得

第五條 會議ニ於テハ充分ニ辨論ヲ盡スヲ要スト雖トモ必ス人身上褒貶毀譽ニ涉ルヲ得ズ

第六條 議長發言セント欲スル時ハ副會頭ニ其席ヲ讓リ會員席ニ着キ發言スヘシ副會頭之ヲ辭スル時ハ議長ハ會員中ヨリ一員ヲ命シテ己ニ代ラシメ議決ノ後直チニ議長ノ席ニ復スベシ

第七條 議案ノ可否決ハ多數ノ方ニ決スヘシ若シ兩說同數ナル時ハ議長其一ニ決ス

第八條 會員ハ議案中ノ疑議ヲ質サント欲セバ議長ノ許可ヲ得テ臨席ノ主任委員又ハ建議者ニ其辨明ヲ求ムルヲ得

第九條 議案ノ主旨ヲ可トスルモ其方法ヲ改メザル可カラズト議決スル時ハ議長ハ會員中ヨリ立案委員ヲ撰定セシメ更ニ會議ニ附スルモノトス

△勸業○神戸商法會議所規則

第十條 議案ノ惣体ニ就キ其主旨ヲ可決スル時ハ議長ハ更ニ逐條ニ就キ之ヲ審議セシムベシ

第十一條 會議ノ發言ニ於テ賛成ナキノ說ハ動議トシテ其可否ヲ衆議ニ問フヲ得ス

第十二條 會議ノ始終ハ號鐘ヲ以テ之ヲ報ズ

○商標見本觀覽所

●明治二十年十月十五日告示第七十號

神戸區役所武庫郡西宮戶長役場登錄商標見本觀覽所廢止候條自今神戸商法會議所及川邊郡伊丹郡俱樂部津名郡洲本商工會ニ於テ觀覽スヘシ
但其他ハ從前之通

●明治二十一年五月三十日告示第六十八號

飾東役所商標見本觀覽所ヲ全郡姫路綿町外九十五ヶ町戶長役場ニ移轉ス

○石炭消費高報告書式

●明治二十年三月廿九日訓令第九十號

郡區役所

石炭消費高左ノ書式ニ據リ取調翌年三月限り報告スヘシ

但明治十九年分ハ本年四月廿日限り報告スヘシ
自明治何年一月何郡(區)石炭消費高報告書
至同年十二月

- 一 船舶用 何斤 但和斤
- 一 鐵道用 何斤 全
- 一 工場用 何斤 全
- 一 製鹽用 何斤 全
- 一 己人所有ノ船舶ハ定繫港所轄ノ郡區役所ニ於テ調査スヘシ會社持ノ船舶ハ其本社所在地ノ郡區役所ニテ調査シ定繫港ニテハ調ヘニ及ハス
- 一 工場用ハ蒸氣器械ヲ使用スルモノ及ヒ瓦斯又ハ「コークス」製造所ニ消費スルモノニ限ルヘシ
- 一 此調査ハ民用消費ノ調査ニ付官用ノ分ハ調ヘニ及ハス

○權衡免許製作人ニ關スル件

△勸業○商標見本觀覽所○石炭消費高○權衡免許製作人ニ關スル件 百七十一

●明治二十年一月四日告示第一號
權衡免許製作人度量衡種類表ニ掲載ナキ權衡ハ自今製作願出ルモ許可セサル旨農商務省ヨリ訓令有之候條此旨心得ヘシ

○官林產物拂下願届ニ關スル件

●明治二十年一月廿日告示第二十二號
明治十九年(六月)成第八十三號ヲ以テ告示置候官林ニ關スル願届等ニシテ林產物拂下ニ關スル分ニ限リ戸長ノ與印ヲ要セス

○官地借用堤塘使用願地檢査書式

●明治二十一年四月廿六日訓令第五十七號
郡區役所
明治十九年(六月)本縣乙第百十八號達中實測圖面トアルヲ實況見取圖ニ更正ス

廿一年訓令第七十五号參看

○山野火入取締規則附全取扱心得

●明治二十一年四月廿八日縣令第六十三號
山野火入取締規則左之通り相定ム

但明治十一年(二月)本縣甲第十九號及ヒ同十二年(十一月)甲第七十三號布達ハ廢止ス

山野火入取締規則

第一條 山野ニ火入ヲナサント欲スル者ハ左ノ各項ヲ具シ其期日ヨリ十五日以前ニ郡區長ニ出願認可ヲ受クヘシ

- 一 火入期日
- 一 箇所限地目段別及字番號
- 一 四至境界ヲ見ルヘキ實地略圖(接續地ノ地目官私有ノ別ヲモ記スルコト)
- 一 防火線ノ幅及其仕方
- 一 火入番人ノ數

第二條 火入ノ認可ヲ得タル者ハ其山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野ノ所有者(官林ナルトキハ大小林區署若クハ大林區派出所若クハ官林巡

△勸業○官林產物拂下云々○官地借用云々○山野火入取締規則附全取扱心得 百七十三

邏)及所轄警察署又ハ分署エ少ナクトモ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告スヘシ
但期日ニ至リ風雨又ハ中止ヲ命セラレタル爲延日スルトキハ再ヒ其期日ヲ報告ス
ヘシ

第三條 防火線ハ幅三間以上トシ都テ柴草ヲ刈採リ落葉塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀
溝ヲ設クヘシ

但道路谿谷等ニシテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス

第四條 日出前日没後及風勢穩カナラサルトキハ火入ヲナスヘカラス

第五條 火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ番人ハ火氣全ク消滅ニ至ル迄其場ヲ退クヘカラス

第六條 火入認可ヲ受ケタル者ト雖モ郡區長警察官吏大小林區署員大林區署派出所員

戸長官林巡邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルカ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他エ延
燒ノ虞アリト思量セシトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

第七條 此ノ規則第一條及第四條第五條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ論シ金五十錢

以上壹圓五十錢以下ノ科料又ハ二日以上五日以内ノ拘留ニ處セラルヘシ

●明治二十一年五月十九日訓令第七十五號

郡區長 戸長

本年四月縣令第六十三號ヲ以山野火入取締規則發布ニ付テハ左ノ通相心得取扱フヘシ

山野火入取締規則取扱心得

一山野火入ノ出願アルトキハ戸長ハ之ヲ調査シ圖面ノ實地ニ適セサルモノハ之ヲ訂正
セシメ防火線ノ幅員及其仕方番人員數等若シ不十分ト思量スルモノアルハ其旨ヲ

示諭變更セシメ或ハ意見書ヲ付シテ郡長ニ進達スヘシ

一郡區長ニ在テ願書ヲ受ケタル片ハ實地ノ狀況ヲ考ヘ延燒豫防ノ準備十分ナリト認ム
ルモノニ限り之ヲ許可スヘシ

一延燒豫防ノ準備周到ノモノト雖モ郡區長ニ於テ其山野自然生樹木ノ養成又ハ土砂扨
止等ノ爲メ火入ヲナスヲ不利ト思惟スル片ハ其利害ヲ願人ニ示諭シテ之ヲ止メシム
ルカ又ハ時宜ニ由リ之ヲ認可セサルコト得ヘシ

一區長戸長ニ於テハ火入當日ノ風勢番人ノ當否等ニ注意シ時宜ニ依リ實地視察人ヲ出
シ若シ延燒ノ虞アリト思量スル場合ニハ直ニ其中止ヲ命スヘシ

類聚現行兵庫縣令訓全書第貳編第二卷終

△勸業○山野火入取締規則附全取扱心得

類聚現行兵庫縣令訓全書第二編第三卷

○文書課

○三大節賀表

●明治二十年三月十九日訓令第八十二號
郡役所
非役正七位以下同勳七等以下ニシテ遠隔地方ニ在ルモノ三大節賀表ハ別紙書式ノ通相
認メ向後直ニ本廳へ差出候様通知ス可シ

謹	賀	新	年
紀	元	節	
天	長	節	
年月日	位勳爵苗字		

△文書○三大節賀表

○公布式ニ係ル件

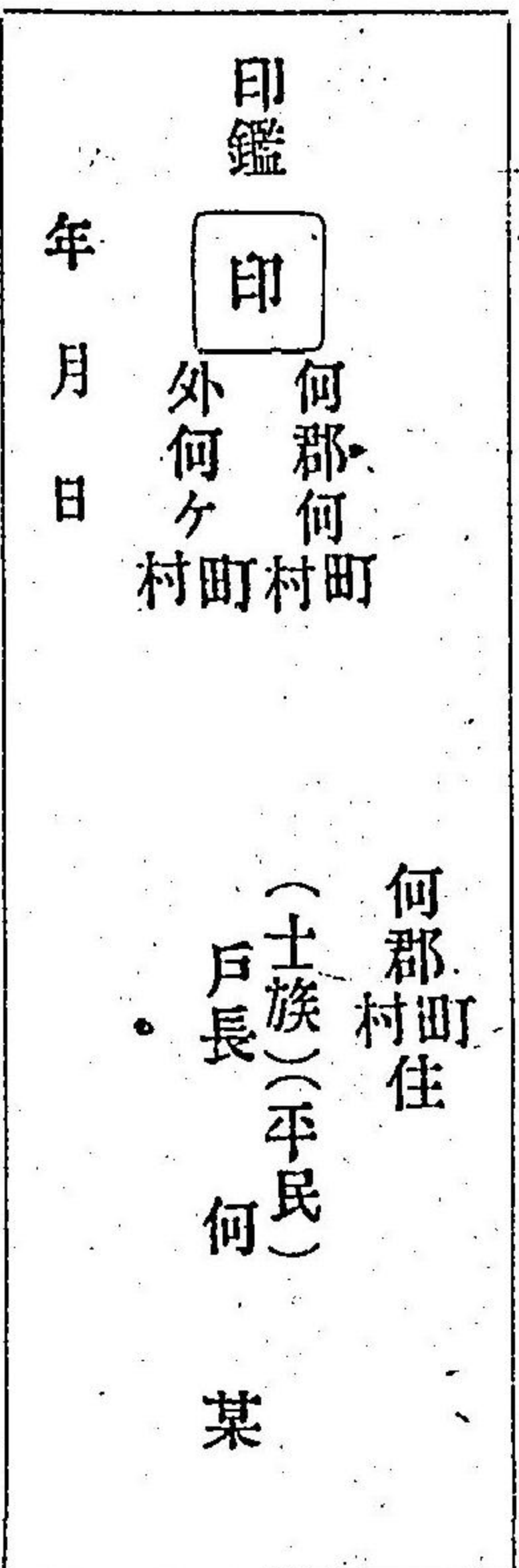
●明治二十年四月廿六日訓令第百廿二號 郡區役所 戸長役場
 本縣々令告示等公布式ノ儀ニ付十九年乙第五十四號達但書ノ趣モ有之候處來ル五月一日ヨリ神戸又新日報場付録廢止候條同日以後役所役場ニ於テ該日本報紙ヲ揭示スヘシ但町村立學校ヘハ學事ニ關係アルモノノミ別ニ附録トシ無代價送付セシム

○戸長印鑑雛形

●明治二十一年六月十三日訓令第九十四號 郡役所 戸長役場
 各町村戸長ハ今般更ニ左ノ雛形ニ依リ印鑑ヲ所轄郡役所ヘ差出スヘク自今新任ノ者ハ其受書ト共ニ又改印シタル節ハ其屆書ト同時ニ雛形ノ印鑑ヲ添ヘテ差出シ郡役所ニテハ該印鑑簿ヲ調製シ之ヲ存置スヘシ
 但明治十二年九月乙第二百二十五号達ハ自今廢止ス

廿一號ヲ以テ
 示四十四號
 二九三六八
 九三十一十
 五十九ノ十
 各十ノ十
 正條中改

雛形 用紙西ノ内 堅四寸五分 横壹寸



○文部省出版圖書拂下規則

●明治二十年四月廿一日告示第九十四號
 文部省出版圖書拂下規則別紙ノ通定メラル
 文部省出版圖書拂下規則

第一章 總則

第一條 文部省發賣圖書ヲ分チテ甲乙ノ二部トス
 甲部 尋常小學校讀本並小學簡易科教科圖書

△文書○公布式ニ係ル件○戸長印鑑雛形○文部省出版圖書拂下規則

但本部圖書ハ初度出版ノ節大凡一千部限り見本ノ爲無代價ニテ各關係ノ箇所ニ配付シ其餘ハ悉皆之ヲ拂下クルモノトス其賣捌手数料ハ定價ノ内一割乃至一割二分トス

乙部 高等小學校、師範學校各科教科圖書及高等諸學科用書

但本部圖書無代價配付ハ法律上納付ヲ要スルモノニ限り其餘ハ總テ之ヲ拂下クルモノトス其賣捌手数料ハ定價ノ内一割五分乃至二割トス

第二條 甲部圖書賣捌所ハ北海道及各府縣下ニ於テ各一ヶ所トス

但運搬等供給上ノ便益ヲ謀リ其支店ヲ設クルハ妨ケナシト雖モ其廢置轉換ノ都度文部省へ申出ツヘシ

第三條 甲部圖書賣捌人タルモノハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ身元ノ正確ニシテ且本業ニ適當ナルコトヲ承認セシモノニ限り向五ヶ年間之ヲ許可スヘシ

第四條 乙部圖書ノ賣捌ヲサントスルモノハ其由ヲ記シテ願出ツヘシ文部省ニ於テ調査ノ上故障ナキモノト認ムルハ向五ヶ年間之ヲ許可スヘシ

第五條 文部省出版圖書ハ賣捌人ノ手ヲ離ル、トキ何等ノ名義ヲ附スルモ定價ニ超過セル金額ヲ買手ヨリ拂ハシムルコトヲ許サス

第六條 文部省ハ臨時吏員ヲ派遣ノ圖書供給方法ノ得失ヲ視察セシムルニ方リテ賣捌人及此方法施行ニ關係スル者ハ右視察官ノ質問又ハ檢視ニ應スヘキ義務アル者トス
第七條 各賣捌人ニ於テ此規則ニ背違シ又ハ圖書代金納入ヲ延怠スル等不正ノ所爲アル

ルハ何時ニテモ賣捌ヲ停止シ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第二章 甲部圖書發賣ニ係ル規則

第八條 甲部圖書賣捌人タランコトヲ望ム者ハ其旨ヲ記シ北海道廳長官府縣知事ノ承認ヲ得一學期間賣捌見込調書ト身元保証トシテ額面金三千圓以上指定ノ額(賣捌高指定スル)本人記名ノ公債証書ト該道府縣廳へ差出スヘシ 但該道府縣廳ニ於テモノトス)本文保証公債証書ヲ受領シタルトキハ其寫ヲ文部省へ回付スルモノトス

第九條 發賣圖書ハ賣捌人ニ於テ期限ヲ定メ請求スヘシ文部省ニ於テハ其期限内ニ製造送附スヘシ

第十條 發賣圖書運搬費ハ各道府縣賣捌所迄ノ分ハ文部省ニ於テ支辨スヘシ 但賣捌人ヨリ需要者迄送達スル運搬費ハ賣捌人ニ於テ支辨スルモノトス

第十一條 文部省ヨリ送付ノ圖書ヲ賣捌人ニテ受領シタルトキハ直ニ書名部數ヲ詳記シタル受領証書ヲ發送スヘシ 但受領証ニ用フル印鑑ハ兼テ差出シ置クヘシ

第十二條 賣捌人ニ於テ賣捌タル圖書代金ハ定期請求期限經過后六ヶ月間内ニ納入スヘシ

第十三條 賣捌人ハ發賣圖書定期請求後ト雖モ需要ノ景况ニ依リ何時ニテモ更ニ其部數ヲ定メテ請求スルコトヲ得

第十四條 賣捌人ハ乙部圖書賣捌ヲ兼ヌルコトヲ得尤モ此場合ニ於テハ乙部圖書發賣ニ係ル規則ニ從フヘシ

第三章

乙部圖書發賣ニ係ル規則

第十五條 乙部圖書賣捌ノ許可ヲ得タル者ハ額面金千圓以上二千圓未滿本人記名ノ公債証書ヲ文部省ヘ差出シ置クヘシ

第十六條 東京府外ノ者ニシテ前條ノ許可ヲ得タルルハ東京府内ニ相當ノ代理人ヲ置クヘシ

第十七條 賣捌人圖書ノ拂下ヲ受ケタルルハ書名及部數ヲ詳記シタル受領証書ヲ差出スカ又ハ文部省備付ノ受領簿ヘ証印ヲナスヘシ

第十八條 賣捌人ニ於テ身元保証公債証書ノ實價ニ超過スル價格ノ圖書ヲ拂受ケントスルルハ現金ヲ納付スヘシ

第十九條 賣捌人ニ於テ拂受ケタル圖書ノ代金ハ拂受ケタル月ヨリ三ヶ月目ノ二十日限リ納付スヘキモノトス

但起算ノ法ハ一月内ニ拂下ケタル代金ヲ三月二十日限リ納付スルヲ以テ例トス
第二十條 賣捌人ニ於テ納付スヘキ圖書代金ヲ延怠スルルハ身元保証公債証書ヲ賣却シテ之ヲ辨償スヘシ

●明治廿一年四月十日告示第四十四號

明治廿年(四月)本縣第九十四號告示文部省圖書拂下規則中左ノ條々改正セラル

一 第二條但書改正
但需用者ノ便益ヲ謀リ各地ニ其支店又ハ代理店ヲ設クルカ其他供求ノ方法ヲ設ケ

其細則ヲ具シテ文部省ヘ申出ツヘシ

一 第三條及第四條中「向」ノ一字ヲ削リ「五箇年間」ノ下ニ「チ一期トシテ」ノ六字ヲ加フ

一 第六條「方リテ」ノ下「ハ」ノ一字ヲ削ル

一 第八條「承認ヲ」ノ下「得」以下ノ十二字ヲ「經テ文部省ヘ願出其認可ヲ得ルトキハ」ト改メ「三千圓」ノ下「以上ヨリ記名」迄ノ廿四字及「證書」ノ下「ト」ノ字ヲ削ル

一 第九條「於テ」ノ下ニ「一學期間賣捌見込書ヲ調製シ」ノ十三字ト「定メ」ノ下ニ「テ」ノ字ヲ加ヘ同條ニ左ノ但書ヲ加フ

但需用ノ景况ニ依リ何時ニテモ更ニ其部數ヲ改メテ請求スルコトヲ得

一 第十一條但ノ下ニ「請求書及」ノ四字ヲ加フ

一 第十二條「賣捌」ヲ「拂受」ト改メ「定期」以下ノ九字ヲ「現品受領ノ月ヨリ」ト改ム

一 第十三條改正

第十三條 或ル道廳府縣ニ於テ適當ノ甲部圖書賣捌人無キカ又ハ供給上必要ノ事由アリト認ムルトキハ本省ヨリ命スル所ノ賣捌人ヲシテ該道府縣ヘ甲部圖書ヲ供給セシムルコトアルヘシ

一 第十五條「以上ヨリ記名」迄ノ十一字ヲ削リ「證書」ノ下「チ」ニ委任狀ヲ添ヘ「ト改ム
一 第十九條「目ノ二十日限リ」ノ七字ヲ「間ニ」ト改メ其但書ヲ削ル

類聚現行兵庫縣令訓全書第二編第三卷終

△文書○文部省出版圖書拂下規則

類聚現行兵庫縣令訓全書第二編第四卷

○土木課

○國縣道路修繕施工取扱順序

●明治廿一年三月二日訓令第二十六號

各郡長

明治二十一年度ニ屬スル國縣道路修繕ヲ特任シ其取扱順序別紙之通相定ム
(別紙)

國縣道路修繕施工取扱順序

- 第一條 國縣道路ノ修繕ハ所管郡長ニ於テ左ノ順序ニ據リ處理スヘキモノトス
- 第二條 國縣道路ノ修繕ハ之ヲ平常修繕ト臨時修繕ノニヨ分チ小破損ノ修理ニシテ常時施工ヲ要スルモノヲ平常修繕トシ第三條ニ掲グル常人夫ノ擔當ニ堪ヘサルモノヲ臨時修繕トス
- 第三條 平常修繕ハ常人夫ヲ設置施工シ臨時修繕ハ實地目論見帳ヲ調整シ費額ヲ定メ便宜施工スヘシ

△土木○國縣道路修繕施工取扱順序

但風雪霖雨等非常ノ災害ニテ酷シキ損壞ニ係ルモノ若クハ普通ノ修繕法ニテ保持シ難キモノハ具申シテ指揮ヲ請フヘシ

第四條 常人夫配置ノ方法ハ國道ト縣道ト別ナク單ニ其路線行運ノ繁閑ニ隨ヒ凡ソ平均二里ニ一人以上ノ割合ヲ以路線ニ依リ商量斟酌シテ配置スルヲ要ス但各路線毎ニ配置ノ區域並人員給料共取調豫テ届出ツ可キモノトス

第五條 臨時其他修費工費支出ノ豫備トシテ配付金額十分ノ五以上ヲ以テ之レニ充ツヘキモノトス

第六條 修繕費額ハ線路各行運ノ繁閑アルニ因リ從前慣例(十八年度以往平常修繕費ノ等差)ニ隨ヒ一ケ年度二期(四月ヨリ九月迄ヲ前期十月ヨリ三月迄ヲ後期トス)ニ區分シ豫算額ヲ以下付ス依テ當期ノ終リニ至リ精算帳ヲ添付シ後期ノ費額ヲ請求スヘシ

但施工ノ便宜ニ依リ前期ノ殘金ヲ後期ニ流用スルヲ得ヘシト雖モ工事ハ年度ヲ跨越スルヲ得ス尤モ此場合ニ於テハ前期精算帳へ其要旨ヲ付記シ差出スヘシ

第七條 總テ修繕施工ノ整否如何ハ臨時主務官吏ヲ派出シ其實蹟ヲ調査セシム可キモノトス

第八條 工事目論見帳及工費收支ニ係ル書類ハ兼テ整頓シ置キ主務官吏出派ノ際照查ノ便ニ供スヘシ

○國縣道路保護方

●明治二十年四月一日縣令第百廿三號

各 郡

國縣道路ノ掃除及排水又ハ欠損ノ豫防等ニ係ル總テ道路ノ保護ニ屬スルモノハ沿道關係町村ノ義務トシテ之ヲ負擔シ常時執行スベシ最モ市街ニ係ル掃除ハ本年(二月)縣令第二十八號ニ依ルベシ
但明治十八年(十月)丙第四百一十一號布達ハ廢止ス

○國縣道新築變更又ハ更正ニ係ル取調手續

●明治二十年四月廿二日訓令第百十五號

郡區役所 局長役場

地方稅又ハ關係區町村費連帶支辨ヲ以國縣道新築變更若クハ更正工事ヲ施行シタル時ハ其潰地及ヒ舊道存廢等別紙手續ニ據リ取調差出スヘシ
但圖式ハ第二部ヨリ郡區役所へ回送セシム

國縣道新築變更又ハ更正ニ係ル潰地及舊道存廢取調手續

△土木○國縣道路保護方○國縣道新築變更取調手續

縣令第二十八號
在警察ノ部

廿一年訓令第八十四號
地價以テ租稅取消ス

第一項 國縣道新築變更又ハ更正工事ヲ施行シタル時ハ竣成後三十日以内戸長ニ於テ
 (區ハ區長ニ於テス) 別紙第一號書式ニ據リ潰地一筆限帳ヲ徵シ所管郡役所ヘ差出スヘシ
 第二項 舊道敷ナリ道トシテ存置シ又ハ廢道ニ付シ潰地代地トシテ下渡ヲ要スルモノ
 ハ其願書ヲ徵シ(願書ハ別ニ式ヲ設ケス尤モ下渡願ヘハ) 單ニ廢道ニ付スルモノハ町
 村惣代ノ上申書ヲ徵シ前同時ニ差出スヘシ
 第三項 所管郡區役所ニ於テハ十五日以内ニ一筆限帳並ニ民願ニ據リ實地檢査ノ上潰
 地字番號反別地租地價差違ノ有無及ヒ舊道存廢ニ係ル事實ノ當否反別差違ノ有無等
 ナ審査シ別紙第二號書式ニ據リ調書ヲ製シ繪圖面相添當廳ヘ進達スヘシ
 第一號用紙半紙罫

道敷潰地一筆限帳

何國何郡何町
何區何村

字
番號

何國何郡何町
何區何村

田反別何程之内
一潰地反別何程

何國何郡何町
何區何村

何
某

此地價金何程

此地租金何程

外畦畔反別何程

(以下幾筆アルモ此例ニ倣ヘ)

潰地合計反別何程

内譯

田又別何程

此地價金何程

此地租金何程

外畦畔反別何程

畑反別何程

此地價金何程

此地租金何程

(以下幾筆アルモ此例ニ倣ヘ)
右ハ自何處至何處 國縣道新築變更ニ付潰地ト相成候處相違無之候也

何國何郡何町
何區何村

地主又ハ地主惣代

年號月日

何 某 印
何 某 印

兵庫縣知事宛

第二號ノ一(用紙半紙罫以下皆同シ)

△土木○國縣道新築變更取調手續

自何地 國道新築變更ニ係ル潰地(及ヒ舊道存廢)調書進達ニ付上申
 至何地 願道又ハ更正
 自何地 國道新築變更ニ付部内何町外何ヶ村ニ屬スル潰地一筆限及舊道存廢願書差出
 至何地 縣道又ハ更正
 候ニ付取調候處相違之廉無之ニ付該調書并圖面相添進達仕候此段上申候也

年號月日

何郡區長氏名印

兵庫縣知事宛

第二號ノ二

自何地 國道新築變更ニ係ル潰地取調書
 至何地 縣道又ハ更正

何郡區何町

一潰地合計反別何程
 主任
 檢印

田反別何程

此地價金何程

此地租金何程

外畦畔反別何程

畑反別何程

此地價金何程
 此地租金何程
 (以下幾筆アルモ此例ニ倣ヒ地目毎ニ例記スヘシ官有地アル)
 (モノハ内譯ニ官有又ハ民有ノ二字ヲ冠スヘシ以下皆同シ)
 同郡區何町

一前ニ同シ

潰地通計反別何程

主任
檢印

内譯

田反別何程

此地價金何程

此地租金何程

外畦畔反別何程

畑反別何程

此地價金何程

此地租金何程

(以下此例ニ倣ヘ)

右之通相違無之候也

△土木○國縣道新築變更取調手續

年號月日

兵庫縣知事宛

何郡長氏名印

二號ノ三

自何地 國道新築變更ニ係ル舊道存廢調書
至何地 縣道又ハ更正

何國何郡何町

一舊道敷反別何程

内

反別何程

反別何程

何國何郡何村

一(前式ニ徴ヘ)

合計反別何程

内譯

反別何程

反別何程

右之通相違無之候也

年號月日

兵庫縣知事宛

里道トシテ存置ヲ要スル分
潰地代地トシテ下渡ヲ要スル分
里道トシテ存置ヲ要スル分
潰地代地トシテ存置ヲ要スル分

何郡長氏名印

廿年告示
第百一號

○神戸區國縣道路取擴ニ關スル件

神戸區

●明治二十年三月廿五日縣令第百十二號

神戸區元町通一丁目ヨリ六丁目ニ至ル國道線路ノ義ハ狹隘ニシテ不便不渺ニ付向後漸次接續宅地ヲ買上ケ道幅五間ニ(下水共)取擴可致筈ニ候條自今該線路ニ沿フタル家屋ヲ新築又ハ改造(一時ノ破損ヲ復舊スルモノ、外道路ニ沿フタル一部分ノ摸樣ヲ變換スル者又同シ)セントスル者ハ前以當廳へ届出道幅等ノ檢定ヲ受ケタル後着手スヘシ但長屋建築規則ニ照準スヘキモノ及工事ニ付足場板囲等取設ヲ要シ其認可ヲ得ル爲メ所管警察署へ出願スルモノモ本文ノ檢定ヲ受クヘシト雖モ當廳へハ別ニ届書差出ニ及ハス

●明治二十年四月廿八日告示第百一號

神戸區

本年(二月)縣令第百十三號神戸區元町通國道取擴ニ係ル潰地之義ハ地券面記載之價格ヲ以可買上筈尤モ其實價ニ懸隔アルモノハ最近地賣買代價ニ比準シ増減スルコトアルヘシ仍テ潰地トナリタル時ハ別紙書式ニ據リ尙ホ實況圖面相添代金下渡及地種編替方願出ヘシ

(券面ノ地價ヲ以テ買上ニ係ル願書式用帛半紙録)

() 印ハ朱

△土木○神戸區國縣道路取擴ニ關スル件

道敷潰地代金下渡并地種編替願

攝津國神戸區元町通何丁目何番地

宅地々坪何程之内

地價金何程

一潰地々坪何程

此地價金何程

右者私所有之處今般道敷潰地ト相成候ニ付前記券面價格ヲ以御買上之上代金下渡并地種編替相成度別紙圖面相添此段奉願候也

何國何郡何町何番地

何村何番地 某 印

年號月日

前書願出候ニ付與印候也

兵庫縣知事宛

神戸區長氏名印

(隣地賣買代價ニ比準スル願書式用番同前)

道敷潰地代金下渡并地種編替願

攝津國神戸區元町通何丁目何番地

宅地々坪何程之内

地價金何程

一潰地々坪何程

此地價金何程

此實價金何程

(最近地賣買代價左ノ如シ(何年何月賣買之分)

(元町通何丁目何番地)

(宅地々坪何程)

(此地價金何程)

但一坪ニ付
金何程

(此一坪ニ付
金何程)

(此賣買代金何程)

右者私所有之處今般道敷潰地ト相成然ルニ券面ノ價格ハ實價ト懸隔有之候ニ付隣地賣買代價ニ比準シ前記金員ヲ以御買上之上代金下渡並地種編替相成度別紙圖面相添此段奉願候也

何國何郡何町何番地

何村何番地 某 印

年號月日

前書願出候ニ付與印候也

兵庫縣知事宛

神戸區長氏名印

●明治廿一年六月五日縣令第七十八號

△土木○神戸區國縣道路取擴ニ關スル件

神戸區相生橋ヨリ相生町湊町ヲ經テ神明町神明神社迄及永澤町字外川ヨリ鍛冶屋町海岸ニ至ル道路狹隘不便ニ付漸次接續宅地ヲ買上ケ湊町通ハ幅員五間半(下水共)鍛冶屋町通ハ四間半(下水共)ニ開擴可致管ニ候條自今該線路ニ沿フタル家屋ヲ新築又ハ改築(一時ノ破損ヲ復舊スルモノ、外道路ニ沿フタル部分ノ模様ヲ變換スルモノ又全シ)セントスルモノハ前以當廳へ届出幅員ノ檢定ヲ受ケタル後着手スヘシ
但長屋建築規則ニ照準スヘキモノ及工事ニ付足場板圍等取設ヲ要シ其許可ヲ得ル爲メ所管警察署へ出願スルモノモ本文ノ檢定ヲ受クヘシト雖モ當廳へハ別ニ届書差出ニ及ハス

●明治廿一年六月五日告示第七十五號

神戸區

本年縣令第七十八號神戸區湊町通及鍛冶屋町通道幅取擴ニ係ル潰地之義ハ地券面記載ノ價格ヲ以可買上等尤モ其實價ニ懸隔アルモノハ最近地賣買代價ニ比準シ増減スルアルヘシ仍テ潰地トナリタル時ハ別紙書式ニ據リ尙ホ實况圖面相添へ代金下渡及地種編換方願出ヘシ

(別紙)

「地券面ノ地價ヲ以テ買上ニ係ル願書式 用紙半紙野」

「ハ朱

道敷潰地代金下渡并地種編換願

攝津國神戸區兵庫何町何番地

宅地々坪何程ノ内

地價金何程

一潰地々坪何程

此地價金何程

但壹坪ニ付
金何程

「最近地賣買代價左ノ如シ(何年何月賣買ノ分)」

「何町何番地」

「宅地々坪何程」

「此地價金何程」

「此賣買代金何程」

但壹坪ニ付
金何程

右者私所有之處今般道敷潰地ト相成候ニ付前記券面價格ヲ以テ御買上之上代金下渡并地種編換相成度別紙圖面相添奉願候也

何國何郡何町何番地

年號月日

何 某 印

(區長與印)

兵庫縣知事宛

「最近地賣買代價ニ比準スル願書式 用紙全前」

道敷潰地代金下渡并地種編換願

攝津國神戸區兵庫何町何番地

宅地々坪何程ノ内

地價金何程

△土木○神戸區國縣道路取擴ニ關スル件

一 潰地々坪何程

此地價金何程

此實價金何程

但壹坪ニ付
金何程

「最近地賣買代價左ノ如シ(何年何月賣買ノ分)」

「何町何番地」

「宅地々坪何程」

「此地價金何程」

「此賣買代金何程」

「但壹坪ニ付
金何程」

右者私所有之處今般道敷潰地ト相成然ルニ券面ノ價格ハ實價ト懸隔有之ニ付最近地賣買代價ニ比準シ前記金賣ヲ以御買上之上代金御下渡并地種編換相成度別紙圖面相添此段奉願候也

年号月日

何國何區何町何番地
郡何村何番地

何 某 印

(區長與印)
兵庫縣知事宛

神戸區役所

●明治廿一年六月五日訓令第八十五號

本年縣令第七十八號兵庫湊町通及鍛冶屋町通道幅取擴ニ係ル潰地買上之義ニ付今般第七十五號ヲ以及告示候條右代金下渡願出候節ハ其當否ヲ審査シ不相當ト認ムルモノハ説論ノ上更正セシメ所見副申スヘシ

○地方經濟ニ關スル土木事件主任者

●明治二十年四月廿一日訓令第九號

郡 長

地方稅經濟ニ關スル土木事件ハ自今主任者ヲ定メ諸事擔理爲致候様可取許就テハ本年(三月)第五一號訓令ニヨリ第二部へ報告ニ係ル名面ヲ以テ其主任ト看做シ候條異動アル節ハ其都度報告スヘシ

○廿一年度區部地方稅支辨_{道路橋梁等修築費}區別及施工方法

●明治廿一年三月十九日告示第三十八號

神戸區

明治廿一年度區部地方稅ヲ以テ支辨又ハ支給スル道路橋梁港灣堤防修築費區別及施工方法左ノ通相定ム

第一項 地方稅土木費ヲ以支辨又ハ支給スル區別左ノ如シ

一 國縣里道及其橋梁并道路ニ付着スル石垣修築費

△土木○地方經濟ニ關スル土木事件主任者○廿一年度區部地方稅支辨云々 十五

但里道ハ公道ノ稱アルモノニ限ル

一神戸元町通國道、兵庫相生町ヨリ湊町ヲ經柳原町ニ抵ル縣道、兵庫永澤町ヨリ西宮内町ヲ經鍛冶屋町ニ通スル路線取擴費

一兵庫港修築費

以上悉皆地方稅支辨トス

一湊川堤防修築費

以上工費高ノ五步地方稅ヨリ支給ス

第二項 前項ニ掲クル工事ハ總テ縣廳ニ於テ直轄施行シ其方法ハ以下定ムル所ニ依ル

第三項 國縣里道ノ修繕ハ之ヲ平常臨時ノ二途ニ區分シ平常修繕ハ行運ノ繁閑ヲ量リ

常人夫ヲ配置シ之ヲ負擔セシメ臨時修繕ハ其都度目論見ヲ付シ施行ス

第四項 道路取擴ケ及橋梁港灣溝渠石垣ノ修築ハ其必要ニ從ヒ起工スルモノトス

第五項 湊川堤防ノ修築ヲ要スト認ムル片ハ連帶町村費ヲ納付セシメ之カ施工ヲ爲ス

○神戸區並葺合村新市街開設

●明治廿一年一月廿四日縣令第十六號

神戸區

神戸區三ノ宮町並ニ加納町地方へ新市街開設町割之義別紙圖面之通相定メ候條自今該道路線路ニ沿ヒタル家屋改築又ハ新築セントスルモノハ所管區役所へ届出テ其位置檢査ヲ經テ着手スベシ

但圖面之義ハ所管區役所ニ付キ見ルベシ

●明治廿一年一月廿四日縣令第十七號

攝津國菟原郡葺合村

其村内新生田川以西鐵道以北ノ地へ新市街開設町割之義別紙圖面之通相定メ候條自今該道路線路ニ沿ヒタル家屋改築又ハ新築セントスルモノハ所管戶長役場へ届出テ其位置檢査ヲ經テ着手スベシ

但圖面之義ハ戶長役場ニ付キ見ルベシ

○廿一年度郡部國縣道更正箇所取調表

●明治廿一年三月二日訓令第二十五號

郡役所 戶長役場

今般第三十號ヲ以明治二十一年度地方稅經濟ニ關スル土木起工順序及告示候處客年通常郡部會ノ決議ニ基キ同年度ニ於テ別表ノ通國縣道更正并橋梁建築工事實施可致候條

△土木○神戸區等新市街開設○廿一年度郡部國縣道更正箇所取調表 十七

該橋梁ニ係ルモノモ都テ具申テ要セサル義ト心得ヘシ
但港灣修築箇所ハ追テ訓令スヘシ

明治二十一年度國縣道更正箇所取調表

國名		郡名	町村名	國道ノ別	線	路	更正延長
播	津	振	八部	縣道	神東郡辻川ヨリ岐レ三木ヲ經テ神戸ニ達ス	一里三十四丁二十一 間五分	
	武庫	廣田	伊子志	同	三田ヨリ西宮ニ達ス	一里十六丁九間七分	
	揖西	下筋原	鍛冶室	國道	飾西郡青山村ヨリ岐レ佐用郡西大畑村ヲ經テ島根縣ニ達ス	二十六丁二十二間九分	
	佐用	早瀬	外二村	同	同	六丁五分	
	加西	繁昌	外六村	縣道	姫路ヨリ笹山ニ達ス	一里十三丁四間一分	
	明石	西新町	西岡	同	明石ヨリ飾磨港ニ達ス	二里二十三丁二十一 間五分	
	印南	大盤	外三村	同	同	十九丁十六間三分	
	加東	阿形	外五村	同	福知山ヨリ高砂港ニ達ス	二十九丁二十七間 分	
	美囊	昆沙門	外十九村	同	三木ヨリ京都ニ達ス	二里二十一三十九間	

磨		路		淡		波		丹		馬		但		磨	
赤穂	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟	赤粟
外四村	道谷村	外一村	安志	前ノ庄	六分	二見	外六村	切濱	外六村	中山	外二村	小野尻	黃田	谷川	笹山
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
鳥取ヨリ坂越港ニ達ス	養父郡敷崎村ヨリ岐レ大屋市場及宍粟郡道谷ヲ經テ鳥取ニ達ス	安志ヨリ岐レ辻川北條ヲ經テ京都ニ達ス	三木ヨリ二見港ニ達ス	湯島ヨリ居紐ヲ經テ鳥取ニ達ス	出石ヨリ宮津ニ達ス	柏原ヨリ姫路ニ達ス	柏原ヨリ明石ニ達ス	笹山ヨリ宮津ニ達ス	洲本ヨリ湊ニ達ス	岩屋ヨリ阿那賀ニ達ス	神東郡辻川ヨリ宍粟郡山崎ニ達ス	同	同	同	同
一里一丁十三間五分	三十三丁八間五分	二里三十四丁三間一分	一里十丁十九間九分	二里三十丁十九間	二十八丁四十八間	一里十五丁四十一間 六分	十六丁四十九間四分	一里二十五丁三十八 間八分	二里三丁四十九間五 分	二里三十二丁十六間 四分	一里十六丁三十六間	同	同	同	同

△土木○廿一年度郡部國縣道更正箇所取調表

△土木○廿一年度郡部國縣道更正箇所取調表

國名	磨											
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
架換ノ別	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
箇所數	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	
郡名	同	同	同	印南	同	同	同	加東	加東	同	同	
町村名	的形村	西濱村	大鹽村	米田新間	米田新間	太郎太夫村	大島村	久下山村	阿形村	粟生地間	戸倉村	道谷村
線	同	同	明石ヨリ飾磨ニ達ス	北條ヨリ高砂港ニ達ス	同	同	同	同	福知山ヨリ高砂港ニ達ス	福知山ヨリ中村辻川北條ヲ經テ神戸ニ達ス	同	敷崎ヨリ分岐大屋市場ヲ經テ鳥取ニ達ス
路												
種類	同	同	土	板	同	同	同	同	土	板	同	土
延長	四間	六間	四間	六十八間	十四間	十六間	六間	六間	一間五分	八十間	五間	十五間
幅員	同	同	二間	一丈	同	同	同	同	二間二分	二間二分	同	二間

同	架設	架換	同	同	架設	同	架換	架設	同	同	同	同
二	二	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一
同	同	宍粟	同	同	同	赤穂	同	同	佐用	同	揖西	揖東
三森村	同	安志村	赤松村	與井村	原村	上郡村	宗行間	乃井野間	鍛冶屋村	富野間	平松間	大江島
同	同	鳥取ヨリ西京ニ達ス	同	同	鳥取ヨリ阪越ニ達ス	鳥取ヨリ阪越港ニ達ス	同	同	青山ヨリ岐レ西大島ヲ經テ島根ニ達ス	同	飾磨ヨリ室津ニ達ス	飾磨ヨリ室津ニ達ス
同	土	板	同	同	土	同	同	同	同	同	板	板
七間四分	四間	三間	二間五分	三間	十四間	四十六間	十一間	二十間	三十間	百十一間	十六間	十六間
三間	二間半	三間一分	同	同	二間	二間二分	二間	二間	十尺	同	二間	二間

○廿一年度郡部地方税ニ關スル土木起工順序

磨		播			架設
同	同	同	同	同	同
一	一	一	一	一	一
神東	同	同	同	神、西	飾西
西田原村	中村	福崎新村	西治村	久畑村	前ノ庄村
同	同	同	同	同	辻川ヨリ山崎ニ達ス
同	同	同	同	土	同
二間五分	三間五分	八間四分	五間二分	二間七分	二十七間六分
同	同	同	同	同	同

●明治廿一年三月二日告示第三十號

明治二十一年度郡部地方税經濟ニ關スル土木起工順序別紙之通相定ム

地方税ニ關スル土木起工順序

第一條 地方税、土木費ヲ以支辨支給補助スル區別左ノ如シ
但河川堤防ニ屬スル修築費金二十圓未満ハ悉皆關係町村ノ支辨トス

△土木○廿一年度郡部地方税ニ關スル土木起工順序

各郡

路		淡			波							
同	同	同	同	架設	同	架換	同	架設	同	同	同	同
一	四	一	一	四	一	一	二	一	一	一	一	一
同	同	三原	同	同	同	津名	同	同	同	同	同	同
長田村	廣田村	筈飯野 湊間	野島村	淺野村	木曾村	郡家村	朝坂村	和谷田 西谷間	七日市村	谷川村	上成松村	下小倉村
同	同	同	同	同	同	ス 岩屋ヨリ阿那賀ニ達	同	同	ス 姫路ヨリ福知山ニ達	同	ス 福知山ヨリ姫路ニ達	同
同	同	板	同	石	同	板	同	同	土	同	同	同
二間	十一間	三十間	十二間	十間	五間一分	十五間	五間八分	一間二分	分 十間四分	四間一分	分 十六間七分	四間一分
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

- 一 國縣道ノ更正ハ其工費金高ノ五步通(土功費ノ半額ニ限ル)地方税ヨリ支辨ス
- 一 國縣道修繕及ヒ其橋梁建築修繕費ハ地方税ヲ以支辨ス
- 一 別表第一號廿七河ニ係ル修築費ハ關係一區域内目論見金高廿圓以上二百圓未滿ハ五步二百圓以上四百圓未滿ハ六步四百圓以上ハ七步ヲ支給ス
- 一 別表第二號七十六川ニ係ル修繕費ハ關係一區域内目論見金高二十圓以上百五十圓未滿三步百五十圓以上三百圓未滿四步三百圓以上五步ヲ補助ス
- 一 別表第三號十港ニ係ル修築費ハ七步第四號十五港ニ係ル修築費ハ五步ヲ支給ス
- 第二條 國縣道ノ更正ハ聯帶町村費決議ノ後當廳ニ於テ起工スルモノトス故ニ別段具申ヲ要セス
- 第三條 國縣道ニ屬スル橋梁ノ建築修繕ヲ要スルモノハ所屬町村名道路名稱橋名及其實況ヲ詳悉シ所管戸長ヨリ(郡役所ヲ經テ)具申スヘシ
- 第四條 國道縣道ノ修繕ヲ要スルモノハ所屬町村名道路名稱箇所名ヲ詳記シ所管戸長ヨリ郡長ヘ申出ベシ
- 第五條 河港堤防ノ修築ヲ要スルモノハ聯帶町村資支出決議書(決議書ニ代フルニ其申牒面ヘ支出方決議濟ノ旨付記スルモ妨ケナシ)ヲ添付シ所屬町村河港名稱箇所名及其實況ヲ詳悉シ左ノ期限ニ隨ヒ所管戸長ヨリ(郡役所ヲ經テ)具申スヘシ
 - 一 前期五月三十一日迄

一 後期十月三十一日迄

右期限ニ後ル、モノハ急破ノ外都テ順次後期ニ讓ルモノトス

第六條 別表第二號ニ掲載セル七十六川堤防ノ修築ヲ要スルモノハ其實施方ヲ(郡役所ヲ經テ)所管戸長ニ訓令スヘシ

但郡長ニ於テ會議ヲ管理スルトキハ郡長ニ訓令スヘシ

第七條 郡長若クハ戸長ハ前條ノ訓令ヲ受ケ實施ノ手續ヲ爲シ其着手成功ノ日限ヲ定メ豫メ縣廳ニ届出(戸長ヨリ届出ルルハ郡役所ヲ經ヘシ以下同シ)成功ニ至リ仍ホ其旨届出可シ

第八條 前條成功ヲ届出レハ實地ノ出來形檢査ヲ遂ケ之レニ充ツル地方税補助金ヲ(郡役所ヲ經テ)下附スヘシ

但成功檢査ニ臨ミ目論見帳ニ背戻スル廉アラハ之レカ改造ヲナザシムル事アルヘシ此場合ニ於テハ改造ニ屬スル工費ハ地方税ヨリ補助セサルモノトス

第九條 國道縣道ニ屬スル橋梁修繕並ニ芥除杭修繕費凡見込高金廿圓未滿及地方税補助川堤防修繕費凡見込高金五十圓未滿ニシテ郡役所ノ檢査ヲ經サルモノアルトキハ戸長ヨリ之ヲ郡長ニ具申スヘシ

第十條 前各條ノ具申ト雖モ不急ト視認スルモノハ後年度ニ讓ルコトアルヘシ

第十一條 地方税ニ關スル土木起工ノ具申等ハ總テ郡長又ハ戸長ニ於テ辦理スヘキニヨリ一般人民其他ノ出願稟申ヲ要セサルモノトス

磨													
佐用	飢西	揖東	西	揖	粟	宍	揖東	西	神	多可	神東		
千種川支流	夢前川支流	單太	元	中派	中垣	伊澤	引原	栗細	揖保川支流	小田原	七種	越知	市川支流
佐用川	曾生川	田流	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	猪笹川
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同郡平福村ヨリ合流マテ	同郡西郡戸倉村ヨリ合流マテ	同郡太田村ヨリ流末マテ	同郡揖保川合流口ヨリ流末マテ	同郡揖保川分流口ヨリ流末マテ	同郡揖保川合流口ヨリ流末マテ	同郡上野村ヨリ合流マテ	同郡引原村ヨリ西安積村合流マテ	同郡宍郡水源ヨリ揖東郡北龍野村合流マテ	同郡上小田村ヨリ合流マテ	同郡神西郡田口村ヨリ合流マテ	同郡多可郡福畑村ヨリ神東郡貝野村合流マテ	同郡神東郡猪笹村ヨリ同郡吉富村合流マテ	

馬														
石	出	城崎	出石	養父	朝	穂	赤	宍	粟	粟	粟			
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同			
佐々木川	河本川	小野川	奥山川	太田川	北支流	奈佐川	穴見川	米地川	神子畑川	與布土川	圓山川支流	安室川	鞍居川	志文川
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同郡佐々木村ヨリ出石川合流マテ	同郡西谷村ヨリ出石川合流マテ	同郡小野村ヨリ鉢山村穴見川合流マテ	同郡奥山村ヨリ出石川合流マテ	同郡中藤村ヨリ出石川合流マテ	同郡市場村ヨリ城崎郡日撫村合流マテ	同郡大谷村ヨリ合流マテ	同郡市塲村ヨリ城崎郡日撫村合流マテ	同郡奥山村ヨリ養父郡米地村合流マテ	同郡佐囊村ヨリ山口村合流マテ	但馬國朝來郡與布土村ヨリ合流マテ	同郡八保村ヨリ合流マテ	同郡赤穂郡金出地村ヨリ合流マテ	同郡宍郡大澤村ヨリ佐用郡榎田村合流マテ	

△土木○廿一年度郡部地方税ニ關スル土木起工順序

計十五港	磨	播	淡					馬	但	
	飾東	揖東	原	三	津			方	二	
家	岩	沼	福	津	湊	元松帆港 岩桑港	垂井港	鹽尾港	濱坂港	諸寄港
宮島	見港	島港	良港	井港	港	同	同	同	同	同
浦港	港	港	港	港	港	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

計十港	磨	播	國	津	攝	淡
	赤穗	揖東	郡	武庫	川邊	津
那波港	元新在家港 網干港	加古二見港	港名	西ノ宮港	尼ヶ崎港	由良港
同	同	同	地方税支給區域	同	同	同
同	同	同	港内全體	同	同	同

第四號 地方税五分支給ニ係ル港名及支給區域一覽表

○廿一年度土木起工取扱手續

●明治廿一年三月二日訓令第二十四號

郡役所

戸長役場

今般第三十號ヲ以明治二十一年度地方税經濟ニ關スル土木起工順序及告示候ニ付テハ右取扱手續別紙之通相定ム

土木起工取扱手續

第一節

地方税支辨ニ係ル起工ノ事

第一項 國縣道ニ属スル橋梁ノ建築修繕ヲ具申シタルトキハ主務官吏ヲシテ實地ニ就キ其緩急ヲ審査シ之ヲ取捨シテ目論見書ヲ編纂セシム但國縣道修繕施行ノ順序ハ別段郡長ニ訓令スル所ニ依ル

第二項 常廳ハ主務官吏ノ編纂セシ目論見書ニ據リ實施スヘキト否トナ區別シ實施スヘキモノハ第二部ヨリ所管郡役所へ通牒セシム

第三項 前項實施スヘキモノハ主務官吏例規ニ據リ受負人ヲ定メ工事施行ノ手續ヲ爲シ成功ニ至リ其工費ヲ所管郡役所ニ送付シ受負人へ下付セシム但受負人ノ請求ニ依リ當廳ニ於テ直ニ下付スルコトアルヘシ

第四項 國縣道ノ橋梁及ヒ之ニ属スル芥除杭修繕費凡ソ見込金高二十圓未滿ノモノハ

郡長ニ於テ實地ヲ檢査シ施工ノ手續ヲ爲スヘキニ因リ其破損ノ箇所ハ戸長ヨリ郡長ニ申出ヘシ但郡長ニ於テ施行スルノ順序ノ別段ノ訓令ニ依ル

第二節

地方税町村費連帶支辨ニ係ル起工ノ事

第五項 地方税支給ニ係ル河港堤防ノ修繕ヲ具申シタルトキハ主務官吏ヲシテ實地ニ就キ其緩急利害ヲ審査シ之ヲ取捨シテ目論見書ヲ編纂セシム

第六項 常廳ハ主務官吏ノ編纂セシ目論見書ニ據リ實施スヘキト否トナ區別シ實施スヘキモノハ所管郡長(會議ヲ管理スルトキニ限ル)又ハ戸長ニ訓令スヘシ

第七項 前項實施スヘキモノハ主務官吏例規ニ據リ受負人ヲ定メ工事施行手續ヲ爲シ受負金確定ノ後所管郡長(會議ヲ管理スルトキニ限ル)又ハ戸長ニ通牒セシム

第八項 郡長又ハ戸長ニ於テ前項ノ通牒ヲ受ケタルトキハ豫テ會議ノ評決セル方法ニヨリ聯帶町村費ヲ徵收シ之ヲ郡役所ニ收納濟ノ後其旨郡長ヨリ具申スルモノトス但町村費ハ郡役所ニ收納セス戸長役場ニ於テ直ニ支拂及受領ヲ請フ向ハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第九項 工費支拂ヲ要スルトキハ地方税負擔ニ係ル金員ヲ所管郡役所ニ送付シ郡役所ハ第二部ノ通牒ニ據リ聯帶町村費ヲ併セテ受負人へ下付ノ手續ヲ爲スヘシ但受負人ノ請求ニ據リ地方税負擔ニ係ル金員ハ本廳限リ下付スルコトアルヘシ

第十項 國縣道更正ニ係ルモノハ第七項乃至第九項ニ依ルモノトス

第三節

地方税補助ニ係ル起工ノ事

△土木○廿一年度土木起工取扱手續

第十一項 地方稅補助ニ係ル河川堤防ノ修築ヲ具申シタルトキハ主務官吏ナシテ實地ニ就キ其緩急利害ヲ審查シ之ヲ取捨シテ目論見書ヲ編纂セシム

第十二項 當廳ハ主務官吏ノ編纂セシ目論見書ニ據リ實施スヘキト否ナトヲ區別シ實施スヘキモノハ之レヲ所管郡長(會議ヲ管理スルトキニ限ル)又タハ戶長ニ訓令スヘシ

第十三項 郡長又ハ戶長ニ於テ前項ノ訓令ヲ受ケタルトキハ豫テ會議ノ評決セル方法ニヨリ實施ノ手續ヲ爲シ其着手成功ノ日限ヲ定メ豫メ當廳ニ届出成功ニ至リ尙ホ其旨届出ヘシ

第十四項 前項ノ如ク成功ヲ届出ルトキハ主務官吏ナシテ實地ヲ檢査セシメ而シテ地方稅補助金ヲ所管郡役所ニ送付スヘシ

第十五項 地方稅補助ニ係ル河川堤防修築費凡ソ見込金高五十圓未滿ノモノハ郡長ニ於テ實地ヲ檢査シ施工ノ手續ヲ爲スヘキニヨリ其破損ノ箇所ハ戶長ヨリ郡長ニ申出ヘシ

但郡長ニ於テ施行スルノ順序ハ別段ノ訓令ニ依ル付則

前第一項第五項第十項ニ據リ具申シタルモノニシテ本年度内實施セサルモノハ翌年度ニ至リ再ヒ町村會ノ決議ヲ經テ具申スヘシ

○區町村費支辨堤塘等ニ生スル竹木等拂下料金ノ件

●明治廿一年四月廿七日訓令第五十九號

郡區役所

戶長役場

區町村費支辨(地方稅補助ニ係ルモノモ包含ス)ニ係ル堤塘及並木敷使用料並ニ堤塘道路用惡水路土居敷(土居敷ハ現用ノモノニ限ル)ニ生スル竹木枯倒障害等ニ因リ拂下タル料金ハ悉皆所屬區町村ヘ下渡スヘクニ付土木費ニ充テシムヘシ

但該料金ハ區役所又ハ戶長役場限リ收支スヘシ

戶長役場ニ於テ前項ノ料金ヲ收支シタルキハ速ニ郡役所ニ届出郡區役所ニ於テハ竹木拂下ノ件ハ代金ノ下ヘ町村ヘ下渡ノ旨ヲ附記シ例規ニ從ヒ之ヲ報告シ堤塘及並木敷使用料ハ半年分取纏メ二月八月ノ兩度毎町村下渡金額並一人別上納金額ヲ詳記シ當廳ヘ届出ヘシ明治十六年當縣乙第百三十五號達ハ自今廢止ス

○葦合村道路區畫改良新設ニ付家屋新築等ノ節届出方

△土木○區町村費支辨堤塘等ニ生スル竹木云々○葦合村道路區畫改良新設云々 四十七

●明治二十年三月廿六日縣令第百十四號

攝津國菟原郡葺合村

其村地内字小野新田道路區畫測量之上將來改良及新設ヲ要スル箇所別紙圖面之通相定メ標杭建設候條自今右區畫ニ據リ築設可致依テ該線路ニ沿フタル家屋ヲ新築又ハ改築セントスルモノハ豫テ戸長ハ届出ヘシ

但不得止該區畫ニ據リ難キ事實アルカ爲メ變更ヲ要スルモノハ詮議ノ上認可スルヲアルヘシ但本文ニ掲グル圖面ハ戸長役場ニ就キ閱覽スヘシ

○水面埋立規則

●明治二十年七月十九日縣令第百六十九號
水面埋立規則別紙之通相定ム

但明治十五年(二月)甲第三十六號全年甲第七十二號本縣布達ハ廢止ス

水面埋立規則

第一條 水面ヲ埋立所用セントスル者ハ願書ニ埋立方法書及地元町村故障ヲキ旨ヲ證シタル書面ヲ添ヘ差出スベシ

第二條 埋立方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 地名及ヒ所用ノ目的

一 平面及ヒ深淺實測圖(縮尺適宜尤工事施行方法等ヲ判明シ得ルニ足ルヲ要ス)

一 工事計畫說明並ニ工費計算書

一 許可ノ後着手ノ期限

一 着手後成功迄ノ間日々使用スル人夫ノ豫定

一 費途ノ豫算

一 一町村以上共同ノ事業ナルハ其資金ノ成り立

一 埋立地ニ屬スル浪除堤塘等後來修補負擔ノ區別

右ノ外必要ト見認ムル事項

第三條 埋立成功期限六箇月以上ニ涉ルモノハ着手ノ月ヨリ六箇月毎ニ工事ノ功程表ヲ添付シ出來形ヲ其翌月五日迄ニ届出ツヘシ

第四條 第二條第四項ノ期限ヨリ滿三箇月ニ至ルモ實地着手セサルモノ或ハ一旦着手ノ後滿六箇月間工事ヲ止メタルモノハ都テ許可ノ効ヲ失フベシ故ニ再ヒ許可ヲ得ルニアラサレバ降手スルコトヲ得ス

第五條 埋立方法書ノ通履行セス到底竣功ノ見込ナキモノト認定スルトキハ埋立許可ヲ取消スヲアルヘシ此場合且第四條ノ場合凡官ヨリ償ヒ等ヲ下附セサルベシ

第六條 埋立成功ノ上ハ其地盤ヲ實測シ字番號地目反別ヲ詳記セシ書面ニ明細ナル圖面ヲ添付シ速ニ届出ヘシ

第七條 埋立地ノ内道路堤塘溝渠等公共ノ用ニ供スル部分ヲ除ノ外ハ無代價下ケ渡ス

ヘシ

但第十條ニ係ルモノハ此限ニアラス

第八條 就業中天災或ハ正當ノ理由アリテ埋立方法書ノ通履行シ難ク或ハ延期ヲ要セントスル場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ願出ヘシ

第九條 就業中該埋立事業ヲ他へ讓渡サント欲スルモノハ双方連署願出ツベシ且未着手ノモノハ讓渡スヲ得ス

第十條 同一ノ場所ヲ二人以上望ム者アルハ公ノ入札ヲ以テ埋立成功ノ上可拂受價格ヲ需メ其高額ノモノへ埋立ヲ許可シ成功ノ上該價格ヲ以テ拂下シ

第十一條 本則第三第四第五第六第八第九條ハ從前許可ヲ請ケ未タ成功ニ立至ラサルモノニモ適用ス

但第三條後段及第四條ニ據ルヘキモノハ本則發布ノ月ヨリ其月數ヲ起算ス

○佐賀縣下竿燈私設ノ件

●明治二十年六月二十四日告示第百二十九號

佐賀縣下佐賀郡大詫間村字新搦ニ於テ蒲池見等燈竿ヲ私設シ該費用支消ノ爲メ本年六

廿年告示
第百三十三號

月十五日ヨリ向十箇年間左記ノ通船舶ヨリ燈費徵收ノ義許可セシ旨全縣ヨリ通知アリ

一 日本形船十九石以下	壹艘ニ付	金二錢
一 全二十石以上五十石未滿	全	金三錢
一 全五十石以上百石未滿	十石ニ付	金八厘
一 全五百石以上七百石未滿	全	金七厘
一 全七百石以上千石未滿	全	金六厘
一 全千石以上	全	金五厘
一 西洋形船	一噸ニ付	金六厘

●明治二十年七月九日告示第百三十三號

本年六月第百二十九號告示文中船舶ノ上エ入港ノ二字ヲ挿入ス

○自費ニテ溝蓋並木里道等取設ノ件

●明治二十一年五月十二日告示第六十一號

各 郡

左記ノ四件ハ自今出願ヲ要セス候條其都度所管戸長役場へ申出認可ヲ受クヘシ
一 自費ヲ以テ里道ニ屬スル溝蓋取設ノ事

△土木○佐賀縣下竿燈私設○自費ニテ溝蓋等取設ノ件

- 一 自費ヲ以テ二等以下里道へ並木植栽ノ事
- 一 自費ヲ以テ二等以下里道修繕ノ事
- 一 自費ヲ以テ二等以下里道へ水路ヲ伏設シ又ハ修繕スル事

類聚現行兵庫縣令訓全書第二編第四卷終

類聚現行兵庫縣令訓全書第二編第五卷

○兵事課

○庶務係

○陸海軍恩給等出願中異動届出方

●明治二十年九月六日訓令第百八十五號

郡區役所

戸長役場

陸軍恩給令ニ據リ恩給並ニ扶助料賑恤金給助金等出願中本人轉籍寄留替等身上異動アルトキハ速ニ當廳へ届出サシムヘシ

●明治二十年九月六日訓令第百八十六號

郡區役所

戸長役場

海軍恩給令ニ據リ恩給並ニ扶助料出願中本人族籍變換若クハ改氏名等異動アルトキハ速ニ當廳へ届出サシムヘシ

△兵事○陸海軍恩給等出願中異動届出方

○陸軍校團生徒隊ニ屬スル馬丁

●明治二十年一月十二日訓令第七號

郡區役所

戸長役場

陸軍校團生徒隊ニ屬スル馬丁ハ普通官舎内ニ寄留スル者ト異ナルヲ以テ在屯營下士卒全様現在地ニ於テハ其入出調査ヲ要セサルニ付本籍地ニ於テ右備入又ハ解備ノ通知若クハ屆書ヲ受領シタルトキハ戸籍取扱手續ニ依リ出寄留簿ヲ加除シ戸籍表調製ノ節ハ之ヲ第二人口出入表出寄留ニ算入スヘシ

○陸軍各兵科現役免除願ノ件

●明治廿一年五月卅一日告示第六十九號

本年(三月)勅令第十七號陸軍各兵科現役下士補充條例第八條ニ據リ現役免除ヲ願フ者其事故父兄之死亡處刑若クハ失踪等ハ戸長(區ハ區長)之証明書癘疾不具等ハ醫師之診斷書ヲ其親族ヨリ本人ヘ送付スヘシ

○陸軍各兵科身分財產教育性質及品行證明書調製規準

●明治二十年八月十八日訓令第八十號

郡區役所

勅令第二十七號陸軍各兵科現役士官補充條例第六條及陸軍省令第十三號陸軍幼年學校條例第八條ニ揭示ノ身分財產等ノ証明書ハ可成詳細ヲ要スルモノニ付右志願者有之片ハ其都度左ノ規準並ニ証明書々式ニ準據調製シ當廳ヘ差出スベシ

身分財產教育性質及品行證明書調製規準

- 一 身分財產教育性質及品行證明書ハ左ノ項目ニ據リ別紙書式ニ準シ調製スベシ
- 二 身分ハ戸長ノ證明書ニ據リ(區ハ區長ノ證明ヲ爲シ得ル者以下戸長トアル者同シ)父(存亡ヲ問ハス)並ニ現時戸主ノ身分履歷ヲ記載シ然ル後本人ノ身分ヲ記載ス
- 三 財產ハ戸長ノ證明書ニ據リ父並ニ現時ノ戸主及本人ノ財產ヲ記載ス若シ父或ハ戸主ノ財產ト本人ノ財產ト合併セル者ハ併セ記スヘシ
- 四 教育ハ本人ノ届出ト其教授セシ教師ノ證明書ニ據リテ記載シ且卒業證書アル者ハ其寫ヲ添フヘシ
- 五 性質ハ父(母)(祖父母)(兄弟)等並ニ戸長及ヒ教育ヲ受ケシ教師ノ證明書ニ據リテ記載スヘシ

△兵事○陸軍校團生徒隊云々○陸軍各兵科現役免除願○陸軍各兵科身分等證明書 三

六品行ハ裁判所或ハ警察署ノ證明書等ニ據リ其父(存亡ヲ問ハズ)並ニ現時戸主ノ素行ヲ記載シ然ル後本人ノ素行ヲ記載ス
 七寄留人所管ノ郡區長ニノ証明ヲ爲シ得サルハ本籍郡區長ニ照會シテ之ヲ爲スベシ
 書式

身分財產教育性質及品行證明書

一身分

○父

- 一 何府(縣)何族(平民)舊何藩何族(平民)何某現今(元)何省(府)(縣)等何官奏任(判任)何等
- 一 陸軍何官何某何ノ何年何々出征(征討)ノ役何月何日何處ニ於テ戰死(負傷現今退職)等
- 一 現今(元)第何國立銀行頭取(何會社々長)(何會社役人)(農)(工)(商)等
- 一 右ノ外官職等ノ任免營業等ヲ履歷詳細ヲ記スヘシ

○現時ノ戸主

- 一 父ノ項ニ準スヘシ
- 一 但母(祖父母)(兄弟)等タルヲ記載スヘシ

○本人

- 一 何府(縣)何族(平民)何學校生徒(何營業)(何省何官)等

二財產

○父

- 一 不動産不動産ノ所有高
- 一 何々ノ所得税金何圓ヲ納ム
- 一 不動産不動産ヲ所有セサルモ家計困難ナシ(僅ニ家計ヲ維持ス)
- 一 家計困難(稍々困難ナリ)(甚シク困難ス)

財產ノ所有高或ハ生計上ノ現狀ヲ詳細記載スベシ

○現時ノ戸主

- 一 父ノ項ニ準スベシ
- 一 但母(祖父母)(兄弟)等タルヲ記載スヘシ

○本人

- 一 父ノ項ニ準スベシ
- 父本人(現時ノ戸主本人)(此書式ハ父或ハ現時ノ戸主ト本人トノ財產合併セル者ニ適用ス)
- 一 父ノ項ニ準スベシ

三教育

- 一 何年何月何歳ニシテ何府(縣)何郡(區)何小學ニ入り何年何月何歳ニシテ尋常小學全科卒業

△兵事○陸軍各兵科身分財產教育性質及品行證明書調製規準 五

- 一 何年何月何歳ニシテ何々高等小學ニ入り何年何月何歳ニシテ高等小學全科卒業
- 一 何年何月何歳ニシテ尋常中學ニ入り何年何月何歳ニシテ尋常全科卒業
- 一 何年何月何歳ニシテ何年何月ヨリ何年何月マデ何學校(塾)ニ入り教師某ニ就キ何學マテ學フ

但學科精細ノ科目又ハ修學セシ書名等ヲ記載スベシ

- 一 何年何月ヨリ何年何月マデ何學研究ノ爲メ何國(外國ヲ云フ)ニ在留

四 性質

- 一 溫良(敏捷)等

五 品行

- 一 裁判所或ハ警察署ノ證明書

(身代限リノ處分ヲ受ケシコトナシ輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ賭博犯ノ處分ヲ受ケタルコトナシ)

- 一 違警罪又ハ懲戒等ニ依リ罰セラレタルモノ、類

○現時ノ戸主

- 一 父ノ項ニ準スベシ

但母(祖父母)(兄弟)等タルコトヲ記載スヘシ

○本人

一 父ノ項ニ準スベシ

右之通相違無之候也

年號月日

何郡(區)長姓名 印

○後備軍司令部條例中改正追加

●明治二十年一月十一日告示第六號

明治十四年(四月)當縣甲第六十四号布達後備軍司令部條例中左ノ通改正追加シ本年四月二十日ヨリ施行セラル

第五條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但分營所在地府縣駐在官ハ分營ニ召集ス可キ歸休兵並ニ豫備役後備軍驅員兵員ニ係ル事務ヲ兼掌ス

第五條第二項中「徵兵調査及ヒ」ヲ削リ「擔任ス」ヲ「擔任シ又毎年新兵徵集ノ際徵兵檢査所ニ出頭シ同所ノ事務ヲ補助ス」ニ改ム

「第四章後備兵點呼」ヲ削ル

第三十一條ヨリ第四十四條ニ至ル諸條ヲ削ル

「第五章」ヲ「第四章」ニ「第四拾五條」ヲ「第三拾一條」ニ改メ以下箇條順次繰リ上ケ

△兵事○後備軍司令部條例中改正追加

第五拾四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四拾一條 分營ニ召集ス可キ歸休兵並ニ豫備役後備軍艦員兵員ノ名簿ハ適宜之ヲ調製シ同地府縣駐在所ニ備置ク可シ

●明治廿二年二月十日告示第三十六號

明治十四年四月當縣甲第六十四號布達後備軍司令部條例中左ノ通改正セラレ
 群馬縣東群馬郡駐在所ヲ同縣西群馬郡高崎ニ移シ西群馬郡駐在所ト稱ス
 新潟縣新潟區駐在所ヲ同縣北蒲原郡新發田ニ移シ北蒲原郡駐在所ト稱ス
 福島縣岩瀨郡駐在所ヲ同縣西白河郡白河ニ移シ西白河郡駐在所ト稱ス
 第四師管宮城縣駐在所ヲ牡鹿郡石卷ニ移ス
 第四師管宮城縣志田郡駐在所ヲ牡鹿郡石卷ニ移シ牡鹿郡駐在所ト稱ス
 第七師管大坂府堺區駐在所管轄ノ内丹北郡大縣郡ヲ同府東區駐在所ノ管轄トシ同府式上郡駐在所管轄ノ内葛上郡葛下郡忍海郡宇智郡ヲ同府堺區駐在所ノ管轄トス
 兵庫縣川邊郡駐在所管轄川邊郡有馬郡ヲ同縣神戸區駐在所ノ管轄トス
 兵庫縣川邊郡駐在所ヲ同縣加東郡社村ニ移シ加東郡駐在所ト稱ス
 兵庫縣飾東郡駐在所管轄ノ内加東郡加西郡加古郡印南郡神東郡神西郡多可郡及ヒ朝來郡駐在所管轄ノ内多可郡ヲ同縣加東郡駐在所ノ管轄トス
 兵庫縣飾東郡駐在所管轄ノ内明石郡美嚮郡ヲ同縣神戸區駐在所ノ管轄トス
 第八師管京都府南桑田郡駐在所ヲ同府船井郡園部ニ移シ船井郡駐在所ト稱ス

○監視區所在地及其區域

●明治廿一年五月二十九日告示第六十六號
 本年勅令第二十九號大隊區司令條例第九條ニ據リ監視區所在地及其區域等當縣下ニ係ル分左ノ通定メラル

大 隊 區	監 視 區	區 域
神戸區	大坂府西成郡 曾根崎 神戸區 神 戶	川 邊 郡 神戸區 八郡郡 美嚮郡 加古郡 淡路國一圓
飾東郡 姫 路	飾東郡 姫 路 佐用郡 三日月	加東郡 多可郡 東郡 神西郡 揖東郡 揖西郡 赤穂郡 佐用郡 宍粟郡
京都府 與謝郡 宮 津	城崎郡 豐岡 京都府船井郡 園 部	但馬國一圓 多紀郡 水上郡

△兵事○監視區所在地及其區域

○常備歸休兵等旅費概則

●明治二十年一月二十一日訓令第十六號

郡區役所

戸長役場

常備歸休兵豫備役後備軍艦員兵員召集及教導團生徒旅費概則左之通定メラル
但明治十四年九月當縣乙第百一號達廢止ス

第一條 教導團ニ入學及常備歸休兵豫備役後備軍艦員兵員召集旅費十里詰金四十錢滞在日當金二十八錢ヲ給スヘシ但シ十里以上之端里數一里以上六里未滿ハ日當之半額六里以上ハ全額ヲ給ス

第二條 近方三里未滿ハ給セス三里以上六里未滿ハ半額ヲ給シ六里以上ハ全額ヲ給ス但三里未滿ト雖モ一泊セシムルハ金廿錢三里以上六里未滿一泊セシムルハ金四十錢ヲ給シ又召集地ニ到着翌日午後ニ至入營セシムルハ別ニ晝食料八錢ヲ給ス

●明治二十年六月十八日訓令第五百五十五號

郡區役所

戸長役場

歸休兵并ニ豫備役後備軍艦員兵員臨時召集ノ途中ニ於テ疾病若クハ川支等ニ依リ旅費欠乏シ召集地又ハ近衛兵集合地ニ到リ難キ旨ヲ以テ旅費繰替ヲ求ムル者アルハ事實取調之上其役所或ハ役場ニ於テ一日行程十里詰金四十錢（本年一月當縣訓令第十六號

ニ依ル）ノ割ヲ以テ一時繰替受領証ヲ徵シ發程セシメ置直ニ原籍氏名隊号兵種番号金員等ヲ詳記シ受領証ヲ添ヘ當廳ニ請求スヘシ

○兵庫縣馬匹調査徵發手續

●明治廿一年七月十一日訓令第三百三號

郡區役所

戸長役場

當縣馬匹調査徵發手續別冊之通相定ム

但明治十九年九月當縣第八號及ヒ本年一月同第五號訓令ハ自今廢止ス

兵庫縣馬匹調査徵發手續

第一章

調査

第一條 郡區役所戸長役場ニ於テハ附錄第一號書式ニ據リ馬籍ヲ編製シ出師ニ際シ徵馬ノ用ニ供スヘキモノトス

第二條 前條ノ馬籍ハ區役所及戸長役場ハ町村毎ニ郡役所ハ戸長役場毎ニ乘馬駕馬馱馬耕馬等ノ部類ヲ分チ編製スヘシ

但乘馬ノ駕馬ヲ兼馱馬ノ耕馬ヲ兼ヌル類ハ其主ナル部ニ登記シ役種ノ區畫ニ兼何々ト朱記シ駒ニシテ役種ヲ付シ難キ者ハ別ニ役種未定ノ部ヲ設ケ記載スヘシ

第三條 馬匹ノ産斃賣買及使役變換等ノ異動届ヲ受理シタルハ速ニ前條ノ馬籍ニ加

△兵事○常備歸休兵等旅費概則○兵庫縣馬匹調査徵發手續

除チ爲スヘシ

但除クヘキモノハ原書ニ朱線ヲ引キ加フヘキモノハ其部類ノ町村ニ就キ更ニ登記シ且ツ賣買ノ全町村ニ係ルノ類ハ原書ニ訂正ヲ加ヘ主任認印ヲ捺スヘキモノトス尤モ其異動數次ニ涉リ原書ニ加除スヘキ餘白ナキハ懸紙ヲ爲スモ妨ケナシト雖モ必ス主任ノ契印ヲ要ス

第四條 戸長ハ異動届チ一ヶ月毎ニ取纏メ郡長ニ差出シ郡長ハ之ヲ調査シ第三條ノ例ニ據リ加除チ爲スヘシ

第五條 戸長(區ハ區長)ハ毎年一月ニ至レハ前年十二月卅一日ノ現在チ以テ概子左ノ項目ニ準シ馬匹車輛及屬具等ノ適否ヲ調査シ附錄第(二三)號表式ニ據リ製表シ二月五日限リ郡長(區長ハ二月十五日限リ當廳)ニ差出シ郡長ハ之ヲ取纏メ同表式ニヨリ更ニ製表シ同月十五日限リ當廳ヘ差出スヘシ

但徵發令第十四條相當并ニ乘馬飼養令ニ依リ飼養スル馬匹ハ調査ヲ要セス

第一 馬匹(乘馬駕馬馱馬耕馬)ハ年齢五歳以上十六歳未満ニシテ第二項乃至第四項ニ適當ノ者チ以テ合格トシ其他ハ不合格トス但年齢ハ生年チ以テ一歳トシ計算スヘシ

第二 乘馬ハ身幹四尺五寸(曲尺以下同シ)以上ニシテ現在乘馬ニ役スル者

第三 馱(耕)馬ハ身幹四尺三寸以上ニシテ現在馱(耕)馬ニ役スル者

但合格ノ馱馬ニシテ屬具完全連日ノ使用ニ堪ユル者チ甲トシ屬具完全ナラスト

雖モ一時ノ用ニ供シ得ル者チ乙トシ其員數ヲ備考區畫ニ記載スヘシ

第四 駕馬(人乘馬車及荷馬車ヲ輓ク者ニ限ル)ハ身幹四尺五寸以上ニシテ現在駕馬ニ役スル者

第五 車輛(人乘馬車荷馬車ニ限ル)ハ其器具完全ニシテ連日ノ運轉ニ堪ユルモノチ甲トシ器具完全ナラサルモノ一時ノ用ニ供シ得ヘキ者チ乙トスヘシ

第六條 毎年三月ニ至リ第四師團長ヨリ出師年度(毎年五月一日ヨリ翌年四月盡日迄)内ニ徵用スヘキ馬匹車輛等員數ノ通牒ヲ受レハ直ニ各郡區ニ分割シテ之ヲ第二部ヨリ各郡區役所ニ通牒セシムルモノトス

第七條 郡長ハ前條ノ通牒チ得タルルハ各戸長役場部内ニ分割シテ之ヲ各戸長ニ通達シ而シテ其分割ノ員數チ附錄第四號表式ニ據リ製表シ四月十日迄ニ當廳ニ差出スヘシ第八條 戸長ハ前條ノ通牒長ハ第六條ノ通牒チ得タルルハ各町村ニ分割シテ馬匹車輛チ指定シ其徵發ノ賦課ニ際シテ直ニ之ニ應スヘキ旨並ニ第十三條及第十八條乃至第廿一條ノ趣旨チ馬主ニ示諭シ能ク會得セシメ置クヘシ

但指定ノ馬匹車輛ニ異動チ生スルルハ他ノ馬匹車輛チ以テ填補シ置クヘキ者トス若シ填補スルコト能ハサルトキハ戸長ハ速ニ郡長ニ報告シ郡長ハ直ニ他ノ役場部内ニ分割シ常ニ遺漏ナキヲ要ス

第九條 郡區長ハ毎年四月一日調チ以テ附錄第五號表式ニ據リ旅費日當概算表チ製シ同月二十日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

第二章

徵發

第十條 本章ノ馬匹徵發ハ徵發令第三條中師團長ニ於テ戰時若クハ事變ニ際シ徵用スル場合ニ限ルモノトス

但徵發ノ方法ハ大率子徵發令及同事務條例ニ據ルヘキモノトス

第十一條 第四師團長ヨリ馬匹徵發ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ電信又ハ別飛ヲ以テ之ヲ郡區長ニ令達スヘキ者トス

第十二條 郡區長ハ前條令達ヲ受クレハ郡長ハ速ニ之ヲ戶長ニ達シ區長及戶長豫テ指定シタル馬主ニ命シ馬匹輓具車輛鞍屬具等ニ附錄第六號ノ馬主馬匹名簿ヲ添ヘ大坂練兵場ニ牽行シ該地出張ノ馬匹受領委員ニ交付セシムヘシ

但名簿ハ區長又ハ戶長ニ於テ豫シメ之ヲ製シ置發スルニ臨ミ年月日時ヲ記入シ本人ニ携帶セシムル者トス

第十三條 區長及戶長ニ於テ馬主ニ前條ノ命令ヲ爲スルハ直ニ便宜ノ方法ヲ以テ本人旅費日當及馬匹ノ日當ヲ支給シ十二時以內ニ出發セシムヘシ

但一日行程八里詰(八里詰ハ最下限トス)トス

第十四條 郡長ヨリ戶長ニ發スヘキ達書區長及戶長ヨリ馬主ニ發スヘキ命令書等ハ豫シメ之ヲ製シ置キ發スルニ臨ミ年月日時ヲ記入スヘキモノトス

第十五條 郡區長及戶長ニ於テ馬匹徵發ノ令達ヲ受ケタルルハ第十二條ノ達書命令書等ヲ發スル迄ノ所要時間ハ各二時間トス

第十六條 郡區長及戶長ハ部内ノ廣狹ニ應シ所要ノ脚夫ヲ豫定シ置クヘシ

但脚夫ノ速度ハ一時間一里半トス

第十七條 第十三條ニ據リ各馬主ニ渡スヘキ第廿一條ノ旅費日當金及馬匹牽行命令書等ノ受領證ハ豫シメ之ヲ製シ置キ事ニ臨ミ年月日時ヲ記入シ捺印セシムヘキ者トス

第十八條 馬匹受領委員ハ各馬主ノ牽行シタル馬匹車輛及屬具等ヲ檢査シ之ヲ買上借上ニ區別シ其價ヲ評定シ然後其証票ヲ各馬主ニ交附スルモノトス

第十九條 馬主ニ於テ買上証票ヲ受領セシルハ之ヲ戶長(區ハ區長)ニ差出シ戶長ハ之ヲ郡長ニ差出シ郡區長ハ之ニ代價請求書ヲ添ヘ常廳ヲ經テ第四師團監督部ニ送附スルモノトス

但郡區長ニ於テ代價ヲ受領シタルルハ郡長ハ(區長ハ直ニ)戶長ヲ經テ各馬主ニ下附セシメ其受領証ヲ徵シ仍ホ常廳ヲ經テ之ヲ該監督部ヘ送附スルモノトス

第二十條 借上馬匹ノ賃金ハ馬匹返付ノ後前條ノ手續ニ依リ下附スルモノトス

第廿一條 區長及戶長ニ於テ第十三條ニ據リ馬主ニ支給スヘキ旅費日當ハ左ノ定額ニ據ルヘキ者トス

第一 馬匹牽行ノ節往路ハ一日八里詰歸路ハ一日十里詰ヲ以テ日當金拾四錢ヲ支給ス以上ノ端里數往路ハ四里以上歸路ハ五里以上ニ及ブルハ日當ノ半額ヲ増給ス

但歸路若シ馬匹牽行スルコトアルルハ總テ往路ニ準ス
第二 近傍往返八里未滿ハ日當ヲ給セス八里以上十里未滿ハ日當ノ半額十里以上十

六里未滿ハ日當一日分ヲ支給ス
 第三 借上馬匹受取ノ爲メ出場スルハ往路一日十里詰歸路一日八里詰ヲ以テ前二項ニ據リ日當ヲ支給ス
 第四 馬匹ハ片道九里未滿ハ日當ヲ給セス九里ニ及フハ日當金拾五錢ヲ支給ス以上ノ里數ハ八里毎ニ日當二日分ヲ支給ス 但官ノ都合ニ據リ(指定ノ場所ニ率行ノ上)不用トナリタルハ往路十里以上十八里未滿ハ一日分ノ日當ヲ支給ス
 第五 官ノ都合ニ據リ滞在ヲ命スルハ八里馬共第一項第四項ノ日當ヲ支給ス
 附錄第一號 用紙美濃紙

明治何年何月編製

馬 籍

何郡(區)役所
(何戸長役場)

番號

產地名(又ハ產地不詳)

牝(牡)馬
年 齡

族籍業

何

某

馬 主 何郡區町村
役 種 乘馬(駕馬)(馱馬)(耕馬)

身 體 幹 何尺 何寸
 體 格 並(肥)(瘠)
 性 質 剛強(柔順)(猛悍)(篤鈍)
 毛 色 青(白)(栗毛)(何々)
 原 價 何拾何圓
 屬 具 完備(又ハ何々不足)
 事 故 何年何月幾何年何月前後左右足負傷馳驅ニ妨ケアリ
 差出所距離 何里何丁
 乘馬(駕馬)(馱馬)(耕馬)
 見出ノ例

附錄第二號

明治何年何月何日調

馬匹増減表

何戸長役場
(何郡區役所)

種 別	牝		牡		計
	現	増	減	増	
五歲以上十六歲未滿					
五歲未滿					
十六歲以上					
四尺五寸未滿					
馱馬					
駕馬					
耕馬					
乘馬					
馱馬					
耕馬					
乘馬					
馱馬					
耕馬					
計	減	増	減	増	

△兵事○兵庫縣馬匹調査徵發手續

考備

二郡以上所轄ノ郡役所ニ在テハ郡毎ニ製表シ其郡名ヲ初欄馬匹ノ頭ニ可記入者トス
附録第三號

明治 何年
何月何日調

車輛員數表

(何郡區役所)

考備	計	種別		甲		乙	
		何長 戶長 役場 部内	種別	人乘馬車	荷馬車	人乘馬車	荷馬車
		引一頭	車二輪	引一頭	車二輪	引一頭	車二輪
		引一頭	四輪車	引一頭	四輪車	引一頭	四輪車
		引二頭	車二輪	引二頭	車二輪	引二頭	車二輪
		引二頭	四輪車	引二頭	四輪車	引二頭	四輪車
		引一頭	車二輪	引一頭	車二輪	引一頭	車二輪
		引一頭	四輪車	引一頭	四輪車	引一頭	四輪車
		引二頭	車二輪	引二頭	車二輪	引二頭	車二輪
		引二頭	四輪車	引二頭	四輪車	引二頭	四輪車

二郡以上轄管ノ郡役所ニ在テハ郡毎ニ製表シ其郡名ヲ初欄車輛ノ頭ニ記入スヘキ者トス
區役所并ニ戶長役場ニ於テハ上欄ハ記スルニ及ハス
附録第四號

明治 何年 出師年度中徴發ニ應スヘキ馬匹區分表

何郡區役所

考備	合計	種別		乘馬		駄馬		駕馬		小計
		何長 戶長 役場 部内	種別	牝	牡	牝	牡	牝	牡	
				牝	牡	牝	牡	牝	牡	

駄馬ノ區畫ニハ耕馬モ算入スヘキ者トス

附録第五號

明治 何年 馬匹徴集 旅費概算表 何郡(區)役所
何月何日調

△兵事○兵庫縣馬匹調査徴發手續

何郡區役所々在地ヨリ大坂練兵場迄里程	馬匹員數	牽行人員	馬匹	日當	牽行人旅費	合	金
何十何里	何頭	何人	金何圓何拾	何錢	金何圓何拾	金何拾何圓	

備考

○旅費日當ハ郡區中最遠ノ町村ヲ以テ積算スルモノトス○馬匹日當ハ片道牽行人旅費ハ往返共テ積算スルモノトス
附録第六號

馬主名簿

兵庫縣何國何郡(區)何町(村)
族職業

何某

年 齡

距大阪練兵場何里何町

馬匹名簿

產 所	年 齡	寸 尺	毛 色	原 價	乘 駕	馱 馬	番 號
右乘(駕)	(馱)	馬輓具車輛(馱鞍)	屬具ヲ添へ	何年何月何日何時	大阪練兵場ニ向ケ出發致		

候也

右

何、某印

右相違無之候也

區長(戶長)

何 某印

明治 年 月 日

馬匹名簿中ノ番号ハ區役所又ハ戶長役場部内毎ニ付スル者トス

○乘馬馱馬駕馬車輛並 屬具取調表

郡區役所

廿一年訓
令第五号

●明治二十年一月八日訓令第二號

徵發令第十二條第二項ノ乘馬馱馬駕馬車輛並ニ屬具ノ員數左ノ項目ニ依リ取調左ノ書式ノ表面ヲ製シ本月三十一日迄ニ當廳へ差出スヘシ

但徵發令第十四條並ニ乘馬飼養例ニ據リ飼養スル馬匹ハ調査ヲ要セス

第一 馬匹(乘馬、駕馬、馬馱、耕馬)ハ本年々齡五歲以上十六歲未滿ノモノニシテ第二

項ヨリ第四項ニ適當ノ者ヲ合格トシ其他ノ者ヲ不合格トシ調査スヘシ
但年齡ハ生年ヲ一歲トシテ計算スヘシ

△兵事○乘馬馱馬駕馬車輛并屬具取調表

第二 乘馬ハ身幹四尺五寸(曲尺)以上ニシテ現在乘馬ニ役スルモノ又ハ曾テ乘馬ニ役セシ者ヲ算入スヘシ

第三 駄馬ハ身幹四尺三寸以上ニシテ現在駄馬ニ役スルモノ又ハ曾テ駄馬ニ役セシ者ヲ算入スヘシ

但現在耕馬ニ役スルモノ又曾テ耕馬ニ役セシモノハ本項ノ駄馬ニ算入スヘシ

第四 駕馬ハ身幹四尺五寸以上ニシテ現在駕馭ニ役スルモノ又ハ曾テ駕馭ニ役セシ者ヲ算入スヘシ

第五 車輛ハ二輪又ハ四輪人乘馬車荷馬車(馬ヲ發シ得ルモノハ總テ含有ス)ニ限ル又器具完全ニシテ數日ノ運轉ニ耐ユルモノヲ甲トシ器具完全ナラサルモ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査スヘシ

第六 屬具ハ輓具駄鞍(附屬繩共)ニ限ル又具材料完全ニシテ數日間ノ使用ニ耐ユルモノヲ甲トシ材料完全ナラサルモ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査スヘシ

明治何郡馬匹員數表

郡區	種別	合		不		合		格	
		五歲以上	十六歲未滿	五歲未滿	十六歲以上	四尺三寸未滿	四尺三寸以上	四尺三寸未滿	四尺三寸以上
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								
	駕馬								
	駄馬								
	乘馬								

○徵發事務取扱手續中改正追加

●明治二十年十二月廿四日訓令第二百廿七號 郡區役所 戸長役場
 明治十九年(十月)訓令第十三號徵發事務取扱手續中左之通改正追加ス
 一第八條第一項民家ノ下「總」ヲ「現在軒」ニ改ム
 一同條第六項及第七項其「數」ヲ其「建坪」ニ改ム
 一附錄第五號中「斗」ヲ「合」ニ改ム
 一同備考ニ「玄米中陸米糯米ハ算入セサル者トス」ノ一項ヲ追加ス

○神戸海員雇入雇止事務取扱所

●明治二十年七月二十一日告示第三百三十九號
 神戸海員雇入雇止事務取扱浦役場之義神戸區東川崎町日本海員救濟會神戸海員寄留所
 内へ移轉シ神戸海員浦役場下改稱シ來ル八月一日ヨリ海員雇入雇止メ公認事務ヲ取扱
 ハシム

○海軍生徒下士卒傭夫死亡者取扱規則中改正

●明治二十年十月二十日告示第七十一號
 明治十九年(七月)當縣甲第八十九號布達海軍生徒下士卒傭夫死亡者取扱規則第四條左
 之通改正セラル
 第四條 溺死等ニテ死體ナキ片ハ其正服或ハ略服ヲ死體ニ代ヘ葬ルコトヲ得又傳染
 病死者ハ之ヲ火葬シ或ハ充分ノ消毒法ヲ施シタル後埋葬スヘシ

○海軍歸休兵等結婚願書差出方

●明治廿一年六月二日告示第七十三號
 海軍歸休兵及豫備兵之結婚願書ハ直ニ鎮守府司令長官ニ差出スヘシ

△兵車○徵發事務取扱手續○海員雇入雇止○海軍下士卒傭夫死亡者取扱規則○海軍歸休兵等結婚願書 廿七

○他府縣ノ者ニテ當縣下ニ寄留
中陸軍現役士官候補生志願方

●明治廿一年二月十五日訓令第十五號

郡區役所

戸長役場

他府縣之者ニシテ當縣下寄留中陸軍現役士官候補生并ニ陸軍幼年學校生徒志願之節ハ其履歴及ヒ教育ヲ受ケシ顛末ヲ詳記シ原籍區戸長ヘ届出サスヘシ

○陸軍徵兵事務取扱手續中改正

●明治二十年三月十八日訓令第七十四號

郡區役所

戸長役場

明治十七年(八月)當縣乙第三百三十二號達陸軍徵兵事務取扱手續中左之通改正セラル
第一項中「十一月」トアルヲ「六月」翌年「トアルヲ」其年「ト改ム」
第十七項中「十一月」トアルヲ「六月」ト改ム
第十八項中「三月十日」トアルヲ「十月三十一日」ト改ム
第二十四項中「九月」トアルヲ「四月」ト改ム
番號割付雛形裏面四項中「其年九月」トアルヲ「翌年四月」ト改ム

廿一年訓令第二十
号ヲ以テ
二項ヲ加

同十一項中「四月二十日」トアルヲ「十二月一日」ト改ム
同十四項中「二十八歳」トアルヲ「二十七歳」四月「トアルヲ」十二月「ト改ム」

○陸軍召集旅費概算表取扱手續

●明治廿一年一月十九日訓令第六號

郡區役所

陸軍召集條例第百六十五條ノ召集旅費概算表ハ二十一年度ニ限り左ノ諸項ニ據リ取扱
フ可シ

一明治二十一年度召集旅費概算表ハ本年五月一日ヨリ二十二年四月三十日迄トス
一近衛後備軍艦員兵員ハ騎砲兵科ヲ除クノ外ハ本籍所管鎮臺ヘ召集スルモノトシ其人
員及ヒ旅費金ヲ鎮臺後備軍艦員兵員ノ區畫ニ合算スルモノトス

但人名及ヒ召集地ハ當廳第二部ヨリ通報セシム

一豫備役後備役輜重輸卒中若干ヲ近衛ニ召集スルモノトシ調製スヘシ

但人名通報方ハ前項但書ニ同シ

一召集旅費概算表ハ第一次ハ本年五月一日以後十一月九日迄第二次ハ十一月十日以後
翌年四月三十日迄ノ各現在員ヲ豫算シ第一次ハ四月十日第二次ハ十月十日迄ニ當廳
及ヒ國庫金出納本支所ヘ送付スヘシ

△兵事○他府縣ノ者士官候補生志願○陸軍徵兵事務取扱手續○陸軍召集旅費概算表取扱手續

●明治廿一年二月廿四日訓令第廿號

郡區役所

本年(一月)當縣訓令第六號陸軍召集旅費概算表取扱手續中ニ左ノ二項ヲ追加ス

- 一 騎砲兵科ノ近衛後備軍驅員兵員ハ近衛充員ニ召集スルモノトシ其區畫ニ合算スヘシ
- 一 騎砲重兵科ノ鎮台後備軍驅員兵員若干ヲ充員ニ召集スルモノトシ其區畫ニ合算スヘシ但充員ノ別區人名召集地通報方ハ第二項但書ニ同シ

○陸軍召集條例中召集旅費概算ニ係ハル件

●明治二十年一月十四日訓令第十一號

郡區役所

明治十九年陸軍省令甲第三拾九號陸軍召集條例第十四様式召集旅費概算表ハ現員ノ十分ノ三ヲ加ヘ調査ス可シ

但本文十分ノ三ニ當ル人員ノ旅費金ハ現員中最遠隔ノ者ニ均シキ額ヲ以テ算ス可シ

●明治二十年四月十六日訓令第百五號

郡區役所

明治十九年陸軍省令甲第三十九號陸軍召集條例第六十五條ノ召集旅費概算ハ本年初度ノ分ニ限リ四月廿日以後現在スヘキ人員ヲ豫算シ調査ノ上五月十日迄ニ右概算表壹通ハ當廳ヘ差出シ壹通ハ金庫國庫出納所或ハ同支所ヘ送附スヘシ

●明治二十年十月三十一日訓令第二百十四號

郡區役所

陸軍召集條例第十四様式召集旅費概算表合計區畫ノ金額ハ第二充員召集ノ旅費金ヲ扣除シ記載スベシ

●明治廿一年一月十四日訓令第九號

郡區役所

陸軍召集條例第六十五條ニ據リ郡區役所ヨリ國庫金出納本支所ヘ送付ノ召集旅費概算表欄外ニ五月十日調ハ第一次十一月十日調ハ第二次ノ三字ヲ朱書スヘシ但客年十一月十日調ニシテ既ニ送付ノ分ハ追報スヘシ

○陸軍召集條例實施ニ付キ飛信ノ件

●明治二十年五月三十一日訓令第四百十七號

郡區役所

客年十月陸軍召集條例發布客月二十日ヨリ實施相成候ニ付テハ自然飛信ヲ使用スル義可有之候條渡舟場等ノ夜越無之地ハ其機ニ當リ差支無之様豫テ其向ヘ相達シ置クヘシ

○陸軍召集條例中召集セサル者ノ件

△兵事○陸軍召集條例中召集旅費概算○同條例實施ニ付飛信ノ件○同條例中不召集者 卅一

●明治二十年四月廿二日訓令第一百十二號

郡區役所

戶長役場

本月廿日陸軍召集條例實施相成候條左ノ項目ニ當ル者ハ召集(充員又ハ後備軍若クハ演習トモ包含ス)ニ際シ召集セサルモノトス

但第二項中府縣駐在官ニ於テ告發セシ者ノ人名ハ郡區駐在官ヨリ郡區長ヲ經テ戶長ニ通知アルモノトス

一豫備後備服役中地方衙ノ處分ヲ受ケ其處刑中ノ者

一豫備後備服役中陸軍刑法又ハ普通刑法ニ係ル罪ヲ犯シ地方衙ニ於テ處分未濟又ハ告發中ノ者但賭博犯ノ者モ本文ニ準ス

○徵兵願屆心得中追加

●明治二十年三月廿三日縣令第一百十號

明治十九年(七月)甲第八十五號當縣徵兵願屆心得中左ノ通改正ス

第二條 徵兵事務條例第十六條ニ據リ各自屆ニ添付スヘキ戶籍寫ハ戶長(區ハ區長)ノ與書証印ヲ受クヘキモノトス

但戶籍登記書式改正後ニ係ル者ハ新舊戶籍寫ヲ添付スヘシ

第四條但書中「翌年」トアルヲ「其年」ト改ム 第六條及第七條中「四月十一日」トアルヲ「十一月二十一日」ト改ム 第七條但書中「翌年四月十日」トアルヲ「其年十一月二十日」ト改ム 第八條但書中「四月十日」トアルヲ「十一月二十一日」ト改ム 第九條但書中「翌年四月十日」トアルヲ「其年十一月二十日」ト改ム 第十條六條但書末行中「診斷書」トアルヲ「通知書」ト改ム 第三書式(其一)中「來年一月」トアルヲ「本年十二月」ト改ム 同書式(其二)中「何年一月」トアルヲ「本年十二月」ト改ム

●明治廿年五月卅一日縣令第四百十六號

明治十九年(七月)當縣甲第八十五號布達徵兵願屆心得第二十一條及第二十七條中左之通改正ス

第二十一條割註「一通」ノ下「陸軍兵」ノ四字「司令部宛」ノ下「海軍兵ハ橫須賀鎮守府宛」ノ一字ヲ加ヘ「當廳ノ上」ハ「ヲ」ヲ「ト」改ム

第二十七條中「海軍省軍務局宛」ヲ「橫須賀鎮守府宛」ニ改ム

●明治二十一年五月十一日縣令第六十六號

明治十九年七月當縣甲第八十五號布達徵兵願屆心得第二十七條但書ノ次ハ更ニ左ノ一項ヲ追加ス 海軍現役兵滿期歸郷シタル片ハ其日方三日以内ニ區戶長ニ届出ヘシ

●明治二十一年七月廿四日縣令第九十五號

明治十九年(七月)甲第八十五號布達當縣徵兵願屆心得第四拾條左之通改正ス

第四十條 豫備後備兵轉籍寄留或ハ養子又ハ離縁復籍分家相續人入婿結婚等身上ニ異動ヲ生シ豫備兵後備兵在郷中ノ守則ニ據リ差出スヘキ願屆ハ總テ戶長役場郡區役所ヲ經テ監視區長或ハ大隊區司令官ニ差出スヘシ 但本文願屆差出シタル片ハ其願末(願ハ指令濟ノ上)區ハ區長郡ハ戶長與書証印ヲ受ケ郡役所ヲ經テ當廳ヘ届出ヘシ

△兵事○徵兵願屆心得中追加

○近衛鎮臺後備軍艦員召集手續

●明治二十一年三月十四日縣令第四十一號

明治二十一年出師年度(二十一年五月一日ヨリ二十二年四月三十日迄ヲ指ス)中ニ限り

近衛鎮臺後備軍艦員召集手續左之通定メラル

第一項 明治二十一年度中ニ限り戰時若クハ事變ニ際スルモ近衛後備軍諸隊ハ編成セ

ラレス近衛歩工兵科ノ後備軍艦員兵員ハ後備軍召集ノ并鎮臺後備軍艦員兵員ト同時

ニ召集シ鎮臺後備歩工兵隊ニ編入セラル故ニ該艦員兵員ノ召集令狀ハ近衛ノ令狀ニ

換ユルニ鎮臺ノ令狀ヲ用ユ其召集手續等ハ總テ鎮臺後備軍艦員兵員ノ例ニ同シ

第二項 騎砲輜重兵科ノ鎮臺後備軍艦員兵員ハ充員召集ノ并鎮臺豫備役艦員兵員ト同

時ニ召集シ騎砲兵科ノ近衛後備軍艦員兵員ハ近衛充員召集ノ并近衛豫備役艦員兵員

ト同時ニ召集セラル其召集手續等ハ鎮臺豫備役艦員兵員若クハ近衛豫備役艦員兵員

ノ例ニ同シ

第三項 騎砲輜重兵科ノ鎮臺後備軍艦員兵員並ニ各兵科ノ近衛後備軍艦員兵員ニシテ

他ニ寄留中發令ニ際スル并召集ニ應スヘキ手續又ハ寄留中直ニ召集地ニ到ラント欲

スル者出願並ニ許可ヲ受ケタル後召集ニ應スヘキ手續ハ二十一年度中左ノ如シ

- 一 騎砲輜重兵科ノ鎮臺後備軍艦員兵員ハ充員召集ノ并召集セラル、ナ以テ其手續ハ總テ鎮臺豫備役艦員兵員ニ同シ
- 二 騎砲兵科ノ近衛後備軍艦員兵員ハ近衛充員召集ノ并召集セラル、ナ以テ其手續ハ總テ近衛豫備役艦員兵員ニ同シ
- 三 歩工兵科ノ近衛後備軍艦員兵員ハ後備軍召集ノ并召集セラル、ナ以テ其手續ハ總テ鎮臺後備軍艦員兵員ニ同シ

○海軍下士滿期再役志願者取扱規則中追加

●明治二十年三月十六日告示第六十一號

明治十九年(三月)當縣戍第三十五號告示海軍下士滿期再役志願者取扱規則第二條中ニ左ノ一項ヲ加フ

徵兵令ニ依リ徵集シタル卒ニシテ現役滿期トナリ再役志願ノ者ハ再現役年數(三箇年以上)ヲ定メ所屬長ニ願出可シ

○兵庫縣在郷艦員召集心得

△兵事○近衛鎮臺後備軍召集○海軍下士滿期再服役志願○兵庫縣在郷兵召集心得 卅五

●明治二十年四月廿日縣令第三百三十一號
當縣在鄉驅員、兵員召集心得別冊之通相定ム

但明治十九年(十月)當縣第三十四號縣令及本年(三月)當縣第三十九號告示ハ自今廢止ス

(別冊)

兵庫縣在郷驅員召集心得

第一條 陸軍召集條例(以下單ニ條例ト記スル者亦同シ)ニヨリ第一充員召集ニ當リ其召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ其旅行ノ途中條例第廿八條第二項ニ據リ標幟又ハ標燈ヲ掲ケタル旅舎ヘ適宜投宿スヘキ者トス
但里道通行ノ節ハ最寄戸長役場ニ就キ宿舎ヲ請求スヘシ

第二條 歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ條例第三十二條ニ據リ(戸長役場區ハ區役所)ニ到リ旅費ヲ受領セントスル片ハ令狀ヲ戸長(區ハ區長)ニ差出シ点檢ヲ受クヘシ

第三條 歸休兵並ニ豫備役驅員兵員前條ニ據リ旅行ノ途中疾病又ハ川支雪支其他事故在テ延着スル片ハ疾病ハ發病地醫師ノ診斷書川支雪支其他ノ事故ハ最寄郡區長又ハ戸長或ハ警察官等ノ證書ヲ受ケ參着ノ上大坂鎮臺又ハ姫路營所役備軍司令官(歩兵第廿聯隊ヘ入營ノ者ハ第八師管大坂府駐在官)若クハ大津伏見等分營地ニ出張ノ府縣駐在官(大津ハ滋賀縣駐在官伏見ハ京都駐在官)ニ差出スヘシ

第四條 條例第四十二條ニ據リ召集ニ應スヘキ豫備役驅員疾病其他事故ノ屆書ハ召集

令狀受領ノ後廿四時以內ニ同條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 條例第四十三條ニ據リ召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備兵疾病其他事故ノ屆書ハ召集令狀受領ノ後廿四時以內ニ同條ノ手續ヲ以テ戸長(區ハ區長)ヘ差出スヘシ

第六條 條例中驅員兵員准士官以上ノ屆書ハ大坂鎮臺又ハ姫路營所後備軍司令官ニ同下士ノ屆書ハ本縣駐在官ニ兵員ノ屆書ハ郡區駐在官ニ宛差出スヘキ者トス

第七條 第二充員並ニ役備軍召集ノ時ハ第一條乃至第六條ノ手續ニヨルヘキ者トス

第八條 條例第七十四條ニヨリ召集ニ應スヘキ近衛豫備役驅員疾病其他事故ノ屆書ハ召集令狀受領ノ役三日以內ニ同條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 條例第七十五條ニヨリ召集ニ應スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員疾病其他事故ノ屆書ハ召集令狀受領ノ後三日以內ニ同條ノ手續ヲ以テ戸長(區ハ區長)ニ差出スヘシ

第十條 條例第一百五條ニ據リ召集ニ應スヘキ豫備役驅員疾病其他事故ノ屆書ハ召集地(近衛豫備役驅員ハ近衛兵集合地)ニ參集期日以前ニ同條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 條例第一百六條ニ據リ召集ニ應スヘキ歸休兵并ニ豫備役兵員疾病其他事故ノ屆書ハ召集地(近衛歸休兵豫備役兵員ハ近衛兵集合地)ニ參集期日以前同條ノ手續ヲ以テ戸長(區ハ區長)ニ差出ヘシ

第十二條 歸休兵並ニ豫備役(後備軍)驅員兵員他ニ軍身寄留又ハ旅行中充員召集(後備軍召集若クハ演習召集)ニ際スルトキハ左ノ例ニ據ルヘシ

△兵軍○兵庫縣在郷驅員兵員召集心得

- 一 軀員ハ豫テ召集ノ命令ヲ通報スヘキ者ヲ定メ其住所氏名ヲ郡區駐在官及郡區長ニ届置ヘシ
 - 二 兵員ハ召集ノ命令ヲ通報スヘキ者ノ住所氏名ヲ戸長(區ハ區長)ニ届置ヘシ
 - 三 召集令狀ノ配達ハ通報人ニ於テ之ヲ受クヘキ者トス
 - 四 通報人ニ於テ充員召集(若クハ後備軍召集)ノ令狀ヲ受領シタルトキハ令狀表面ノ命令并ニ月日同裏面ノ召集地々名(近衛軀員兵員ハ近衛兵召集地及同地へ參着スヘキ日時)ヲ電信(電信ノ設ケナキ地ハ別配達郵便)ヲ以テ寄留地ノ本人ニ通報スヘシ
 - 五 通報人ニ於テ演習令狀ヲ受領シタルハ令狀表面(近衛ノ令狀ハ表面並ニ裏面前一行區畫)全文ノ寫ヲ書留郵便ヲ以テ寄留地ノ本人ニ通報スヘシ
 - 六 軀員兵員既ニ充員召集(又ハ後備軍召集)ノ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ出發シ一日行程十里詰(十里詰ハ最下限ヲ示ス)ヲ以テ旅行シ又氣車氣船ノ便アル者ハ里數ニ拘ハラス之ニ據リ歸郷ノ上令狀ヲ携ヘ戸長役場(區ハ區役所)ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ發程歸途ニ齊シキ旅行ヲ以テ速ニ召集地ニ參着シ大坂鎮臺又ハ姫路營所後備軍司令官(歩兵第二十聯隊へ入營ノ者ハ第八師管大阪府駐在官)若クハ大津伏見等分營地ニ出張ノ府縣駐在官(大津ハ滋賀縣駐在官伏見ハ京都府駐在官)ニ届出ヘシ
- 但近衛兵員ハ參集期日ニ集合地ニ參着シ大阪鎮臺後備軍司令官ニ届出ヘシ

- 七 軀員兵員既ニ演習召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ速ニ歸郷ノ上令狀ヲ携ヘ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ヲ參着シ大阪鎮臺又ハ姫路營所後備軍司令官(歩兵第廿聯隊へ入營ノ者ハ第八師管大阪府駐在官)若クハ大津伏見分營地ニ出張ノ府縣駐在官(大津ハ滋賀縣駐在官伏見ハ京都府駐在官)ニ届出ヘシ
- 八 但近衛軀員兵員ハ集合地ニ參着シ大阪鎮臺後備軍司令官ニ届出ヘシ
- 九 軀員兵員召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ疾病其他事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ第四條第五條第八條乃至第十條ニ依リ届出ヘシ
- 十 前項ノ者疾病快癒又ハ事故止ムト雖演習召集ニ在テ若シ演習半(演習日數二十一日間ナルトキハ十一日迄ヲ半トスルヲ例トス)迄ニ召集地(近衛歸休兵並ニ豫備役軀員兵員ハ東京若クハ臨時指定ノ地)ニ參着シ難キトキハ其旨ヲ前項ニ據リ届出命ヲ待ツヘシ
- 十一 但出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ前ニ通報セシ者ニ通知シ軀員ハ演習令狀ヲ郡區長ニ兵員ハ戸長(區ハ區長)ニ返納スヘシ
- 十二 近衛歸休兵并ニ豫備役兵員ヲ鎮臺兵員ト合シ又ハ近衛後備軍軀員兵員ヲ鎮臺後備軍ト合シ演習ヲ行フキハ鎮臺軀員兵員ノ例ニ據ルヘシ
- 十三 歸休兵并ニ豫備役(後備軍)軀員兵員他ニ單身寄留中充員召集(後備軍召集)若クハ演習召集)ニ際シ便宜ニ依リ寄留地ヨリ直ニ其召集地(又ハ近衛兵集合地)ニ

△兵事○兵庫縣在郷軀員兵員召集心得

到ラント欲スルルハ其願書ハ豫テ召集ノ命令ヲ通報スヘキ者ノ住所氏名ヲ記シ戸長
(區ハ區長)ノ與書證印ヲ受ケ郡區長及郡區駐在官本縣駐在官ヲ經テ姫路營所後備軍
司令官ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十四條 前條ノ者許可ヲ得タルルハ左ノ例ニ據ルヘシ

- 一 令狀及旅費ハ其召集ノ命令ヲ通報スヘキ者ニ於テ受領スヘキ者トス
但旅費ハ本籍ヨリ召集地(又ハ近衛兵集合地)迄ノ計算トス
- 二 近衛編員兵員其集合地ヲ經ス寄留地ヨリ直ニ召集地ニ到ル者ニシテ其集合地迄
ノ旅費ヲ給シタル者同地ヨリ召集地迄ノ旅費ハ到着ノ上近衛ヲ追給セラルヘシ
- 三 通報人ハ令狀表面ノ命令並ニ月日同裏面ノ召集地々名(近衛編員兵員ハ近衛兵
集合地々名及同地ヘ參着スヘキ日時)ヲ電信ヲ以テ寄留地ノ本人ニ通報スヘシ
- 四 通報人ハ令狀旅費ハ目錄ヲ添ヘ召集地(近衛編員兵員ハ近衛兵集合地)所在ノ大
坂鎮臺又ハ姫路營所後備軍司令官(歩兵第二十聯隊へ入營ノ者ハ第八師管大阪
府駐在官)若クハ大津伏見等分營地ハ出張ノ府縣駐在官(大津ハ滋賀縣駐在官伏
見ハ京都府駐在官)ニ書留郵便ヲ以テ送致スヘシ
但旅費ハ本人ノ便宜ニ依リ電信爲換ヲ以テ直ニ寄留地ニ送致スルハ妨ケナシ
ト雖モ其旨ヲ目錄中ニ記載スヘシ
- 五 電信ノ設ケナキ地又ハ近衛編員兵員ノ寄留地ヨリ令狀裏面近衛兵集合地迄ノ里
數ト同地ヘ參着スヘキ日數ヲ算シ電信ヲ以テ通報セサルモ參着スヘキ日數ノ猶

- 六 豫アル場合ニ在テハ令狀及旅費ヲ別配達郵便ヲ以テ寄留地ノ本人ニ送致スヘシ
通報人ニ於テ近衛兵集合地ヲ經ス直ニ召集地ニ到ルヘキ者ノ令狀及旅費ヲ受領
シタルルハ令狀表面ノ命令並ニ月日又東京ヘ參着スヘキ日時(臨時ニ召集地ヲ
指定セラレタルルハ其地名及參着スヘキ日時)ヲ電信ヲ以テ寄留地ノ本人ヘ通
報スヘシ
- 七 令狀及旅費ハ別配達郵便ヲ以テ寄留地ノ本人ニ送致スヘシ
- 八 電信ノ設ケナキ地又ハ本人寄留地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ召集地迄ノ里數ト
令狀裏面近衛兵集合地ヘ參着スヘキ日數及同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ召集
地ヘ參着スヘキ日數ヲ算シ電信ヲ以テ通報セサルモ參着スヘキ日數ノ猶豫アル
場合ニ在テハ第六項ノ事項ハ令狀及旅費ノ送致ト共ニ通報スヘシ
- 九 編員兵員召集ノ通報ヲ受ケタルルハ旅行ノ速度及届出手續ハ第十二條第六項ニ
準スヘシ

- 十 但近衛編員兵員ハ參集期日ニ其集合地(近衛兵集合地ヲ經ス直ニ召集地ニ至
ルヘキ者ハ參着スヘキ期日ニ東京若クハ臨時指定ノ地ニ)參着シ大坂鎮臺又
ハ姫路營所後備軍司令官(東京若クハ指定ノ地ニ參着セシ者ハ近衛副官又ハ
近衛副官部員)ニ届出ヘシ

編員兵員演習ノ通報ヲ受ケタルルハ令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ
大阪鎮臺又ハ姫路營所後備軍司令官(歩兵第廿聯隊へ入營ノ者ハ第八師管大阪

△兵事○兵庫縣在郷編員兵員召集心得

府駐在官)若クハ大津伏見等分營地ニ出張ノ府縣駐在官(大津ハ滋賀縣駐在官伏見ハ京都府駐在官)ニ届出ベシ

但近衛艦員兵員ハ前項但書ニ同シ

十一 艦員兵員疾病其他事故ニテ召集ニ應シ難キハ第十二條第八項ニ據ルヘシ

十二 前項ノ者疾病快癒其他事故止ミタルハ前項ノ手續ニ據リ届出速ニ召集地(近衛艦員兵員ハ近衛兵召集地又近衛兵召集地ヲ經ス直ニ召集地ニ至ルヘキ者ハ東京若クハ臨時指定ノ地)ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ大坂鎮臺又ハ姫路營所後

備軍司令官步兵第廿聯隊ハ入營ノ者ハ第八師大坂府駐在)官若クハ大津伏見等

分營地ニ出張ノ府縣駐在官(大津ハ滋賀縣駐在官伏見ハ京都府駐在官東京若ク

ハ臨時指定ノ地ニ參着セシ者ハ近衛副官又ハ近衛副官部員)ニ届出ヘシ

十三 前項ノ者演習召集ニ在テハ第十二條第八項ニ據ルヘシ

十四 近衛歸休兵並ニ豫備役兵員ヲ鎮臺兵員ト合シ又ハ同後備軍艦員兵員ヲ鎮臺後

備軍ト合シ演習ヲ行フハ第十二條第九項ニ據ルヘシ

第十五條 條例第六十二條ノ近衛兵集合地及鎮臺兵召集地ハ左ノ如シ

一 近衛兵集合地 大坂練兵場

一 鎮臺兵召集地 大津練兵場

大坂練兵場 姫路同營所 伏見兵營内

大津練兵場

大坂練兵場 姫路同營所 伏見兵營内

●明治二十年六月十五日縣令第五百五十四號

本年(四月)當縣令第三十一號當縣在郷(艦員兵員)召集心得第十二條及第十三條中歸

休ノ下(徵兵令第十二條ニ依リ歸休中ノモノハ他府縣寄留ヲ許サレス管内寄留ニ限ル)

ノ割註ヲ加フ

○兵庫縣在郷兵員召集事務細則

郡區役所 戶長役場

●明治二十年四月二十日訓令第六百六號

當縣在郷(艦員兵員)召集事務細則別冊之通相定ム

但明治十九年(十月)當縣第十四號訓令ハ自今廢止ス

兵庫縣在郷兵員召集事務細則

第一條 郡長ハ陸軍召集條例(以下單ニ條例トアル者亦同シ)第卅條ノ戶長ニ發スヘキ

達書ハ附錄第一號ニ據リ豫シメ之ヲ作り置キ發スルニ臨ミ年月日時ヲ可記入者トス

第二條 條例第五百二十二條ノ召集令狀ハ郡區駐在官ヨリ郡長ヲ經テ戶長ニ渡スヘキヲ

以テ郡長ハ之ヲ受クレハ直ニ戶長ニ配付スヘキ者トス

第三條 郡區長及戶長ハ條例第三十條第三十一條ニ據リ艦員兵員(以下單ニ艦員兵員)

トアルハ後備軍及近衛歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ヲ包含ス)ノ召集令狀ヲ各自ニ配

△兵事○兵庫縣在郷艦員兵員召集事務細則

達スルニ當リ即日其部内最遠ノ地ニ發遣スル脚夫ノ出發並ニ歸着ノ日時及ヒ其驅員兵員ノ兵種氏名ヲ郡區駐在官ニ通報スヘシ

第四條 郡區長及戸長ハ條例第三十條第三十一條第九十八條第九十九條第三百二十二條ニ據リ召集令狀ヲ驅員兵員ニ配達シタルルハ附錄第二號ニ據リ受領証ヲ徴スヘシ但豫シメ人員ニ應シ料紙ヲ製シ兵種氏名ヲ記載シ置受領ノ際年月日時ヲ記入シ氏名ノ下ニ押印セシムヘキ者トス

第五條 郡區長及戸長ハ條例第卅一條第三十一條ニ據リ驅員兵員ノ召集令狀ヲ配達スルニ當リ他ニ寄留スル者若クハ寄留地ニ於テ召集ニ應スル者ノ令狀ハ其通報人ニ其他ハ本人ニ配付スヘシ

第六條 條例第三十條ノ國庫金出納所ハ附錄第三號ニ示ス箇所ナリトス

第七條 郡區長ハ條例第三十條ノ領收證ヲ附錄第四號ニ據リ豫シメ之ヲ作り置キ發スルニ臨ミ其金額及年月日ヲ記入シ署名押印スヘキ者トス

第八條 郡區長ハ條例第五十條ノ旅費計算書ハ附錄第五號ニ據リ二通ヲ製シ當廳ニ差出スヘシ

但進達期日ハ其都度訓令スヘキ者トス

第九條 郡區長及戸長ハ條例第二十八條第一項ニ據リ警察官ヨリ求メアルトキハ召集ニ應スヘキ者ノ住所氏名ヲ通知スヘキ者トス

第十條 郡區長及戸長ハ失踪逃亡等ノ爲メ召集ニ應セサル者アルトキハ其住所氏名及

事故ヲ詳記シ最寄警察署又ハ分署ニ通報スヘシ

第十一條 戸長ハ當縣在郷驅員兵員召集心得第一條但書ニ據リ召集ニ應スヘキ歸休兵并ニ豫備役驅員兵員ヨリ宿舍ヲ請求スルトキハ直ニ其求メニ應スヘシ

第十二條 戸長ハ條例第三十二條第百條ニ據リ驅員兵員ニ旅費ヲ支給スル場合ニ於テ各自ヨリ召集令狀ヲ示ストキハ該狀裏面ニ年月日ヲ記入シテ旅費ヲ支給シ附錄第六號ニ據リ領收證ヲ徴シ戸長役場(區ハ區役所)ニ保存シ置ヘシ

但領收證ハ豫シメ之ヲ製シ置支給ノ際各自ニ示シ押印又ハ拇印セシムヘシ

第十三條 戸長ハ豫シメ郡區駐在官ヨリ送付シタル召集令狀ノ裏面ニ署名押印ヲ爲シ置戸長ノ氏名ニ異動アル毎ニ紙片ヲ貼付シ訂正ヲ爲スヘキ者トス

第十四條 條例第百五十四條但書ニ據リ戸長ニ於テ召集令狀ニ訂正ヲ加フヘキ者ハ歸休兵并ニ輜重輸卒ノ現役ヨリ豫備役ニ豫備役ヨリ後備役ニ移リ又ハ其部内ニ於テ旅費ニ關係ナキ轉居或ハ改氏名等ニ限ルヘシ

第十五條 戸長ハ(區ハ區長)條例第百五十四條ニ據リ戸長役場(區ハ區役所)ニ備フル令狀中ノ兵員ニシテ他ニ轉籍又ハ全戸寄留等ノ者アルルハ其令狀ヲ郡長ヲ經テ(區長ハ直ニ)郡區駐在官ニ差出スヘシ

第十六條 郡區長及戸長ハ驅員兵員旅行ノ途中川支雲支其他事故ニテ滞留シ證認書ヲ請求シタルルハ附錄第七號ニ據リ之ヲ付與スヘシ

第十七條 戸長(區ハ區長)ハ當縣在郷(驅員、兵員)召集心得第五條及第九條ニ據リ兵

員ヨリ疾病其他事故ノ届書ヲ差出シタル片ハ奥書證印ノ上召集發令後三日以内(第九條ハ五日以内)ニ郡區駐在官ニ送付スヘシ

但本文ノ手續ヲ終ヘタル片ハ速ニ其事由ヲ記シ郡長ヲ經テ(區長ハ直ニ)當廳ヘ開申スヘシ

第十八條 戶長ハ事故ニ據リ召集ニ應シ難キ者ノ旅費ハ事故ノ止ム迄之ヲ預リ置ヘキ者トス

第十九條 召集條例第四十九條割駐ノ揭示場ナキ個所ハ豫シメ其場所ヲ定メ置ヘシ但揭示場アル個所ト雖町村中ノ偏僻ニ係ル片ハ更ニ公衆ノ注目スヘキ場所ヲ撰ミ揭示スヘキ者トス

第二十條 郡區長及戶長ハ部内ノ廣狹ニ應シ豫シメ所要ノ脚夫ヲ定メ置クヘシ

第二十一條 郡區長及戶長ハ條例第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

第二十二條 郡區長及戶長ハ當縣在郷(郷員、兵員)召集心得第十二條十項但書ニヨリ返納シタル郷員ノ演習令狀ハ郡區駐在官ニ送致シ兵員ノ演習令狀ハ戶長役場(區ハ區役所)ニ留置ヘシ

第二十三條 郡區長及戶長ハ召集ノ便ニ供スル爲メ條例第六十三條ノ召集布達兵員到着日數表ヲ條例第十三樣式ニ準シ之ヲ作り備置ヘキ者トス

第二十四條 條例第四十八條ニヨリ郡區役所戶長役場備置ニヘキ充員名簿召集名簿ハ附錄八號ニ據リ調製スヘシ其例ヲ示ス左ノ如シ

但此例ヲ示サ、ル者ハ條例第十一樣式欄外ニ準スヘキ者トス
一 名簿ハ各召集地ニ區別シ尙兵種雜卒職工ノ部類ヲ分チ召集地ニ最近ノ者ヨリ順次ニ列記シ尙町村ヲ區別スベシ

但近衛充員同後備軍召集兩名簿ハ里程ノ遠近ニ關ラス年度及兵種ヲ分チ尙籤番號ノ順序ニ記載スヘキ者トス

二 第一充員召集ノ時ハ悉皆召集セラルヘキ者トス

二 第二充員召集ニ際シ召集區域表ニヨリ二郡區内悉皆召集セラルヘキ片ハ郡區駐在官ヨリ人名ノ通知ナシト雖モ一郡區内ニ於テ召集セラルヘキ者ト否サルトノ區域アル片ハ其召集セラルヘキ人名ハ郡區駐在官ノ通知ニ據ルヘキ者トス
四 郷員兵員轉籍又ハ全戶寄留其他身上ニ異動ヲ生スルトキハ其都度名簿ヲ訂正スヘシ

五 郷員兵員中他ニ寄留ノ者ハ其通報人ノ住所氏名ヲ本人氏名ノ次ヘ記註シ置ヘシ

六 各兵種雜卒諸職工ノ列記中尙第二充員ノトキ召集スヘキ者ヲ區別シ餘白ヲ存シ符号ヲ記シ次ニ第一充員ノ片合セテ召集スヘキ者ヲ列記スヘシ

△兵事○兵庫縣在郷郷員兵員召集事務細則

第二十五條 條例第一樣式裏面第四項ニ據リ戸長ニ於テ令狀裏面ノ欄外ニ事故ヲ記シ認印ヲ捺スハ兵員ニ限ル艦員ニ在テハ旅費支給ノ年月日ヲ記入スルニ止ル者トス

第二十六條 郡區長ハ條例第百六十五條ノ召集旅費概算表ハ兵員ニ在テハ第二條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ令狀裏面ノ金額ヲ扣ヘ置キ又艦員ニ在テハ郡區駐在官ヘ其金額ヲ照會シ之レヲ積算シテ調製スヘシ

第二十七條 演習召集ノ旅費計算書ハ附錄第九號ニヨリ調製シ當廳ヘ差出スヘシ

第二十八條 郡區長及戸長ハ條例第百三十二條ノ場合ニ於テハ點呼ノ場所ニ出頭シ郡區駐在官ト協議シ該官點呼施行ノ外尙兵員ニ其心得ヲ示シ點呼了ルノ後郡區長ヨリ其景況ヲ開申スヘシ

附錄第一號

戸長

第一充員召集(第二充員召集)(後備軍艦員召集)(後備役兵員召集)(近衛充員召集)(近衛後備軍艦員召集)(近衛後備軍兵員召集)ヲ令セラル

明治 年 月 日 時 何 郡 長 氏 名

附錄第二號 (其一本人他ニ寄留シ通報人ニ於テ受領シタルトキハ何艦員某通報人ト肩書シ署名押印スヘキ者トス)

受領証

一召集(演習)令狀 一通

右正ニ受領候也

豫備役(後備軍)(近衛豫備役)(近衛後備軍) 艦員 官 氏 名 印

明治 年 月 日 時

何郡(區)長氏名殿

附錄第二號 (其二)本人他ニ寄留シ通報人ニ於テ受領シタルトキハ何兵某通報人ト

肩書シ署名押印スヘキ者トス

受領証

一通

一召集(演習)令狀
右正ニ受領候也

歸休兵(豫備役)(後備軍)(近衛豫備役)(近衛後備軍)

明治 年 月 日

何兵何等卒 氏 名 印

何町村

戸長氏名殿

附錄第三號

郡 區 名	金 庫 名	銀 行 及 氏 名
神 戸 區	神 戸 國 庫 金 出 納 所	三 井 銀 行
八 部 郡	兵 庫 國 庫 金 出 納 所	全 上

△兵事○兵庫縣在郷艦員兵員召集事務細則

廿一年
號
西
正
郡

神	飾	飾	印	加	加	多	加	美	明	有	川	菟	武
西	西	東	南	古	西	可	東	囊	石	馬	邊	原	庫
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
姫路國庫金出納所 西田原出納支所	全	姫路國庫金出納所	姫路國庫金出納所 曾根出納支所	明石國庫金出納所 寺家出納支所	姫路國庫金出納所 北條出納支所	同	同	明石國庫金出納所 三木出納支所	明石國庫金出納所	同	同	神戶國庫金出納所 西宮出納支所	全
全	上	全	第 三 十 八 國 立 銀 行	第 五 十 六 國 立 銀 行	第 三 十 八 國 立 銀 行	全	全	全	第 五 十 六 國 立 銀 行	全	全	全	全
上	上	上	行	行	行	上	上	上	行	上	上	上	上

三	津	水	多	二	七	朝	養	氣	出	美	城	宍	佐	赤	揖	揖
原	名	上	紀	方	美	來	父	多	石	含	崎	粟	用	穗	西	東
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
洲本國庫金出納所 市村出納支所	洲本國庫金出納所	篠山國庫金出納所 柏原出納支所	篠山國庫金出納所	同	出石國庫金出納所 和田山出納支所	出石國庫金出納所	豐岡國庫金出納所	同	同	龍野國庫金出納所	龍野國庫金出納所	同	同	姫路國庫金出納所 加里屋出納支所	龍野國庫金出納所	同
全	久	全	第 百 三 十 七 國 立 銀 行	全	全	全	第 五 十 五 國 立 銀 行	全	全	全	全	全	全	全	全	全
上	行	上	行	上	上	上	行	上	上	上	上	上	上	上	上	上

△兵事○兵庫縣在郷艦員兵員召集事務細則

附錄第四號

領收証

一金 圓

右正ニ領收候也

明治 年 月 日

其一

何郡(區)長 氏名 印

附錄第五號

明治何年何月兵庫縣何郡(區)召集旅費計算書

一金何程

內譯

金何程

但別紙明細表一冊之高

殘金何程

但仕拂殘金國庫金出納所又ハ同出納支所預リ券壹葉ヲ以テ返納
右之通相違無之候也

明治 年 月 日

大坂鎮臺(近衛)監督部御中

其二

兵庫縣何郡(區)長 氏名 印

附錄第五號

明治何年何月兵庫縣何郡(區)召集旅費受領明細表

一金何程

內譯

住

所入 營 地 里

程 旅

費 氏

名

何 町(村)

(大坂(姫路)
伏見)

何 里 何 丁 金

何 程 何

某

全 上 全

上 全

上 全

上 全

上

右之通相違無之候也

明治 年 月 日

兵庫縣何郡(區)長 氏名 印

附錄第六號 押印ハ母印ヲ爲スモ苦シカラス

領収証

住

所入 營 地 里

程 旅

費 氏

名

何 町(村)

(大坂(姫路)
伏見)

何 里 何 丁 金 何

程 何

某 印

全 上 全

上 全

上 全

上 全

上

△兵事○兵庫縣在郷驅員兵員召集事務細則

附錄第七號

證認書

豫備役(後備軍)(近衛豫備役)(近衛後備軍) 官 氏 名

明治何年何月何日何川出水何地
大雪通行スル不能ヲ以テ何月何
日ヨリ何月何日迄何町村ニ滞在

又ハ

歸休兵(豫備役)(後備軍)(近衛豫備役)(近衛後備軍)

何兵何等 卒 氏 名

全 上

右事實ヲ證認ス

兵庫縣何郡(區)長 氏 名 印

又ハ

兵庫縣何郡(村)戸長氏名印

明治 年 月 日 時

附錄第八號 其一 (用紙澁引厚紙) (名刺ハ適宜厚紙ヲ用ユヘシ)

大坂(姫路)(大津) (伏見) = 召 集 之 部

住所 居住地 召集 事由 官 兵 等 種 氏 名

何町(村) 何里 何丁 明治何年何月何日 豫備役(編員)拜命 何兵(少尉) 何 某

附錄第八號 其二 (用紙並ニ名刺ハ其一ニ同シ)

大坂(姫路)(大津) (伏見) = 召 集 之 部

步(騎)(砲)(工) (輜重)兵 何卒(何工)

住 所 居住町村ヨリ召集 地ニ到ル程及旅費 隊號 事 由 年 兵種番號 氏 名

何町村) 何里 何丁 十ノ 臨時編入年月日 其他必要ノ件ヲ記 ス 何兵第何番 何 某

△兵事○兵庫縣在郷編員兵員召集事務細則

隊號區畫二十ノ一二トアル第十聯隊第一大隊第二中隊ノ略記ナリ
附錄第九號

明治何年何月兵庫縣何郡(區)演習召集旅費計算書

主任書記 氏 名 印

一金何程

内譯

住 所	入 營 地	里	程	旅	費	氏	名
何 町 村	大坂(姫路) (大津)伏見)	何 里	何 丁	金 何	程	何	某
全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上

右之通相違無之候也

明治年月日

兵庫縣何郡(區)長 氏 名 印

●明治廿一年一月十一日訓令第二號

郡區役所 戸長役場

明治二十年(四月)當縣訓令第百六號在郷(軀員、兵員)召集事務細則附錄第三號中飾西郡ノ下金庫名ノ區畫ニ同上トアルヲ姫路國庫金出納所手野出納支所ト改正ス
但姫路國庫金出納所エ送付シタル飾西郡明治二十年第二次召集旅費概算表ハ取戻更ニ手野出納支所へ送付スヘシ

●明治廿一年二月十八日訓令第十六號

郡區役所 戸長役場

昨廿年(四月)當縣訓令第百六號當縣在郷(軀員兵員)召集事務細則附錄第一號欄外エ左ノ一項ヲ加フ
一近衛軀員兵員ノ近衛兵集合地ニ參着スヘキ期日ハ發スルニ臨ミ「追テ集合地ニ參着スヘキ期日ハ來ル何日午前(後)何時トス」ト追書スヘシ

○兵庫縣徵兵事務取扱手續中改正追加

●明治二十年二月廿六日訓令第五十四號

郡區役所 戸長役場

明治十九年(七月)當縣乙第百十九號達當縣徵兵事務取扱手續中左ノ通改正ス
當縣徵兵事務取扱手續第三十條中速ニノ下ニ兵事課長トアルヲ第二郡長ト改ム

●明治二十年三月二十三日訓令第八十四號

郡區役所 戸長役場

明治十九年(七月)當縣乙第百十九號達徵兵事務取扱手續第六條及ヒ第七條中「八月」トアルヲ「三月」ト改正ス

●明治廿一年五月十一日訓令第七十號

郡區役所 戸長役場

明治十九年七月當縣乙第百十九號達徵兵事務取扱手續へ更ニ左ノ一條ヲ追加ス
第卅二條 戸長ハ海軍現役兵ノ滿期歸郷届ヲ受理シタル片ハ之ヲ取纏メ郡長ニ差出スヘシ

△兵事○兵庫縣徵兵事務取扱手續中改正追加

○兵庫縣在郷輜重輸卒召集調査手續

二十一年訓令第四百七十七號ヲ以テ第一追加ス

●明治二十年四月三十六日訓令第四百廿三號
當縣在郷輜重輸卒召集調査手續別紙之通相定ム

郡區役所

戶長役場

(別紙)兵庫縣在郷輜重輸卒召集調査手續

- 第一條 充員召集ニ當リ豫備役輜重輸卒所要ノ人員中ニ在ル者ヲ應命輸卒所要外ノ人員中ニ在ル者ヲ待命輸卒ト假稱シ執務上稱呼ノ便ニ供スヘシ
- 第二條 待命輸卒ハ總テ大阪ニ召集ノ調査ヲ爲シ置ヘシ
- 第三條 戶長(區ハ區長)ハ待命輸卒ノ令狀ハ其人名書ト共ニ郡區駐在官ヨリ郡長ヲ經テ(區長ハ直ニ)送致ヲ受クヘキ者トス
- 第四條 戶長(區ハ區長)ハ前條ノ令狀及人名書ヲ受領シタルハ他ノ令狀ト混セサル爲メ之ヲ區別シ置ヘシ
- 第五條 郡區長及戶長ハ充員名簿中待命輸卒ノ區別ハ當縣在郷(軀員兵員)召集事務細則第二十四條ニ準シ之ヲ調査シ常ニ明瞭ナラシムヘシ

- 第六條 戶長(區ハ長)ハ應命輸卒中他軍管又ハ同軍管内最遠ノ地ニ轉籍或ハ全戶寄留若クハ死亡等ニテ欠員アルハ待命員中最遠ノ者ヨリ補足シ又他軍管ヨリ轉入若クハ全戶寄留ノ爲メ應命員ニ過員ヲ生シ應命員中最遠ノ者ヨリ待命員ニ轉出セシムルハ其人名ハ郡區駐在官ヨリ郡長ヲ經テ(區長ハ直ニ)通知ヲ受クヘキ者トス
- 明治二十年五月廿六日訓令第四百四十三號
郡區役所 戶長役場
本年(四月)當縣訓令第二百二十三號在郷輜重輸卒召集調査手續第一條中充員召集ノ下後「後備軍召集」ノ五字及豫備役ノ下「後備役」ノ三字ヲ加フ

○歸休兵等召集延期出願 及 取扱手續

●明治二十年八月六日縣令第七十五號
歸休兵並ニ豫備役後備軍軀員兵員(近衛歸休兵員並ニ豫備後軍軀員兵員ヲ含有ス)ニシテ定時演習召集ニ際シ父母ノ重病或ハ死亡ノ故ヲ以テ召集延期出願及取扱手續左ノ通相定ム

- 第一條 軀員ハ父母ノ重病ハ醫師ノ診斷書死亡ハ戶長ノ證明書ヲ願書ニ添ヘ郡區駐在官及ヒ當縣駐在官ヲ經テ鎖臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出スヘシ
- 第二條 兵員ハ父母ノ重病ハ醫師診斷書ヲ願書ニ添ヘ死亡ハ其月日等ヲ願書中ニ明記

△兵事○兵庫縣在郷輜重輸卒召集調査手續○歸休兵召集延期出願 五十九

シ戸長ノ奥書証印ヲ受ケ郡區駐在官ヲ經テ當縣駐在官ニ差出スヘシ

第三條 父母死亡ノ故ヲ以召集ノ延期ヲ出願スルハ其死亡ノ日ヨリ本人ノ召集ニ應スル爲メ發程スヘキ當日迄ヲ算シ一週日以内ノ者ニ限ルモノトス

第四條 召集ノ延期ハ本人ノ召集(近衛兵集合)地ニ參着スヘキ期日ヨリ演習半迄ノ日數中ニ於テ二週日迄ヲ限ルモノトス尙シ遠隔ノ者ニシテ往復ニ日數ヲ費シ或ハ父母重病ノ故ヲ以延期ノ許可ヲ受ケタル後死亡ニ由リ再ヒ延期ヲ出願スル者ノ如キ之ニ若干日ノ延期ヲ許可スルハ其參着演習半ヲ過ル認メノ者ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ當縣駐在官ヨリ出頭ニ及ハサル旨指令アルモノトス

第五條 指令濟ノ編員願書ハ當縣駐在官及ヒ郡區駐在官ヲ(出頭ニ及ハサル指令ノ分ハ郡區長ヲ經)兵員願書ハ郡區駐在官及ヒ戸長ヲ經テ本人ニ下附アルモノトス

第六條 召集延期ノ許可ヲ受ケタル編員兵員ハ指令セラレタル參着期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出又出頭ニ及ハサル指令ヲ受ケタル編員ハ演習令狀ヲ郡區長ニ兵員ハ之ヲ戸長ニ返附スヘシ

○歸休兵等定時演習ニ際シ召集延期ノ件

●明治廿年六月廿八日訓令第六十號

郡區役所

戸長役場

陸軍歸休兵並ニ豫備役後備軍編員兵員ニシテ定時演習召集ニ際シ父母ノ重病或ハ死亡等ノ故ヲ以テ召集ノ延期ヲ願フ者ハ二週日以内延期スルヲ得其準則左ノ通定メラル

第一 豫備役後備軍編員ハ後備軍司令官ニ願出テ許可ヲ受ケシム可シ

第二 歸休兵並ニ豫備役後備軍兵員ハ戸長ノ奥書証印ヲ以テ府縣駐在官ニ願出テ許可ヲ受ケシム可シ

第三 診斷書又ハ證明書ヲ願書ニ添へ差出サシム可シ

○歸休兵並豫備役兵員演習召集方

●明治二十年九月二十二日訓令第九十三號

郡區役所

戸長役場

歸休兵並ニ豫備役編員(現役並豫備役輜重輸卒共)演習召集之義左之通施行セラル但近衛歸休兵並ニ豫備役兵員ヲ合シ演習セラル

歩砲工輜重兵參集場所

大阪ハ 練兵場

姫路ハ 同營所

伏見ハ 同地兵營内

△兵事○歸休兵等定時演習ニ際シ召集延期○同上演習召集方 六十一

同參集期日
十一月四日午前第八時
同演習日數
十一月四日ヨリ三週日
輜重輸卒參集場所
播磨國北條後備軍司令部出張所
同參集期日
十一月十五日午前第八時
同演習日數
十一月十五日ヨリ一週日

○歸休兵等臨時召集ノ時疾病等ニ依リ旅費繰替方

●明治二十年八月二日訓令第七十六號 郡區役所 戸長役場
本年六月當縣訓令第五百五十五號驅員兵員臨時召集ノ途中ニ於テ疾病若クハ川支等ノ爲メ旅費欠乏ノ際繰替金ノ儀左之通改正ス
一歸休兵并ニ豫備役後備軍驅員兵員臨時召集ノ途中ニ於テ疾病若クハ川支等ニ依リ滞在ノ爲メ旅費欠乏シ召集地又ハ近衛兵召集地ニ到リ難キ旨ヲ以テ旅費繰替ヲ求ムル者アル并ハ事實取調之上其役所或ハ役場ニ於テ其日數ニ應シ滞在日當一日金二十八錢ノ割ヲ以テ一時繰替發程セシメ若シ疾病醫師診斷上速ニ快癒ノ目途無之モノニシ

テ歩行シ難キ者ハ車馬賃トシテ一里七錢ノ割ヲ以テ繰替送着セシメ直ニ原籍氏名隊號兵種番號金員等ヲ詳記シ受領証ヲ添當廳ヘ請求スヘシ
但藥價等ノ如キハ本人ノ辨償ニ屬スヘキモノトス

○充員召集ノキ豫備役輜重輸卒ノ件

●明治廿年四月廿六日告示第九十七號
陸軍召集條例ニ據リ充員召集ニ際シ豫備役輜重輸卒ハ所要ノ人員ヲ限リ召集セラレ所要外ノ人員ハ更ニ命令ヲ待タシメラル
●明治廿年五月廿六日告示第一百十六號
本年。四月。當縣告示第九十七號中充員召集ノ下「後備軍召集」ノ五字及豫備役ノ下「後備役」ノ三字ヲ加フ

○寄留地ニテ徵集猶豫者取扱方

廿年告示
百十六號
ヲ以テ加
入ス

△兵事○歸休兵等臨時召集ノ時疾病等ニ依リ旅費繰替方○充員召集ノ時云々○寄留地ニテ徵集猶豫者取扱方 六十三

●明治廿一年一月十三日告示七號

徵兵令第三十七條ニ據リ寄留地ニ於テ徵集ニ應スル者ノ中徵集猶豫ニ屬スル者取扱方左之通定メラル

一徵兵令第十八條第五項第六項第八項及ヒ第九項ニ當リ徵集猶豫ノ者依然寄留地ニ在ルトキハ徵否處分濟迄寄留地府縣ノ管理ニ屬ス

一徵兵令第十七條第十八條第二項乃至第四項第七項第十九條及ヒ第二十一條ニ當リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ寄留地府縣ノ名簿ヲ刪リ原籍府縣ノ相當名簿ニ登記スル者トス

○元軍用電信技手徵集猶豫ノ件

●明治二十治年六月廿八日告示第百卅號

元軍用電信技手ニシテ直ニ陸軍技手トナリ電信ノ業務ニ服スル者ハ明治十八年(九月)當縣戊第百四號告示ニ依リ引續徵集猶豫ニ屬ス

○類聚現行兵庫縣令訓全書第二編第五卷終

類聚現行兵庫縣令訓全書第二編第六卷

○衛生課

○製藥規則

●明治二十年三月廿六日縣令第百十五號
製藥規則別冊ノ通相定ム
但明治十六年(九月)甲第四十六號布達ハ廢止ス

製藥規則

第一條 製藥セント欲スル者ハ別紙願書式ニ據リ願書三通ヲ作り製品及製造ノ方法書ヲ添へ願出免許証ヲ受クヘシ

但危害ヲ生スベキ藥品ニシテ製造上ニ付特ニ規定アルモノハ其規定ニ從フベシ
第二條 酒精ヲ製造セント欲スル者ハ酒造稅則ニ依リ酒類製造營業免許鑑札ヲ得タル後其鑑札寫ヲ添へ前條ニ準ヒ願出ツヘシ

第三條 願書ニ添付スル製品ノ標章ニハ必ス何國局方ト記載スヘシ

△衛生○製藥規則

但局方書中ニ掲載ナキモノハ此限ニアラス
第四條 製藥者ハ左ノ雛形ノ表札ヲ門戸ニ掲出スヘシ

三尺

免	製藥營業人
許	何ノ誰

四ノ

第五條 製藥者ハ官許ノ文字ヲ冒シタル標紙ニ藥名及住所姓名及何國局方ト記載シ且其局方ニ強弱計度ノ差異アルモノハ之ヲ明記シテ每容器ニ貼付シ販賣スヘシ

但藥名ニ記載スルニ洋文ノミヲ書ス可カラス必ス國字ヲ以テ普通ノ譯名(譯名ナキ者ハ仮名ニテ原名)ヲ記載スヘシ

第六條 免許証ヲ毀損亡失シ若クハ本籍氏名等ヲ變換シタル片ハ十日以内更ニ免許証ノ下付又ハ書換ヲ願出ツベシ

第七條 廢業又ハ死亡シタル片ハ十日以内ニ免許証ヲ返納スヘシ(死亡シタル片ハ其遺族ヨリ)

第八條 管内甲町村ヨリ乙町村へ移轉(寄留轉籍歸籍以下倣之)シタル片ハ十日以内ニ其旨届出ツヘシ

但他管下へ移轉セント欲スル片ハ出發前其旨届出ツヘシ

第九條 他管下ノ者本縣下へ移轉シタル片ハ製藥免許証寫相添へ十日以内ニ其旨届出ツヘシ

第十條 本則第一條第五條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

願書式 用紙美濃紙
藥品製造願

一 藥名
右ハ今般(醫藥用職工用)トシテ製藥發賣仕度候間御試驗之上製造免許証御下渡被下度製品及製造ノ方法書(酒精ハ酒造免許鑑札寫)相添此段奉願候也

兵庫縣下何國何郡何町何村何番地住

寄留ナレハ本籍族籍
寄留ナモ明記スヘシ

年月日 何ノ誰

戸長 何ノ誰

知事宛

△衛生○製藥規則

○種痘細則附同事務取扱心得

●明治廿年三月二日縣令第四十五號
種痘細則別冊ノ通改定ス

種痘細則

- 第一條 明治十八年(十一月)第三十四號布告種痘規則第一條第二條期限内ノモノニシテ種痘セサルモノハ區役所若クハ戸長役場ヨリ指定スル期日ニ於テ之ヲ行フヘシ但寄留又ハ止宿ノモノハ其町村ニ於テ之ヲ行フヘシ
 - 第二條 前條ノ期日ニ於テ種痘ヲ行フコト能ハサルモノハ其事由ヲ詳記シ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ保證書相添ヘ區役所若クハ戸長役場ヘ届出ヘシ
 - 第三條 種痘規則第六條ニ據リ醫師ヨリ受領シタル種痘若クハ天然痘濟ノ證書ハ區戸長ノ檢閲ヲ受ケタル后之ヲ保存シ轉籍寄留換等ノ節ハ之ヲ携帶スヘシ
 - 第四條 種痘規則第一條第二條第三條ノ種痘料ハ一人金七錢以内町村費ヲ以テ支辨スヘシ
- 但學校入舍及在塾ノ生徒病院貧院育兒院等ニ入院ノモノ並ニ在監囚徒ノ種痘料ハ町村費支辨ノ限ニ非ス

第五條 醫師ハ帳簿ヲ製シ其種痘シタルモノ、住所姓名年齢初種再三種及善感不善感並ニ接種ノ年月等ヲ詳記シ置キ毎年六月十二月兩度區役所若クハ戸長場ヘ差出シ其檢閲ヲ受クヘシ

第六條 種痘規則第八條ニ據リ醫師ハ附與スベキ証ハ別紙第一第二號書式ニ據ルヘシ

第一號

善感	朱
不善感	證
不感	

何國郡區町村番地何某男
何 誰
年齢何年何月

左何類 右何回接種濟
何國郡區町村番地
醫師 姓 名 ①
年月・日

第二號

割	証
印	

何國郡區町村番地何某男
何 誰
年齢何年何月

右天然痘濟

△衛生○種痘細則附同事務取扱心得

●明治二十年九月五日訓令第百八十四號

郡區長

戶長

客年六月檢訓第一號ヲ以テ及訓示置候虎列刺病豫防消毒心得書之義ハ更ニ別冊ノ通り
増補改正候旨其筋ヨリ指示セサレ候條自今右方法ニ基キ豫防毒方取計フヘシ

改正虎列刺病豫防消毒心得書

虎列刺病豫防消毒心得書

傳染病ヲ撲滅スルニハ機會時期ヲ必要トス先年來我邦ニ於ケル虎列刺病ノ流行猖獗ヲ
極メタル事實ニ就テ觀察スルモ其初發即チ僅々二三ノ患者ニ過キサルノ時ニ於テ迅速
之ヲ撲滅ニ着手シ且其消毒法ノ綿密周到セルモノハ常ニ其結果ヲ呈シ又未タ該病發生
ヲ見サル所ニ在テハ清潔其他ノ豫防法ヲ施行シ遂ニ其傳染ヲ免レシハ皆機會時期ヲ失
ハサルニ由ル然レモ其初發ニ於テ消毒豫防ヲ等閑ニシ毒焰熾盛ノ後ニ及テ假令非常ノ
力ヲ盡スモ兇勢猛烈復タ制スヘカラサルハ實驗ニ徴シテ明カナリ故ニ虎列刺病未發ノ
時ニ於テハ攝生清潔ヲ力メテ常ニ之ヲ豫防ヲ爲シ若シ一朝該病發生スルヲ認メナバ其
未タ流傳セサルニ先タチ急ニ主務吏員ニ於テ撲滅ノ方法ヲ施行スルハ勿論一層攝生清
すヲ謀リ苟モ該病誘發ノ虞アルモノヲ除外シ以テ虎列刺病毒ノ侵襲ヲ防ク一殊ニ必要
ナリトス

第一章

豫防準備

一般傳染病ヲ豫防スルハ人民各自ニ於テ常ニ攝生潔清ヲ行ハシムルハ勿論殊ニ例年炎
暑ニ向ントスルノ前及其交通アル地方ニ虎列刺患者アル時ニ方テハ尙更之ヲ勸奨シ各

家互ニ注意セシメ苟モ該病誘發ノ媒介ト爲ルモノヲ却ケ自衛ノ念ヲ喚起セシメ又互ニ
注意シテ隱匿ノ弊ヲ去レハ其豫防上ニ功績ヲ收メ得ヘキハ敢テ疑ヲ容レザル所ナリ平
素此念ヲ保タシメバ一旦發病者アルモ檢疫ノ施設便利ニシテ災ヲ一小点ニ息滅スルコ
トヲ得ヘシ而シテ流行時ニ至リテハ無病地ヨリ有病地ニ出稼ノ者其病毒ノ傳染ヲ避ケ
ンカ爲メ毒ヲ懷テ歸郷スルヨリ病毒ヲ輸入スルモノ間々之アリ依テ是等ニ注意スルコ
ト殊ニ肝要ナリトス

第一條 區戶長ハ各町村内ニ便宜組合ヲ編成シ常ニ清潔掃除及虎列刺病豫防消毒ノ實
施ニ就キ約束ヲ設ケ之ヲ履行セシムルヲ要ス

第二條 區戶長ハ所轄地外ノ遠近ニ拘ハラズ所轄地ト交通アル場所ニ虎列刺患者アル
カ又ハ該病流行ノ兆アルトキハ石炭酸水稀硫酸昇汞水等ノ如キ消毒藥及其他檢疫ニ
屬スル要具ヲ備置キ其交通上ヨリ病毒ヲ侵入セシメサルニ注意シ且組内ヨリ該病流
行スル地ニ出稼人ノ有無及組内互ニ該患者ノ有無ニ注意セシムルヲ要ス若シ該病ア
ル地ニ往來シタル者下利ヲ爲シタル場合ニ於テハ其消毒等虎列刺病ニ同様ナル處置
ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ組内ナシテ相當ノ方法ヲ設ケシメ大糞池等消毒ニ困難ナ
ル厠園ニ上ラシメス成ルヘク小糞池ヲ設ケシメ且吐瀉物ヲ大糞池等へ投棄セシメサ
ルヲ可トス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ區戶長ハ各組合約束ノ履行ヲ監査シ該病豫防消毒ノ要領
ヲ各組合ニ説示スルヲ要ス

△衛生○改正虎列刺病豫防消毒方心得書

第二章

撲滅法

虎列刺患者發シタルトキ其消毒撲滅法ヲ實施スルハ主トシテ巡查町村吏擔當スルモノナレトモ此場合ニ於テハ必ス經驗ニ富ミタル衛生課員警部若クハ郡書記之ヲ監督セサルヘカラス其實務者ノミニ放任シテ其監督ヲ怠ル時ハ爲ス所其方法ヲ得ス勞多クシテ効寡ナシ况ヤ豫防消毒不充分ナルトキハ其害一所ニ止マラス忽チ病毒ヲ散亂シ其災害ノ及フ所測ルヘカラサルニ於テオヤ而シテ該病豫防撲滅ノ實施ヲ周密活潑ニシテ其効績ヲ確カムルニハ時々高等官ノ巡視ヲ最緊要ナリトス

第四條 虎列刺患者發生シタルトキハ直ニ豫防消毒法ヲ實施シ置キ傍ラ其患者ハ傳染シタルモノナルヤ特發シタルモノナルヤヲ探知スル爲メ左ノ事項ヲ問フコトヲ要ス

一 發生ノ時日

二 發病前當人及家内ノ者他ノ該病アル所ヘ行キシコトアリヤ且其所ニ於テ飲食セシコトアリヤ

三 該病アル所ヨリ來リシ物品ナキヤ

四 近頃該病アル地ヨリ客來若クハ職人婢僕ノ傭入ヲ爲セシコトナキヤ

五 曾テ其家ニ該病アリシコトナキヤ或ハ近頃下利ヲ患ヒシモノナキヤ

六 曾テ近隣ニ該病アリシヤ又ハ現在該病アリヤ
以上ヲ質問シ其傳染シタルモノナルカ又ハ特發シタルモノナルカヲ明カニスヘシ而シテ傳染ノ來歴正シク知レサルモ決シテ豫防消毒ニ怠ルヘカラス當時傳染ノ證據詳

ナラサルモ後日ニ至リテ之ヲ發見スルコトアリ又終ニ傳染ノ迹詳ナラサルモ之ヨリ他ヘ傳染スルコトアルハ往々見ル所ナレハナリ

第五條 傳染ナルト特發ナルトニ拘ラス其最初ニ在テハ速ニ嚴重ノ手段ヲ施シ患者ハ第三章ニ依リ取扱ヒ第七章ニ依リ充分ノ消毒法ヲ行ヒ一家限リニ之ヲ撲滅スルナカムヘシ此場合ニ於テハ醫員ヲシテ該家及近隣ヲ巡診セシメ攝生法ヲ諭示シ殊ニ飲食ヲ戒慎セシムル等諸般ノ注意ヲ怠ルヘカラス

第六條 前條ノ場合ヨリ愈々患者ヲ發生シ該病傳播ノ兆アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ設ケテ必要ノ場所ヘ派出シ消毒ノ實施ヲ監督セシメ且豫防上ニ於テ各所互ニ脈絡ヲ通セシムヘシ又祭禮等ノ如キ人民ノ群集飯食スル事項ニ注意シ醫師ヲシテ吐瀉ノ患者ヲ届出サシムヘシ但本文ノ場合ニ於テハ第五條ノ方法ヲ充分施行スルハ勿論一局部ノ遮斷ヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ第六章ニ從テ之ヲ施行スヘシ

第七條 隣府縣及交通アル府縣ニ虎列刺病刺アリテ自府縣ヘ患者及死者ヲ輸入シタルトキ又ハ歸府縣後發病シタル者アルトキニ於テハ第五條第六條ノ方法ニ依リ充分消毒撲滅ヲ力ムヘシ

第八條 船舶ノ交通アル府縣ニ該病流行スルノ通知ニ接スルトキハ地方長官ハ直ニ要港ヘ主務吏員ヲ派出シ傳染病豫防規則第十三條ニ據リ充分注意セシメ若シ患者アルヲ探知シタルハ第五條ニ依リ速ニ處置スヘシ又下宿、旅人宿、殊ニ木賃宿、安宿等ニハ日々主務吏員ヲ派遣シ行旅人ノ吐瀉病ニ罹ル者ナキヤ否ニ注意セシムヘシ

△衛生○改正虎列刺病豫防消毒方心得書

第九條 隣府縣及直接交通アル府縣ニ該病流行スルモ未タ病毒ヲ流傳セサル場合ニ於テハ地方長官ハ該病アル地方ヨリ通路ニル當要衝ノ地又ハ停車場ニ主務吏員ヲ派出シ行旅人ニ注意セシメ該患者死者若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ應當ノ處置ヲ爲サシムヘシ但一般通行人ヲ引留メ石炭酸水ヲ撒注シ又ハ診察ヲ爲スカ如キ事ヲ要セス

第十條 自府縣ニ於テ該病流行スルトキハ速ニ隣府縣及交通アル府縣ヘ電報シ若シ流行地ト直接スル土地其管轄廳ニ遠隔シタルトキハ最寄郡區役所又ハ警察署ニ併セ通報スルヲ要ス

第十一條 寄留舎、旅人宿、下宿屋、人足部屋、貧院、囚獄等ノ如キ多人數群居スル家ニ患者發生シタルトキハ先ツ同室者ノ外出散亂ヲ禁シ直ニ患者ヲ隔離シ其室ハ勿論必要ト認ムル場所ニハ消毒ヲ充分施行シ其同室者ハ一々入浴セシメ同室者ノ衣類夜具等病毒ニ汚染シタルモノ若クハ其疑アルモノハ第七章ニ依リ消毒スヘシ且患者ト隔離シタル日ヨリ起算シ五日間同所ニ滞留セシメ他ト交通ヲ絶チ同症ニ罹ルナキヤ否ニ注意スヘシ若シ其場所狹隘ナルカ又ハ都合ニ依リテハ他ノ一家ヲ以テ之ニ充テ其家ニ分居セシムルカ若クハ悉ク其家ニ移シ居ラシムルモ妨ナシ

又學校、寺院、劇場等ノ如キ多人數群集スル場所ニ該病者アリタルハ患者ハ直ニ隔離シ病毒汚染ノ虞アル者ハ一時之ヲ止メ相當ノ消毒ヲ爲シ宿所氏名並其行先ヲ聞キ其旨ヲ行先ノ檢疫委員ニ通知スヘシ

第十二條 日本形諸船舶中ニ該患者死者アリタルトキハ其吐瀉物ヲ何ノ處ニ投棄シタルカヲ查明シタル上患者ハ陸上ニ於テ避病ニ適當ノ場所ニ送り死者ハ消毒ノ上火葬ノ手續ヲ爲スヘシ又其船舶ハ相當ノ消毒ヲ施シ且旗號ヲ立テ人家及他ノ船舶ヲ遠リタル所ニ碇泊セシメ又飲食起臥ヲ共ニシタル同船者ハ消毒ノ上其船中又ハ離隔所ニ五日間滞留セシメ同症ニ罹ルナキヤ否ヤニ注意スヘシ

瀛軍中ニ該患者死者アリタルトキハ前項ニ準シ其取扱ヲ爲シ病毒汚染ノ虞アル同室者ハ消毒ノ上其宿所氏名並其行先ヲ聞キ其旨ヲ行先ノ檢疫委員ニ通知スヘシ

第十三條 吐瀉物ヲ河中ニ投棄シタルコトヲ認知シタルトキハ其下流ニ於テ當分其水ヲ飲料洗濯用トスルヲ止メ若シ已ムコトヲ得サレハ煮沸シテ用ヒシムヘシ

第三章 患者取扱

虎列刺病毒ヲ蔓延セシムルハ多クハ該病流行時ニ方リ前驅下痢若クハ吐瀉ヲ發スル者アルモ醫師ノ診察ヲ受ケサルヲ以テ虎列刺病タルヲ知ラス尋常ノ下痢若クハ吐瀉ト心得隨意ニ他人ト交通シ又僕婢雇人ニシテ下痢若クハ吐瀉スル者アルトキハ該主人ニ於テ虎列刺病ナランカヲ懸念シ請人ニ引渡シ又ハ實家ニ送ル等ヨリ兎角病毒ヲ散蔓セシムルコト比々之アリ且虎列刺病ト判明スルモ患者取扱ノ不注意ヨリシテ亦傳播ヲ促スコト渺カラサルヲ以テ左ノ各條ヲ施行セシムルコト緊要ナリ

第十四條 虎列刺患者ハ勿論該病流行時ニ當リテハ吐瀉若クハ下痢アル患者ノ吐瀉物汚染物等ハ之ヲ一所ニ集メ置キ散亂セシメス且醫師若クハ掛官ノ出張スル迄該患者

△衛生○改正虎列刺病豫防消毒方心得書

ナ他ニ移サシメス又家族親族タリ疝看病者ノ外妄リニ室内ニ立ハラシメサルヲ要ス
第十五條 虎列刺患者アルトキ左ノ各項ニ該當セサル者ハ患者ヲシテ避病院ニ移シ治
療ヲ受ケシムルヲ要ス但其該當スル者モ掛官ニ於テ特ニ病毒傳播ノ虞アリト認ムル
場合ニ於テ避病院ニ入ラシムルヲ可トス

- 一 家族ノ居間及臺所ヲ通行セスシテ至リ得ヘキ病室ヲ有スル者
- 二 特別ノ看病人アル者
- 三 特別ノ家具什器ヲ有スル者
- 四 充分ノ消毒法ヲ實施シ得ル者
- 五 主治醫アル者

第十六條 避病院ニ送ルヘキ患者ハ釣臺又ハ戸板等ニ布圍ヲ敷キ風通シ善キ日除ヲ備
ヘ之ニ載セ吐瀉物ヲ受クルモノ及氷若クハ冷水ヲ備フヘシ且此際付添看病ヲナサン
トスル者アラハ之ヲ許スモ妨ナシ

第十七條 第十五條ニ依リ自宅治療セシムルハ豫防消毒ヲ一層周密ニシ衛生官吏警
察官又ハ檢疫委員ノ設ケアルハ該委員時々之ヲ見廻ルヲ要ス

第十八條 患者アリシ家ノ家族及看病人等ノ如キ患者同家ノ者若クハ該家ニ交通シタ
ル者ニシテ下痢若クハ吐瀉シタルトキハ其吐瀉物及汚染物ニハ虎列刺患者ノモノト
同様ノ消毒ヲ爲スヲ要ス

第十九條 吐瀉物及汚染物ヲ取扱ヒ若クハ患者ニ觸レタル者ハ直ニ他ノ物品ニ觸ルヘ

カラス豫メ鉢又ハ桶ノ類ニ弱石炭酸水ヲ入レ置之ニテ手ヲ洗フヘシ又患者ヲ取扱フ
際自己ノ衣服ヲ患者ノ吐瀉物等ニ觸レサル様注意スルヲ要ス

第二十條 吐瀉物等ヲ拭フニハ燒棄シテ妨ナキモノヲ用フヘシ而シテ其使用シタルモ
ノハ吐瀉物受器ニ入レ稀硫酸ヲ注クヘシ

第二十一條 該患者アリタルトキ病毒汚染ノ疑ナク且患者ニ必要ナラサル物品ハ總テ他
室ニ移サシメ消毒施行ノ際無益ノ手数ヲ煩サ、ルヲ要ス

第二十二條 該患者必要ノ器具(藥用品食用品等)ハ其室内ニ於テ使用シ他ニ出サシメサ
ルヲ要ス

第二十三條 患者ノ室内ニアリタル飲食物ニシテ吐瀉物ニ汚染セシモノハ勿論其疑アル
モノモ吐瀉物同様ニ處置スルヲ要ス且患者ノ食膳ニ上リタル殘餘食物モ亦同様處置
スルヲ要ス

第二十四條 吐瀉物受器ハ二通りニ備ヘ置豫メ稀硫酸ヲ容レ甲器ノ吐瀉物滿ツルニ先チ
乙器ト交代シ室内ニ置クヘシ但此受器ハ金屬製ヲ用ユヘカラス

其吐瀉物ハ別ニ室外ニ備ヘアル吐瀉物溜(瓶、桶、明キ樽等ニシテ滲漏ノ虞ナキモノ)
ニ移シ尙稀硫酸ヲ注キテ燒却ノ手續ヲ爲スヘシ但吐瀉物溜ニハ必ス蓋ヲ爲シ置蚊蠅
ヲ防クヘシ且下水井戸ノ近傍ニ置クヘカラス

第四章

檢疫委員

虎列刺病ノ豫防撲滅ヲ圖ルニハ專務者ヲ置キ之ニ從事セシムルニアラサレハ到底其目

△衛生○改正虎列刺病豫防消毒方心得書

的ヲ達シ得ヘカラス是レ檢疫委員ノ設置ヲ必要トスル所以ナリ

第廿五條 檢疫委員ハ第六條該病傳播ノ兆アル場合ハ勿論隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行シ傳播ノ恐アル場合ニ於テ之ヲ設クヘシ

第廿六條 檢疫委員ヲシテ取扱ハシムヘキ重ナル事項左ノ如シ

- 一 該病ノ傳染ナルヤ否ヲ探知スルコト
- 一 傳染ト特發トヲ問ハス第五條ニ依リ速ニ充分ノ處置ヲ爲スコト
- 一 消毒藥及其要具ヲ準備スルコト
- 一 消毒藥ノ種類配合用量ニ注意スルコト
- 一 消毒法ヲ實地ニ就キ監督スルコト
- 一 必要ノ場合ニ於テ毎病家ニ就キテ交通遮斷ノ取締ハ勿論一局部限リ遮斷シ得ヘキヤ否ノ鑑別及其實施ヲ監督スルコト
- 一 遮斷地内救助ニ注意スルコト
- 一 遮斷地内清潔法ヲ監督スルコト
- 一 避病院ヲ巡視スルコト
- 一 醫員巡診法ヲ經畫スルコト
- 一 患者ヲ隔離シ又ハ同室者ヲ患者ヨリ隔離スルコト
- 一 攝生法、飲料水、飲食物及清潔法ノ豫防上要用ナル件ヲ諭示スルコト
- 一 特ニ寄宿舍、旅人宿、下宿屋、人足部屋、貧院、囚獄等ニ注意スルコト

第廿七條 檢疫委員及其他豫防ニ從事スル者ハ成ルヘク特別ノ消毒衣ヲ着用シ病毒汚染ノ虞アルニ毎ニ之ヲ脱シ充分消毒法ヲ行フヘシ

第五章 避病院附隔離所

避病院ハ患者ヲ治療スルト病毒ヲ他ニ散蔓セシメス一所ニ隔離シテ豫防スルトノニツノ目的ヲ達スルカ爲メニ設クルモノナリ

然ルニ動モスレハ避病院ヲ嫌忌スルノ感ヲ惹クモノ間々之アルカ故ニ患者取扱方ニハ殊ニ親切ナルヲ要ス

隔離所ハ患者ト同家ニアリタル者又ハ病毒ニ傳染シタルヤノ疑アル者ヲ隔離シ潜伏ノ有無ヲ試ルノ所トス

第廿八條 人口周密ノ市街ニ於テハ何時ニテモ開院シ得ヘキ避病院ヲ成ルヘク市外ニ準備シ置クヲ要ス且村落ニ於テモ第五條第六條ノ如キ場合ニハ新ニ避病院ヲ設ケ又ハ相當ノ家屋寺院等ヲ避病院トシ若クハ隔離所トスヘシ其距離ハ道路ノ便ヲ計リ餘リ僻遠ニ過キサルヲ可トス又偏僻ノ村落ニ在テ一家中數名ノ患者ヲ發シ又ハ連檐ニ患者發生シタルトキハ土地家屋ノ狀況ニ依リ健康者ヲ他ニ隔離スルノ便方アルヘシ
第廿九條 入院患者ノ家族等ニシテ面會ヲ申出テ若クハ付添看護ヲ乞フ者アルトキハ醫員其他ニテ其心得方ヲ諭示シ之レヲ許スヘシ
第三十條 市街ニ屬スル避病院掛員ハ當直醫調藥生世話掛各壹員以上ヲ置キ且看護者、小使、排泄物取扱人ヲ分科シテ置カサルヘカラス又附人ハ一切病室ニ立入ラシムヘ

カラス村落ニ於テハ之ニ準シ簡易ニスルモ妨ナシ但掛員看護者等ノ身体疲勞シタル者ハ休息セシムルヲ要ス

第三十一條 私ニ避病舎ヲ設ケ該患者ヲ入室治療セシムルハ妨ナシト雖モ其場所及消毒其他ノ方法ハ府縣長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六章

交通遮斷

交通遮斷トハ醫師檢疫委員看護人神佛敎師等職務上必要ノ者ノ外交通ヲ許サ、ルヲ云フ抑虎列刺患者ハ患者僅少ナル時期ニ於テ撲滅セス一旦散蔓セシムルトキハ之ヲ防遏スルコト極メテ難シ故ニ其初發ニ在テ之ヲ一人ニ於テ撲滅シ若シ一人ニ於テ撲滅シ能ハサルトキハ一家ニ於テ撲滅シ一家尙能ハサルトキハ一村一部落ニ於テ撲滅スルヲ力ムヘシ是レ交通遮斷ノ止ムヘカヲサル所以ナリ然ルニ此方法ハ該病發生ノ最初ニ於テ之ヲ實施シ病毒ヲ撲滅スルニ最モ効アリト雖モ該患者各所ニ散發シ若シクハ其流行數町村ニ互リ己ニ蔓延セシ時ニ及テハ局部遮斷ヲ施行スルハ極メテ困難ナルノミナラス利害相償ハサルモノアルカ故ニ遮斷ハ實務者ニ於テ極メテ精細ナル注意ヲ要ス

第三十二條 虎列刺病發生ノ初ニ於テハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルヲ要ス

- 一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルハ其狀況ニ依リ病家ヲ遮斷スルヲアルヘシ
- 二 市街村落ノ一部ニ於テ該患者陸續發生シ漸次他ニ傳播スルノ恐アルニ方リ地方

長官ハ交通遮斷施行ヲ以テ病毒ノ蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムル場合ニ於テハ土地ノ狀況ニ依リ傳染病豫防規則第十五條ニ從ヒ經伺ノ上其局部ヲ遮斷ス

第三十三條 交通遮斷ヲ施行シタル場合ニ於テハ其見易キ標記ヲ貼シ遮斷ノ區域ヲ明示スルヲ要ス

第三十四條 遮斷ヲ實施シタルハ郵便物日用品ノ類ハ相當ノ取扱人ヲ設ケテ其用ヲ辨セシムヘシ

第三十五條 遮斷部内ニ在ル者ハ常ニ身体ヲ清潔ナラシメ衣類夜具ハ日光大氣ニ曝シ垢レタル衣類ハ屬々洗濯セシムヘシ若シ着換ナキ者アレハ相當ノ方法ヲ設ケテ之ヲ爲サシムルヲ要ス

第三十六條 遮斷部内ノ家屋ハ戸障子ヲ開キテ室内常ニ日光大氣ヲ通セシムルヲ要ス

第三十七條 遮斷部内ハ時々醫員ヲシテ患者ノ有無ニ注意セシメ下痢若シクハ吐瀉ノ患者アリタルハ其吐瀉物汚染物ハ虎列刺病者ノモノト同様ノ消毒ヲ爲シ又殊ニ飲食物ニ注意セシムルヲ要ス

第三十八條 患者ノ吐瀉止ミ或ハ死亡シ或ハ之ヲ他ニ移シタル日ヨリ起算シ五日ヲ經過シテ異常ナキトハ遮斷ヲ解クヘシ

第七章

消毒藥ノ種類及消毒ノ方法

消毒法ハ消毒藥ノ種類用量配伍等其當ヲ得サルハ消毒ノ効ナキノミナラス消毒濟ノ安心ヨリシテ其後ノ注意ヲ欲キ却テ病毒ノ蕃殖ヲ逞フセシムルハ憂ナシトセス故ニ主

△衛生○改正虎列刺病豫防消毒方心得書

務吏員ニ於ハ其藥力ノ消毒ヲ撲滅シ得ヘキ適當ノ種類用量ニ從ヒ決シテ石炭酸ノ臭氣
硫酸ノ沸騰等其現像ヲ皮相シテ消毒ノ濟否ヲ斷定スルノ不注意ナキヲ要ス
第三十九條 消毒藥ノ種類及消毒ノ方法左ノ如シ

- 一 強石炭酸水(石炭酸五分水百分)ハ消毒後使用スル衣類器具等ニシテ變色毀損ヲ
忌ムモノ、消毒ニ用ヒ又稀硫酸缺乏シタル場合ニ於テハ吐瀉物糞池及其周邊ノ
消毒ニ用フ
- 一 石炭酸ヲ溶解スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水一分ヲ加ヘ振蕩シテ澄明ノ液ト爲シ
徐々ニ水ヲ注キツ、攪拌スレハ一時濁ヲ生シ遂ニ其水量ニ百分ニ達スルニ至
リ全ク溶解シテ澄明ノ液ト爲ル是即チ強石炭酸水ナリ但温湯ヲ用フレハ其溶解
殊ニ速カナリ
- 一 弱石炭酸水(石炭酸二分水百分)ハ手足等ノ拭淨「スプレー」等ニ用フ此液ハ強石
炭酸水一分ニ水一分五厘ヲ加ヘテ之ヲ製ス
- 一 稀硫酸(硫酸二十分百分)ハ吐瀉物糞池及其周邊下水其他總テ變色毀損ノ憂ナキ
モノ、消毒ニ用フ其價廉ニシテ消毒ノ効較著ナルモノトス
稀硫酸ヲ製スルニハ百分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫
酸二十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス
稀硫酸ヲ糞池ニ入ルレハ沸騰ヲ起シ糞便流溢スルノ恐アリ依テ糞便多量ナルト
キハ其半量ヲ他ノ器ニ移シ各別ニ消毒スヘシ

一 格魯兒石灰水(即煇化石灰水)(格魯兒石灰四分水百分)ハ芥溜下水土間ノ消毒ニ
用フ本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

- 一 昇汞水(昇汞一乃至二分稀硫酸三分水百分)ハ吐瀉物ニ汚染シタル物品ニシテ燒
却スヘキ者床下及屍体ニ係ル消毒ニ用フ但糞池及吐瀉物ニ用フヘカラス
本品ハ猛毒ニシテ且無色無臭ナルヲ以テ使用者ノ不注意ニ由リテハ大害ヲ醸ス
テアリ此故ニ使用ノ際殊ニ注意スヘシ且食料水ニ滲透スヘキ場所ニ決シテ撒注
ス可ラス
本品ハ百分ニ硫酸銅一分ヲ加フレハ藍色ノ水トナリ一見ノ昇汞水ナルヲ知ルヲ
以テ安全ナルヘシ尙此他昇汞水ノ効力ヲ失ハサル色素ヲ用ヒ着色スルモ妨ナシ
本品ハ磁器又ハ桶ニ貯フヘシ金屬ノ器ニ貯フヘカラス
以上ノ各消毒藥ニハ「劇シキ藥ナリ飲ムヘカラス」ト票記スヘシ
- 一 濕熱消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ一時間以上熱湯ニ浸漬シテ密蓋シ又ハ熱湯ニテ三
十分時間以上煮沸シ又ハ攝氏百度以上ノ蒸氣ニテ三十分時間以上蒸騰スヘシ
乾熱消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ攝氏百度以上ノ熱ニ觸レシムルヲ四十分時間以上
ナルヘシ
本法ハ消毒ノ上使用スヘキ物品ニシテ熱ニ堪ヘ能フモノ、消毒ニ用フ
- 一 亞硫酸薰蒸ハ室内ノ消毒及色ノ變セサル衣類器具等ノ消毒ニ用フ

第四十條 虎列刺患者ノ吐瀉物及汚染物ハ左ノ方法ニ基キ消毒法ヲ行フヘシ

△衛生○改正虎列刺病豫防消毒方心得書

- 第一 患者ノ吐瀉物ニハ其四分之一ノ稀硫酸ヲ混シテ攪拌スヘシ又汚染物ニノ消毒後使用スヘキモノニハ強石炭酸水ヲ注クヘシ其用量ハ物品ニ浸潤スルヲ度トス
- 第二 患者ノ通ヒタル便所ニハ糞量四分之一ノ稀硫酸ヲ灌キ攪拌シ糞便ハ汲取ラシメ燒却埋却ノ手續ヲ爲スヘシ但汲取ノ後糞池及其周邊ニハ尙充分ニ消毒藥ヲ灌クヘシ
- 第三 大糞池若クハ肥料溜等多量ノ糞便ヲ貯フル場所ニ患者吐瀉シ若クハ吐瀉物ヲ投棄シタルトキハ凡其糞量四分之一ノ稀硫酸ヲ混シテ能ク攪拌シ尙室内面及周圍ニ普ク稀硫酸ヲ撒去スヘシ
- 第四 該病家及近傍ノ下水芥溜又ハ土間縁先キ等吐瀉物ヲ放下シ又ハ吐瀉シタルノ懸念アル場所ニハ稀硫酸格魯兒石灰水等ヲ灌注シテ攪拌シ若クハ撒布シ塵芥等ハ燒却スヘシ
- 第五 吐瀉物受器及運搬器ハ昇永水又ハ強石炭酸水等ヲ灌注シテ洗淨シ該運搬人夫ノ衣類ハ之ヲ貸與シ其衣類ハ乾濕熱瀛又ハ強石炭酸水消毒ヲ行ヒ其手足ヲ弱石炭酸水ニテ拭淨シテ自己ノ衣類ト更ヘシムルヲ要ス
- 第六 吐瀉物ニ汚染シタルモノニシテ其燒却スヘキ物品大略左ノ如シ
 - 一 患者ニ被覆シタル衣類臥具蚊帳蔭及其平臥シタル場所ノ疊等吐瀉物ニ汚染シタルモノ
 - 二 看病人及同室者ノ衣類等ニシテ吐瀉物ニ汚染シタルモノ

右ノ物品ト雖正真正正ノ裝置ナル乾濕熱瀛消毒ヲ行ヒ又ハ一時間以上煮沸シタルモノハ之ヲ使用スルモ妨ナシ

第七

家屋ノ消毒手續左ノ如シ

- 一 患者ノ居室及其他消毒ヲ必要ト認ムル室ハ之ヲ密閉シ疊ナ上ケ亞硫酸蒸氣(八疊間ニ硫黃三百目ノ割合ヲ以テ三ヶ所ニ分チ燃燒シ少クモ二時間ヲ放置スヘシ)ヲ行ヒ若シ床及床下ニ吐瀉物滲漏シタル片ハ昇永水又ハ格魯兒石灰水等ヲ充分ニ灌クヘシ但同室内ニアリタル疊其外諸物品器具ハ同時ニ該蒸氣法以テ其消毒ヲ了スヘシト雖正鐵屬製器及時計類並ニ色ノ變スヘキ物品器具ハ之ヲ取除キ強石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

二

蒸蒸後室内ヲ掃除シ塵芥ハ皆燒却シ諸物品器具疊建物等ハ室外ニ出シテ日光大氣ニ曝シ而シテ弱石炭酸水ヲ以テ各所ヲ拭淨スルヲ要ス以上了リタル片ハ各室ヲ開放シ日光大氣ヲ通セシムヘシ

三

室内ノ構造裝飾等亞硫酸蒸氣ノ爲メ損傷ヲ來スヘキ虞アル場合ニ於テハ丁寧ニ強石炭酸水ヲ以テ拭淨シ且同室内ニアリタル物品器具ハ強石炭酸水ヲ以テ消毒シ數日開放シテ日光大氣ヲ通シ家人ノ起臥ヲナサシメサルヲ要ス

第八

病家ニ出張シタル主務吏員人夫等ノ足袋靴草履等ハ相當ノ消毒ヲ爲スニ怠ラサルヲ要ス

第九

患者發病前交通シタル家又ハ病家ニ交通シタル者ノ家ニシテ消毒ヲ必要ト認

メタル場合ニ於テハ左ノ消毒ヲ爲スヲ要ス但五日以上ヲ經過シ傳染ノ懸念ナシト認ムルハ之ヲ行ハサルモ妨ナシ

一 便所ニハ稀硫酸等ヲ撒布スル

二 家族ニハ悉ク入浴若クハ行水ヲ爲サシメ用ヒ居タル衣類ハ之ヲ着更ヘ洗濯セシムル

第十 患者ト同家屋ニアリタル者ハ該患者ヲ避病院ヘ離隔スルカ若クハ死亡シテ屍体ヲ取片付ケ若クハ全治シタル片ハ各自ノ衣類ニシテ病毒付着ノ疑アルモノハ之ヲ消毒シ入浴若クハ行水ヲ爲シテ身体ヲ清潔ナラシムヘシ

第十一 日本形船舶ニ於テ患者死者アリタルトキハ其吐瀉ヲ爲シタル場所ニ昇汞水又ハ強石炭酸水ヲ注キテ充分消毒ヲ爲シタル上吐瀉物ニ汚染シタル物品ハ本條第六項ニ據リ處置シ船体ハ一般ニ水若クハ海水ヲ以テ叮嚀ニ洗滌スヘシ

第十二 瀕車ニ於テ患者死者アリタルトキハ其吐瀉物ニ強石炭酸水ヲ注キ灰、砂ノ類ヲ其上ニ撒キテ之ヲ器物ニ移シ取り焼却シ其場所ニハ昇汞水又ハ強石炭酸水ヲ注クヘシ

第十三 死者取扱ハ其死体ニ被ヒタル蒲團又ハ衣類ニ昇汞水ヲ充分ニ撒キ次ニ其蒲團等ヲ除ケ着衣ノ上ヨリ尙充分ニ昇汞水ヲ撒キ之ヲ棺ニ入ル、ニハ燒却スヘシ衣類或ハ襪襪等ニ昇汞水ヲ浸シタルモノヲ死者ノ肛門部ニ敷クヘシ又棺ト死体トノ間隙アル所ニハ成ルヘク昇汞水ヲ浸シタル襪襪等ヲ(燒却スヘキ衣水ヲ注クヘシ

類等ヲ用フルハ尙可ナリ)以テ詰メ物ト爲スヘシ

第四十一條 消毒藥ハ病毒ヲ消滅スルニ緊要ノ物ナレハ流行時ニ方リ該患者ナキ家ニ徒ラニ石炭酸水ヲ撒布シ又ハ亞硫酸蒸ヲ爲シ又ハ通行人ニ石炭酸水ヲ撒注スルカ如キハ空シク消毒藥ヲ徒費スルノミニテ更ニ其効ナキモノナリ寧ロ其消毒藥ヲ備置キ下痢若クハ吐瀉スルモノアル場合ニ於テ直ニ便所ニ之ヲ注キテ消毒スル極メテ必要ナリトス

第八章 消毒的清潔方

一局部ニ數人ノ患者ヲ續發シ傳播ノ景況著キトキハ其部分ヲ畫シテ消毒的清潔方ヲ施行スル可トス

第四十二條 下水ハ稀硫酸又ハ格魯兒石灰水ヲ灌キ消毒シタル後水或ハ海水ヲ以テ洗滌シ其疏通ニ注意シ汚泥ヲ但滯セシメサルヲ要ス

第四十三條 芥溜ニハ先ツ格魯兒石灰水等ヲ撒布シテ之ヲ取除キ他ノ安全ナル場所ニ運搬シ其跡ニ又格魯兒石灰水等ヲ撒布シ置クヲ要ス

第四十四條 糞便ハ稀硫酸ヲ加ヘテ之ヲ汲取リ他ノ安全ナル場所ニ運搬シ糞池及其周邊ニハ稀硫酸ヲ注キ置キ爾後時々消毒藥ヲ撒布スルヲ要ス

第四十五條 不潔ノ家屋ハ大掃除ヲ爲シ器具ヲ出シ疊ヲ揚ケ日光ニ曝シ床下ノ不潔物ヲ除去スヘシ其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰等ヲ撒布スル可トス且戸障子ヲ開キテ空氣ヲ流通セシメ衣服臥具等ハ日光ニ曝シ其垢レタルモノハ洗濯シ且室内ヲ拭淨ス

△衛生○改正虎列刺病豫防消毒方心得書

ルヲ要ス

前數條ノ外特ニ開港場ノ主務者ニ必要ノ條項

第一條 直接ノ交通アル外國港ニ虎列刺病流行スルヤ否ヤニ常ニ注意シ若シ該病流行スルコトヲ偵知シ得タルトキハ直ニ内務省ヘ申報シ入港ノ船舶ニ注意シ内地ヘ病毒ヲ輸入セシメサルヲ要ス且何時ニテモ檢疫ヲ執行シ得ヘキ準備ヲ爲シ置クヘシ

第二條 未タ海港檢疫ノ告示ナキニ先チ自縣ヘ入港シタル外國船ニ該病アルコト明カナルトキ若クハ該病アル疑アルノ場合ニ於テハ船長若クハ領事ト協議シ其承諾ヲ經テ相當ノ手續ヲ爲シ外務内務兩省ヘ電報スヘシ且一般ノ豫防ニ付テハ其船舶ニ交通スル者ニ注意シ之カ取締ヲ爲シ又ハ上陸ノ者ニ注意シテ其交通セル人家ヲ取調置患者ノ有無偵知スヘシ但内國船ハ無論尋問シテ該病ノ有無ヲ知り規則ニ據リ之ヲ處置スヘシ

第三條 該病アルコト明ナル船舶若クハ該病アルノ疑アル船舶他府縣ヘ向ケ進航シタルトキハ其進航先キヲ取調其府縣ヘ事情ヲ悉シテ電報シ以テ豫防ノ便ヲ與フヘシ

○棄兒養育窮民恤救米支給報告方

明治二十年一月十五日訓令第十二號

郡區役所

棄兒養育窮民恤救米代之儀ニ付明治十三年十二月乙第二百三十九號ヲ以相達候處年給ノ者ハ三箇月分日給ノ者ハ一箇月分ノ米代金ヲ取調明細表ヲ添付シ支給前請求スル義ト心得ヘシ

但郡區役所ニ於テ其地前月平均下米相場ヲ以テ算出方及ヒ新タニ給與ヲ稟請シ異動之事由ヲ具申スル等總テ従前ノ如シ

明治二十年四月十四日訓令第九十九號

郡區役所

本年一月本縣訓令第十二號末文請求ノ二字ヲ報告ノ二字ニ改ム

○醫師產婆藥舖等轉居開業ノ并通報方

明治二十一年二月廿四日訓令第十九號

郡區役所

醫師產婆藥舖入齒々拔營業ノ者管内他郡區ヨリ轉居開業スル者アル并ハ其族籍氏名ヲ記載直ニ元住地ノ郡區役所ヘ通報スヘシ

類聚現行兵庫縣令訓全書第二編第六卷終

△衛生○棄兒養育窮民恤救米支給報告方○醫師產婆藥舖等轉居開業ノ并通報方 卅一

二十年訓令第九號ヲ以テ改正ス

明治廿一年九月十五日刻 成
全 年全月十八日出版御届

著作兼發行者

古 屋 宗 作

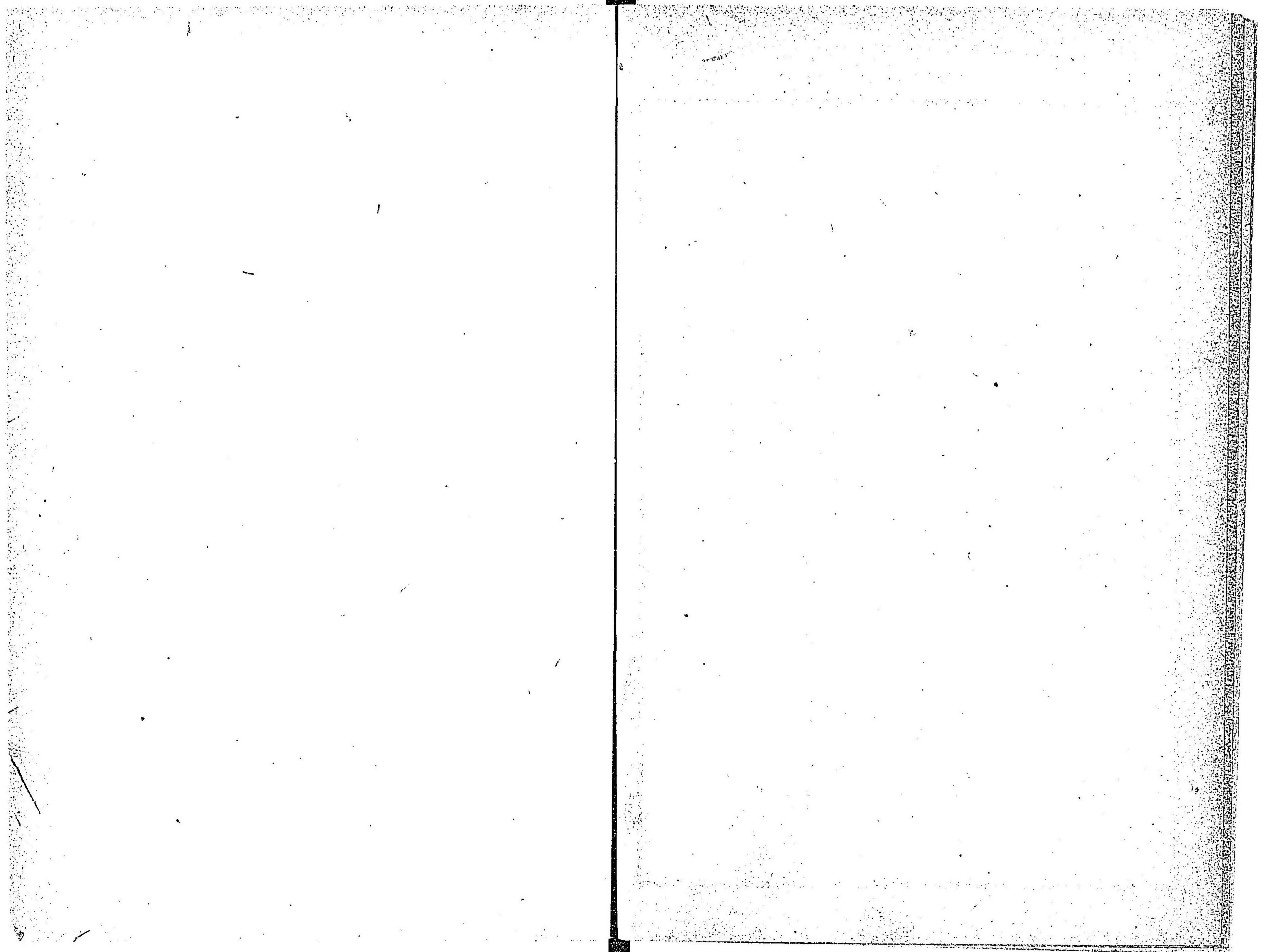
大坂府北區瀧川町
第四十一番屋敷

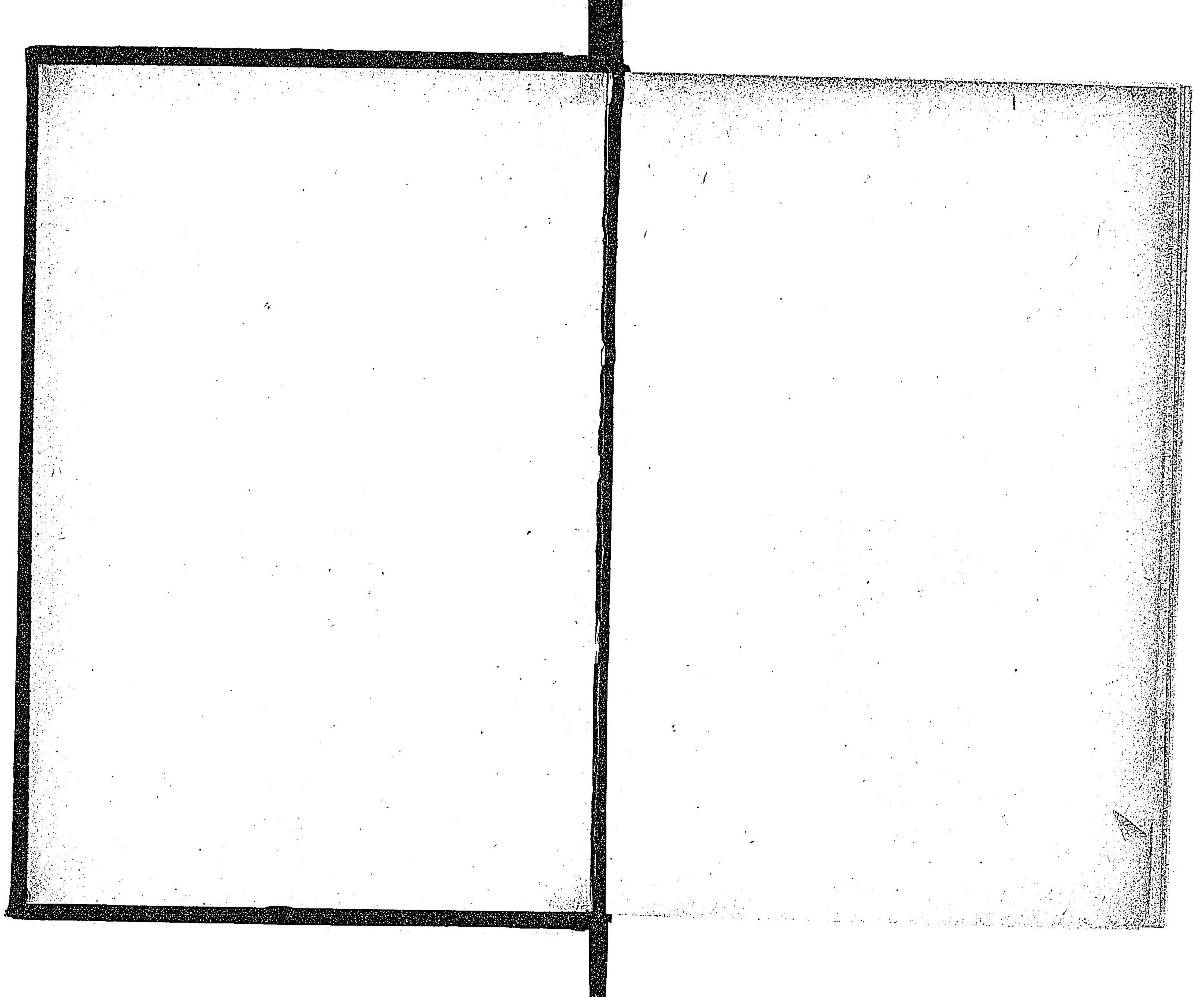
印刷所

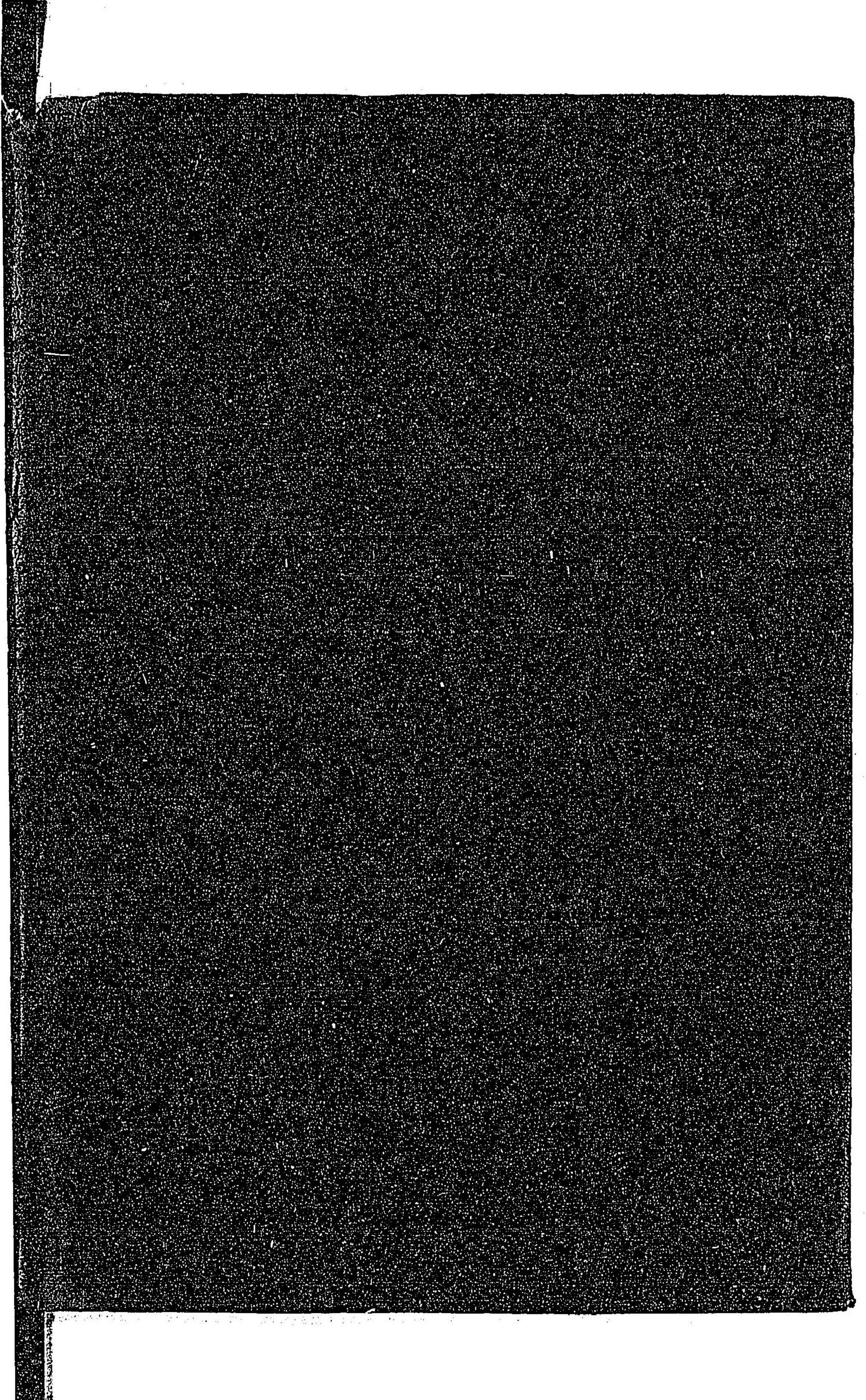
大坂東區北濱二丁目卅四番地
龍 雲 舍

賣捌所

同 備後町四丁目
博 聞 分 社







禁電子式複写

031411-001-6

CZ-1113-76-01

類聚現行兵庫縣令訓全書 第2編

古屋 宗作/著

上

M21

BBD-0792

